

volume

1

COMIC
Yansae
STORY
Tarcho

せ
ち
よ
ん
と
ば
く

生徒 健勝 町



volume

1

CONTENTS

第1話 ^せブルーヒルマンション1101号室

第2話 王国^い

第3話 僕の女王

第4話 男はあんただけじゃない

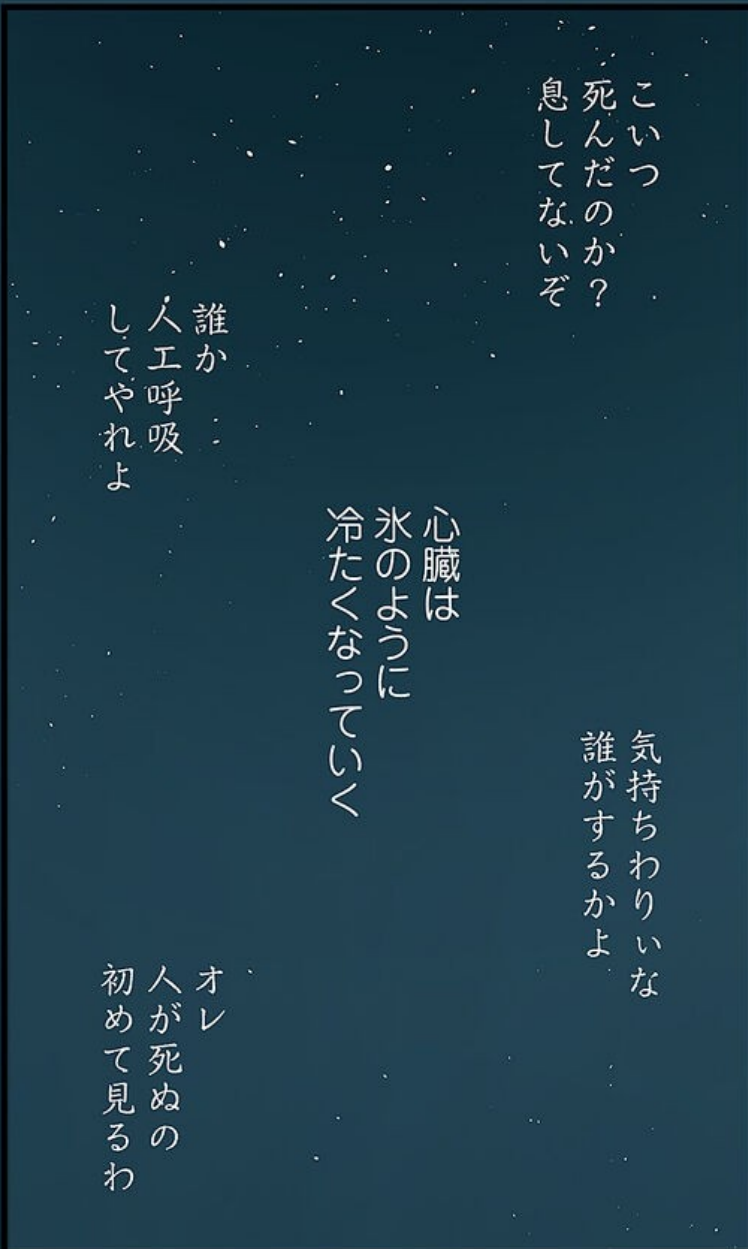
第1話 ブルーヒルマンション1101号室



指一本
動かすことも
できず



息はとうに
止まっていて



こいつ
死んだのか？
息してないぞ

誰か
人工呼吸
してやれよ

心臓は
氷のように
冷たくなっていく

気持ちわりいな
誰がするかよ

オレ
人が死ぬの
初めて見るわ

僕は今
死んで水中に
沈んでいる

少し前まで
聞こえていた
人々の声も



全て
消えてしまった

ここは
あまりにも
静かで平穏だ



僕はこのまま
なんの後悔もなく



19年の人生を
終えることが
できそうだ



ねえ：
みやしたけんじ
宮下賢司くん
だよね？

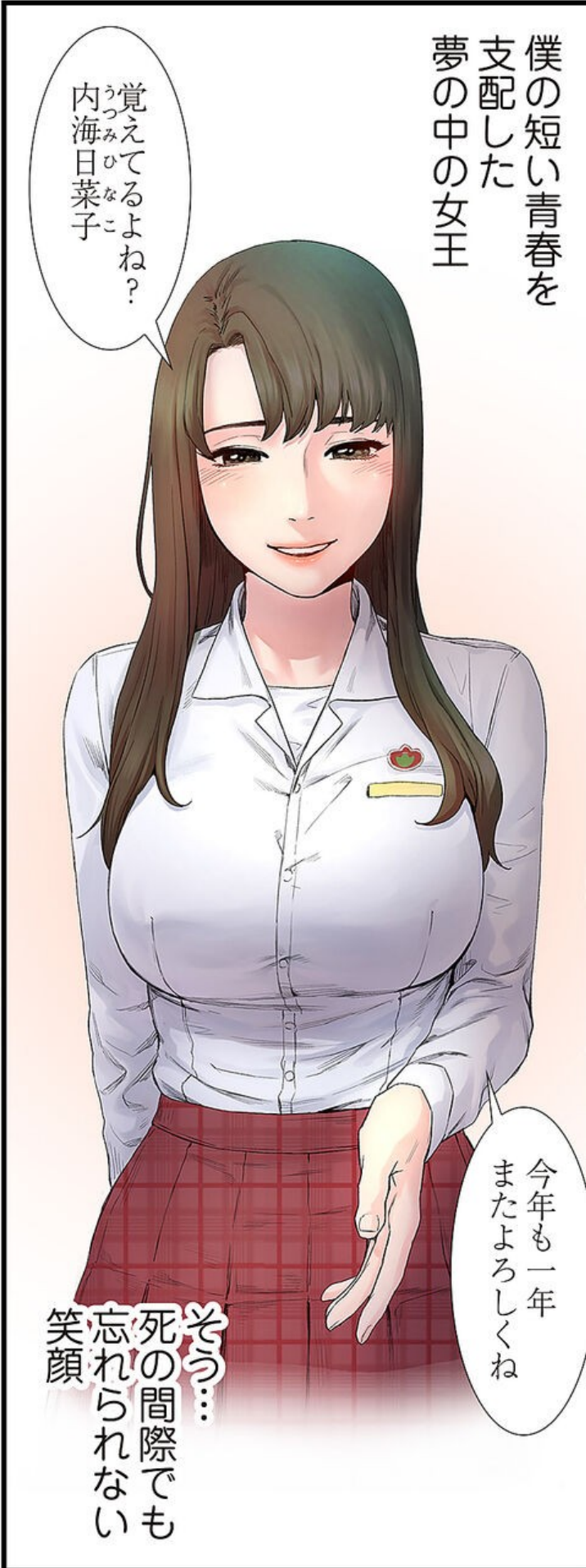


二年の時も
同じクラス
だったよね

それなのになぜ
あの子の顔が
思い浮かぶのだろう



うん：
そそうだね…



僕の短い青春を
支配した
夢の中の女王

覚えてるよね？
うつみひなこ
内海日菜子

今年も一年
またよろしくね

そう…
死の間際でも
忘れられない
笑顔



なぜかそれが
思い浮かんでしまう

このまま安らかに
死を迎えたいのに…



賢司!!

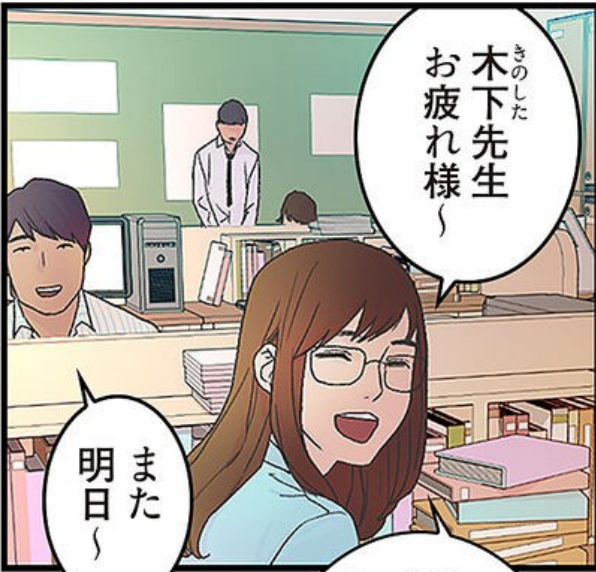
みんな
何してるのよ!!

賢司!!

しっかりして!!

賢司!

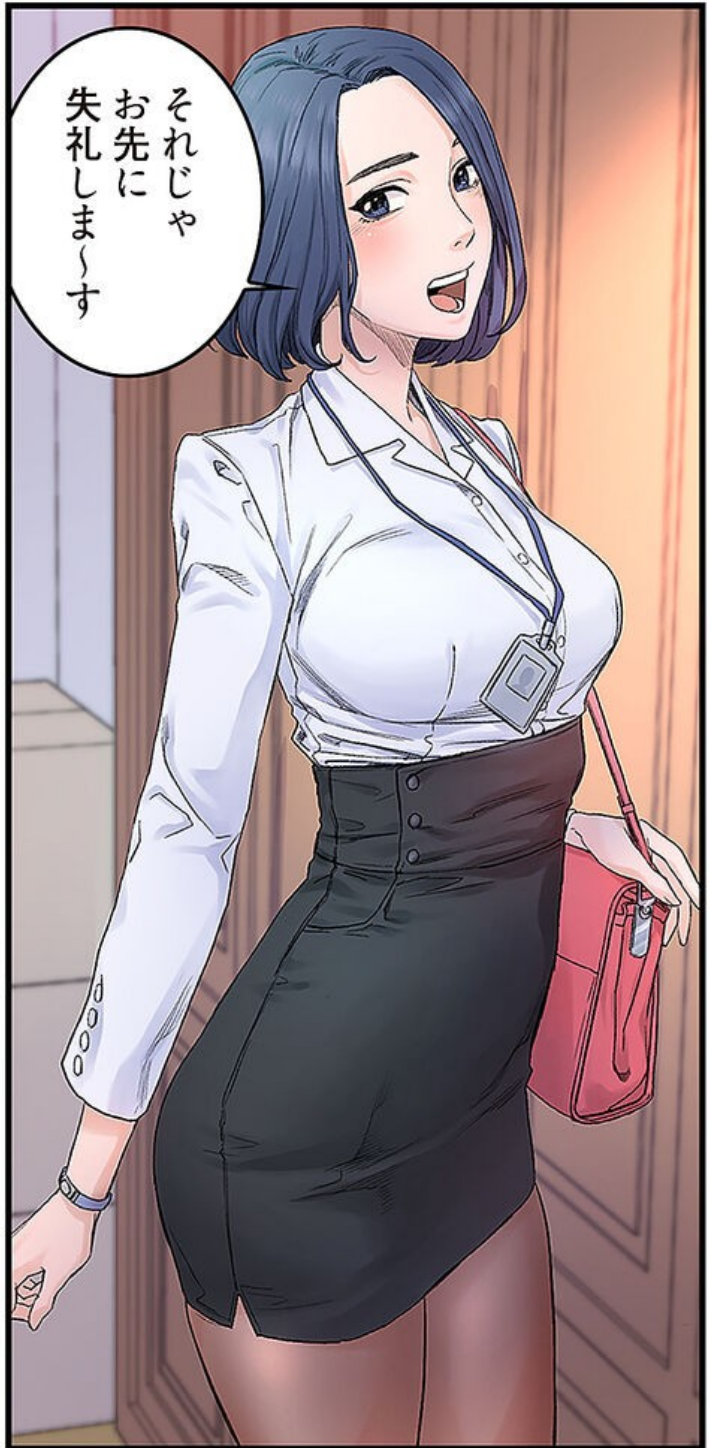




きのした
木下先生
お疲れ様

また
明日

一緒に飲みに行けなくて残念でも先約があるんじゃないわね



それじゃ
お先に
失礼します



...

きのしたあかり
…木下朱莉先生
彼氏とかいるのかな？
今年で28だろ？



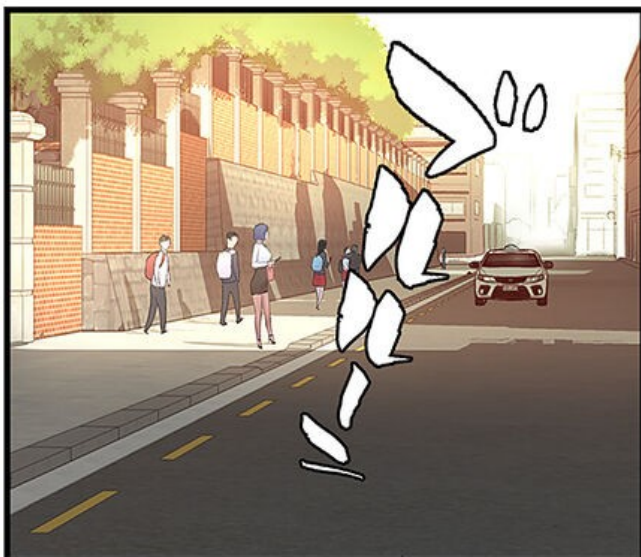
あの美貌で
公務員だものね
そこらの男じゃ
太刀打ち
できませんよ

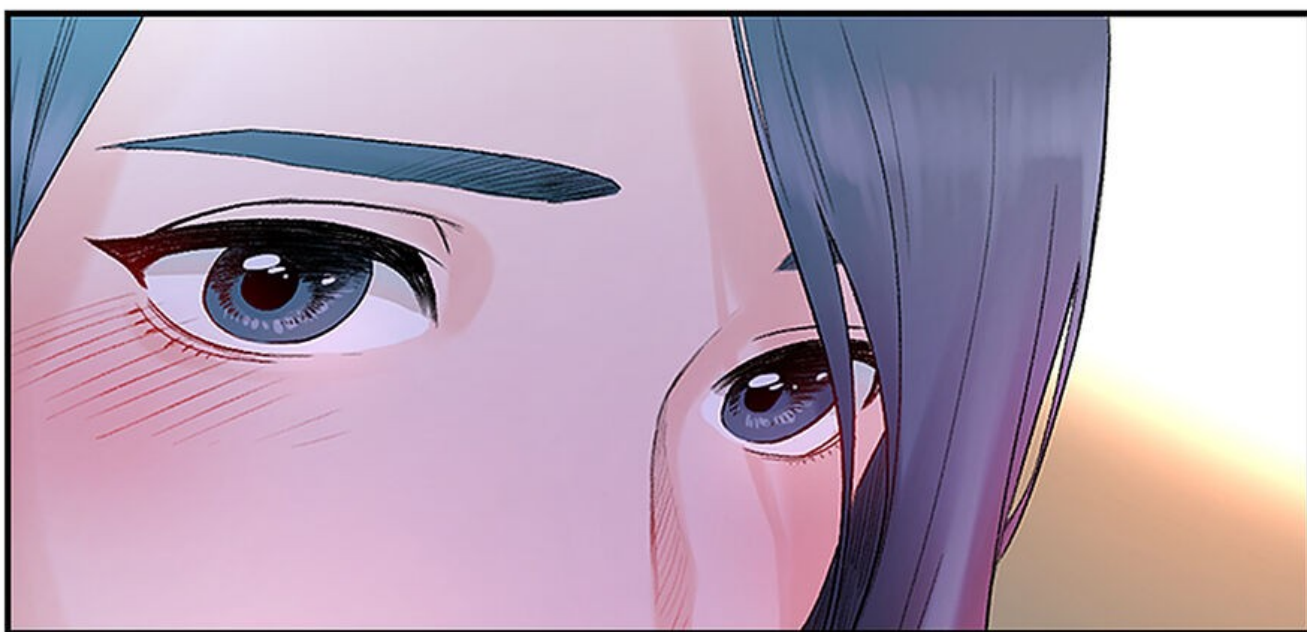
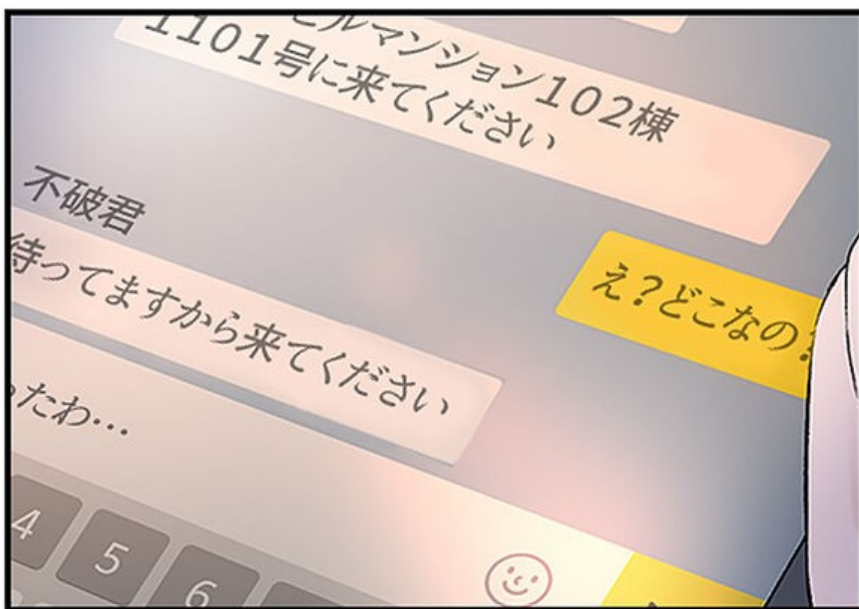
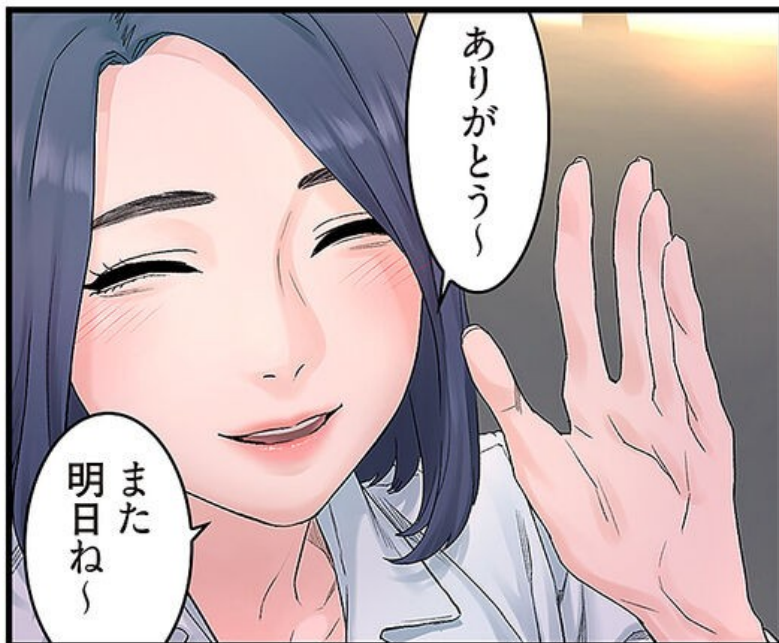
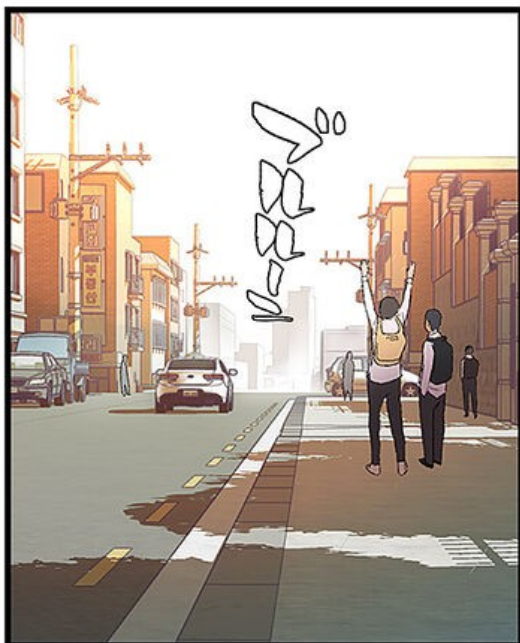
さあ…
誰か心当たり
ありますか？

心配
ご無用ですよ

才色兼備は
引く手あまたに
きまつてるもの





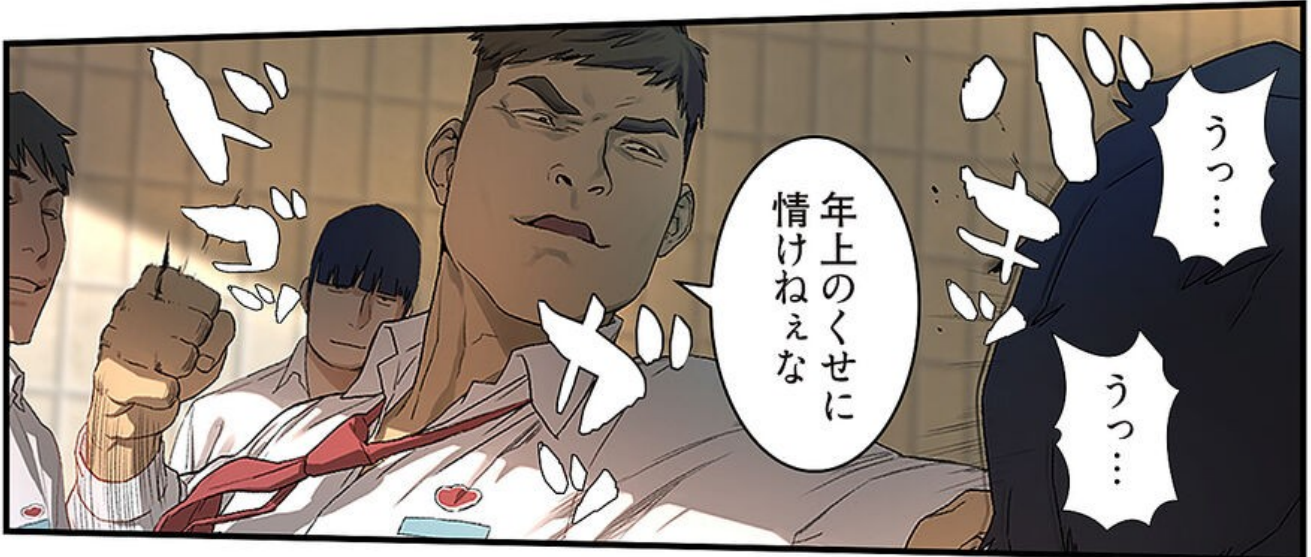




うっ…!

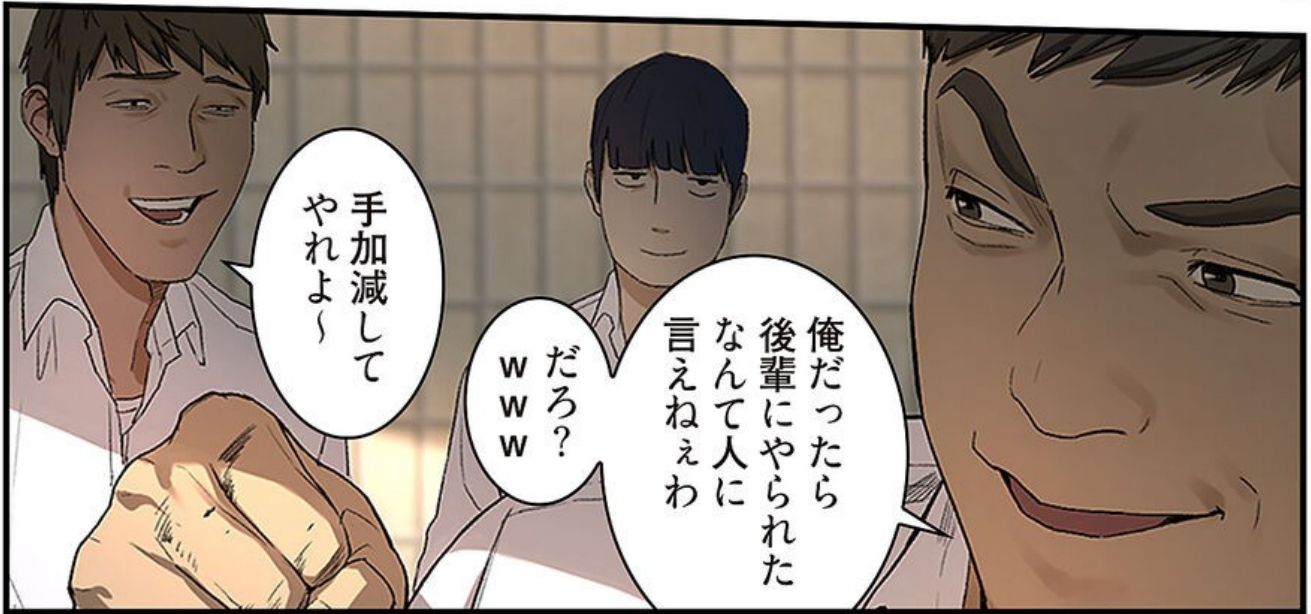


ブルーヒル
マンションまで
お願いします



年上のくせに
情けねえな

うっ…
うっ…

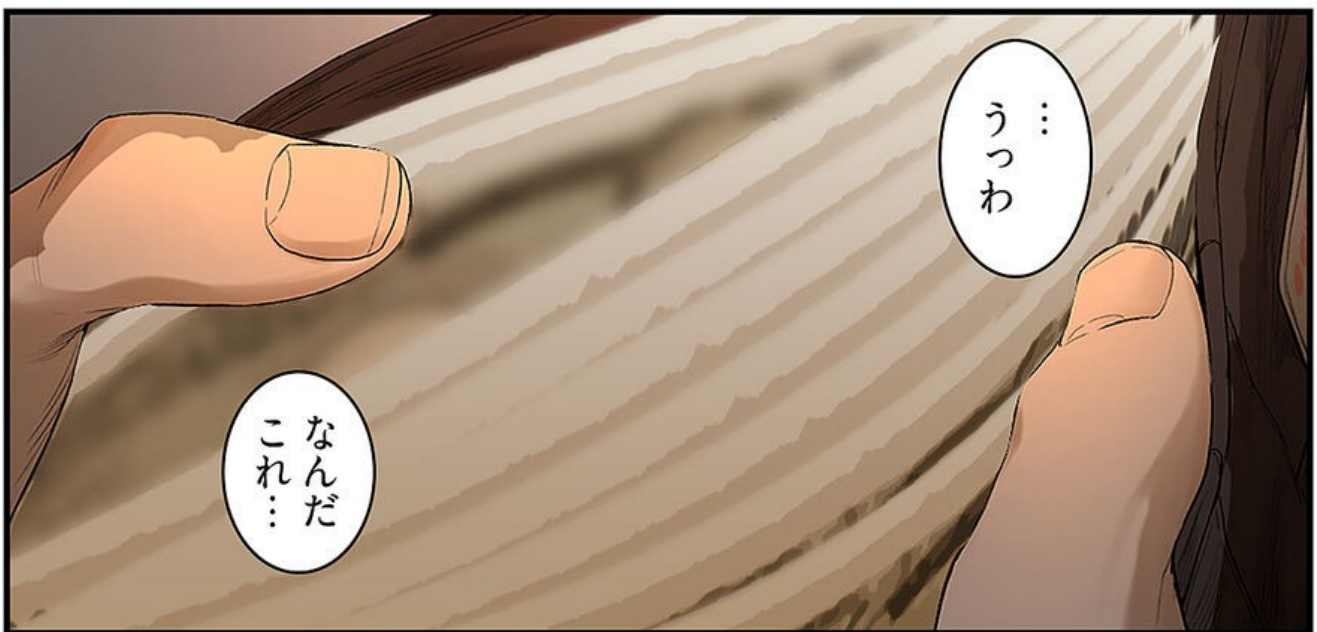
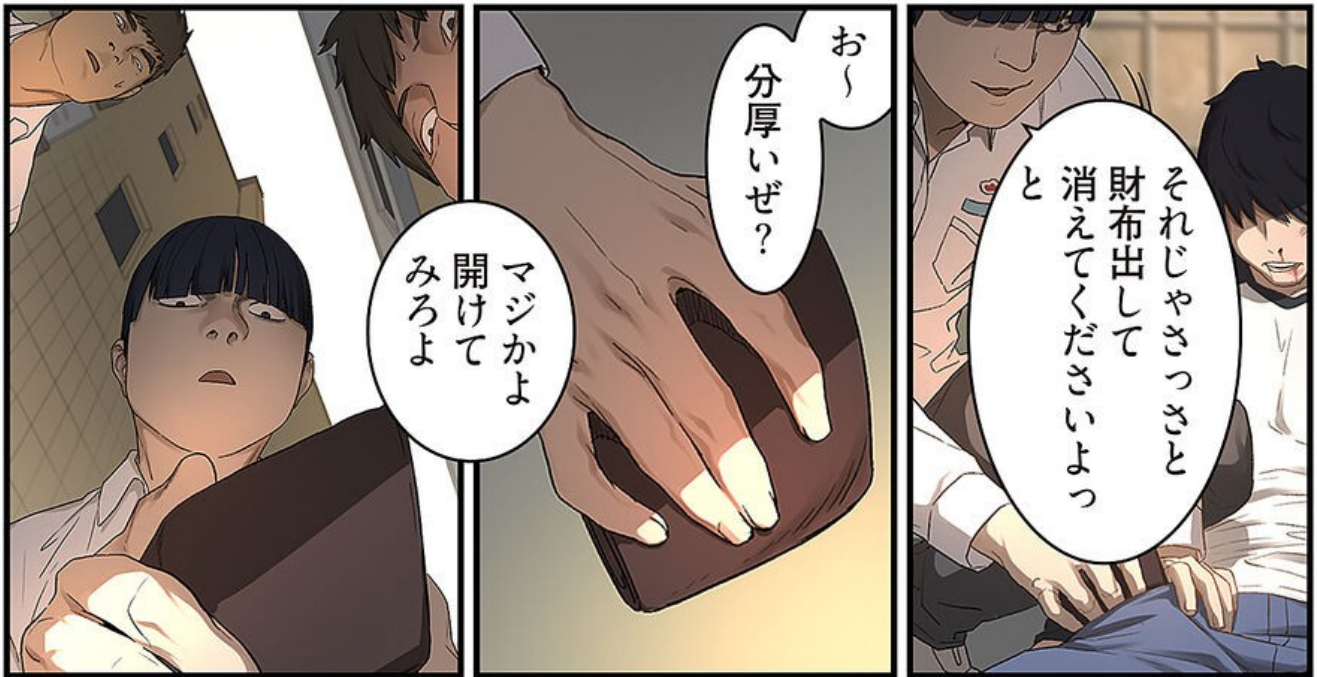


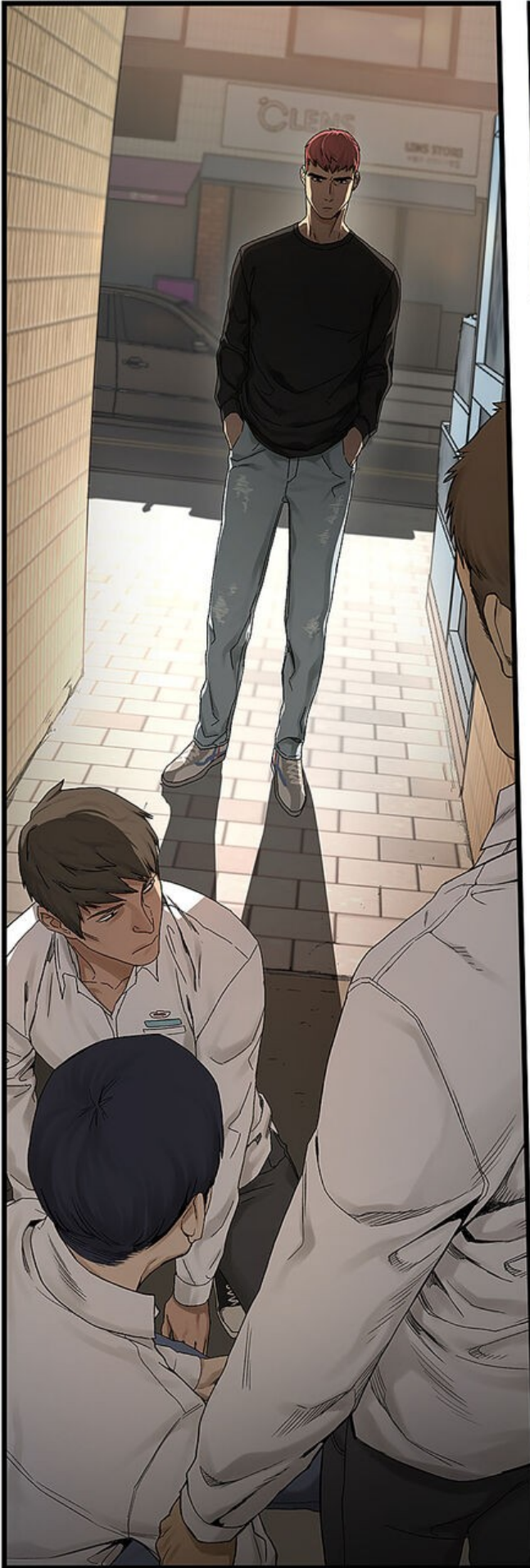
手加減して
やれよ

だろ?
www

俺だったら
後輩にやられた
なんて人に
言えねえわ





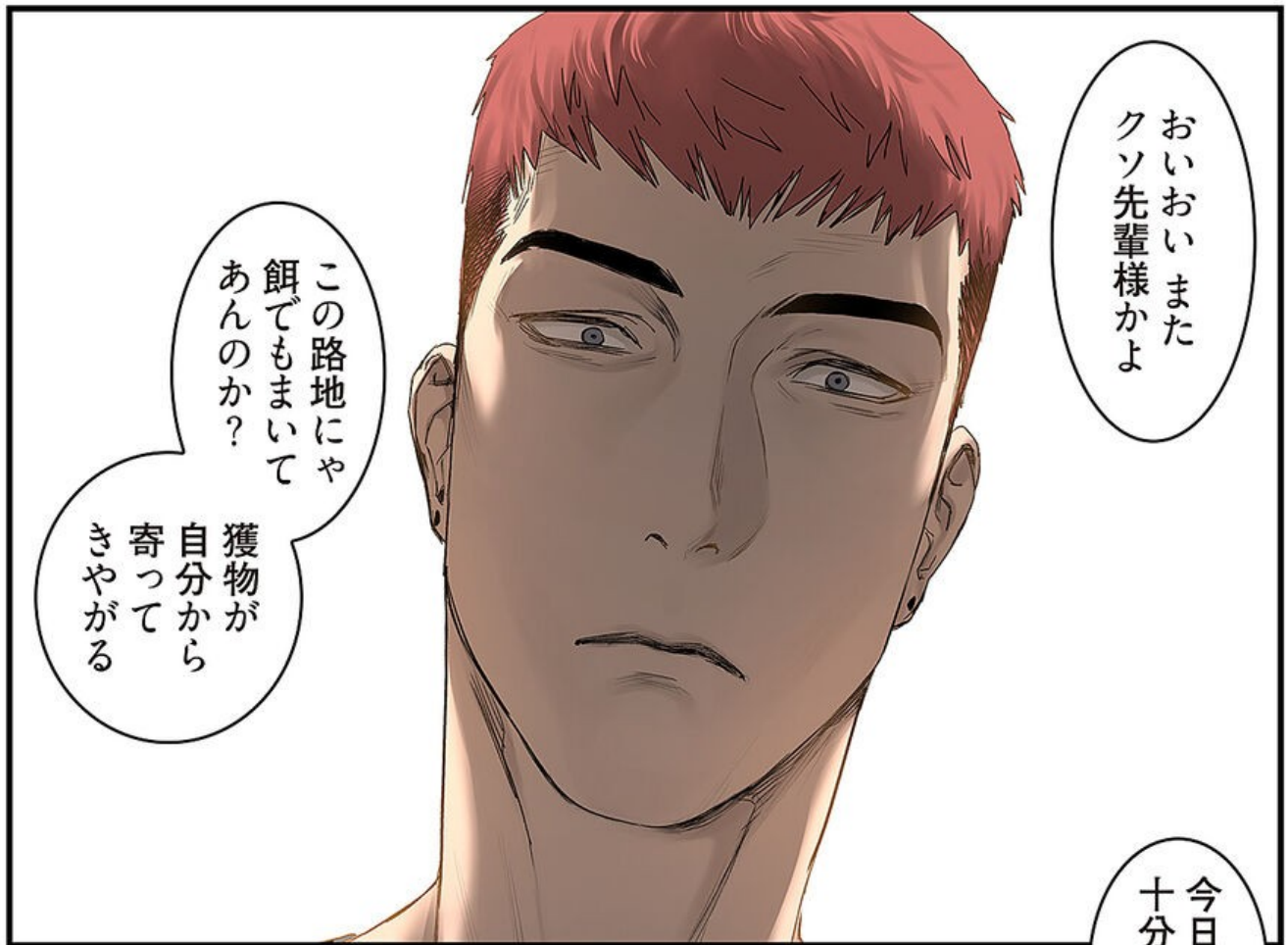


今日でカツアゲ
記録更新じゃね?

いやあ...先輩
金持ちっすねえ

すげえ!
これなら
原チャリ
買えるぞ





おいおいまた
クソ先輩様かよ

この路地にや
餌でもまいて
あんのか？

獲物が
自分から
寄って
きやがる

今日はもう
十分だ



最近のガキは
楽しそう
だなあ

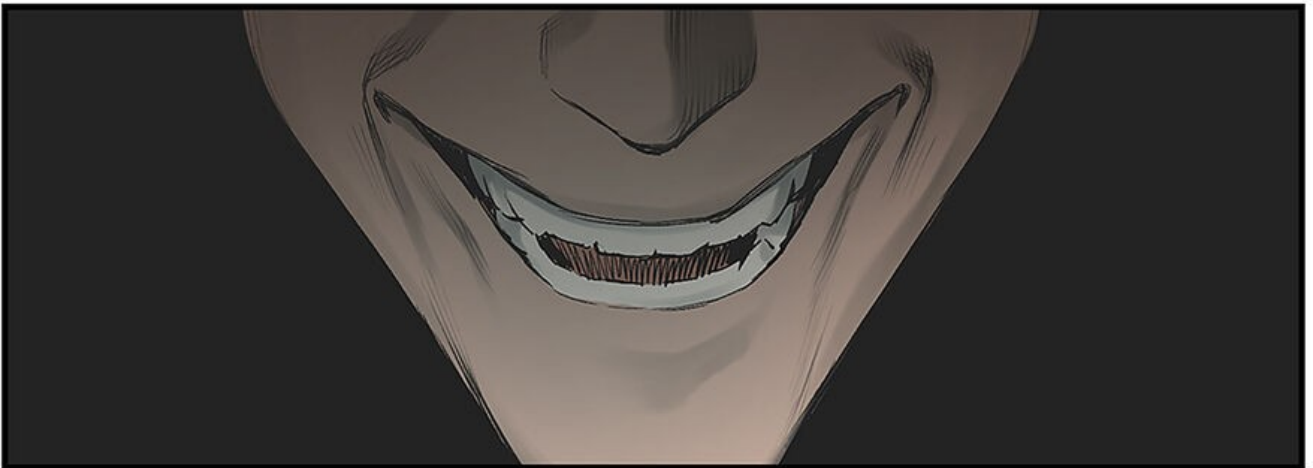
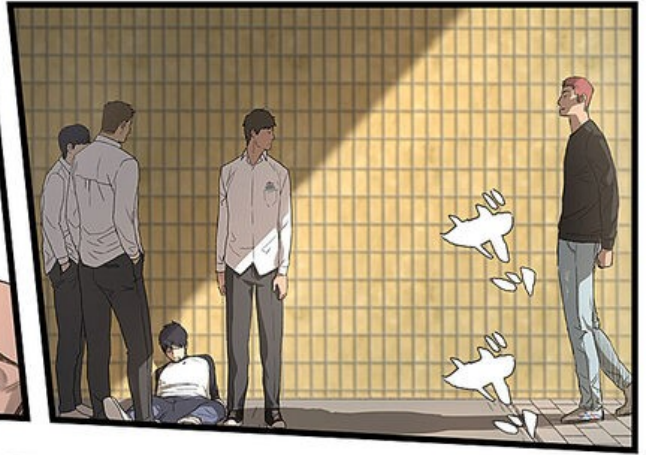


見逃して
やるよ
さっさと
逃げる



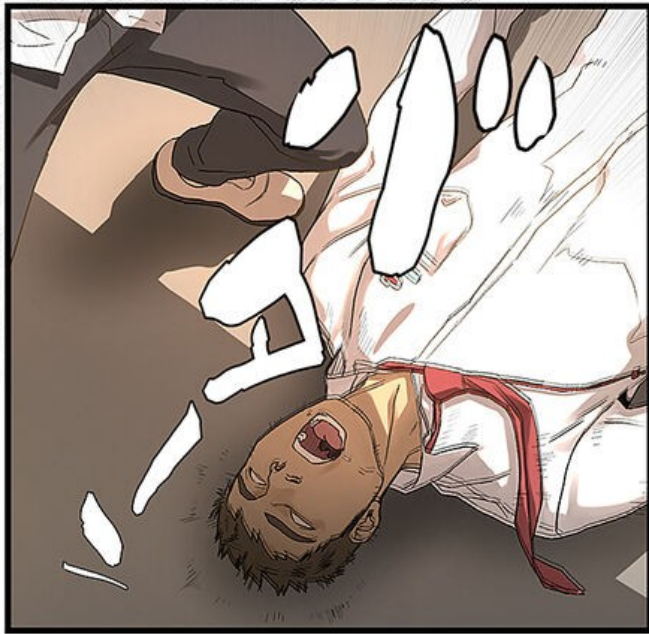
ガキ？

なんだと
…？

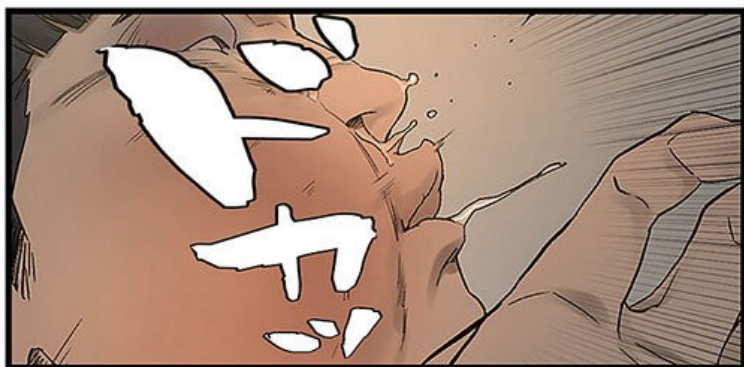












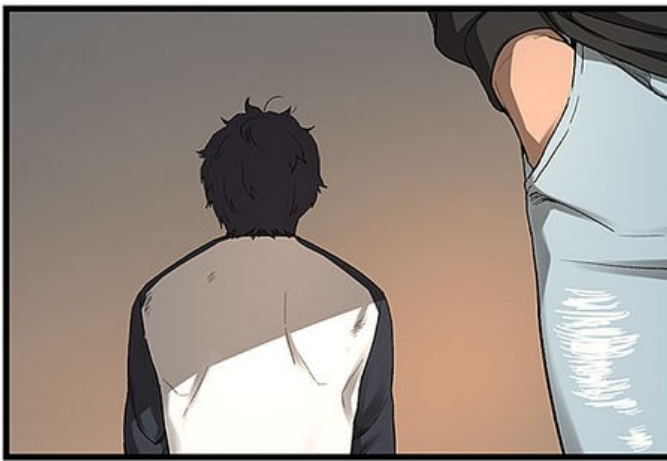
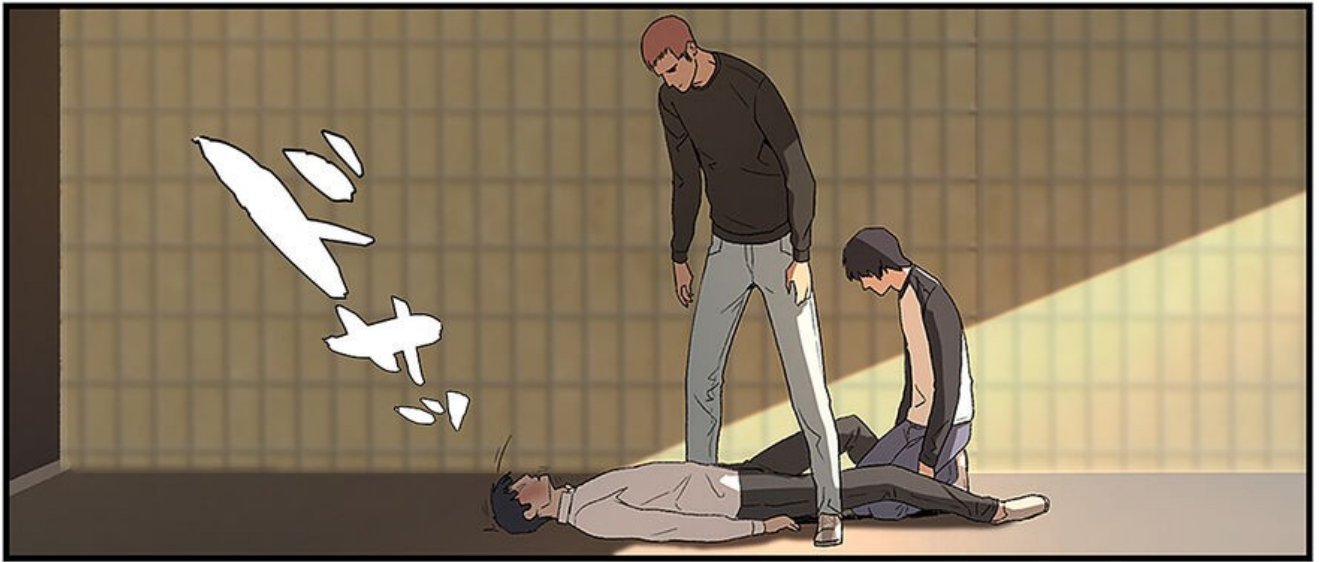


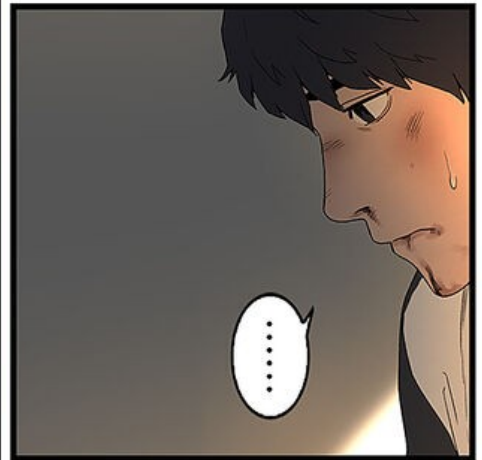
てっや
哲矢…
もうやめろ…

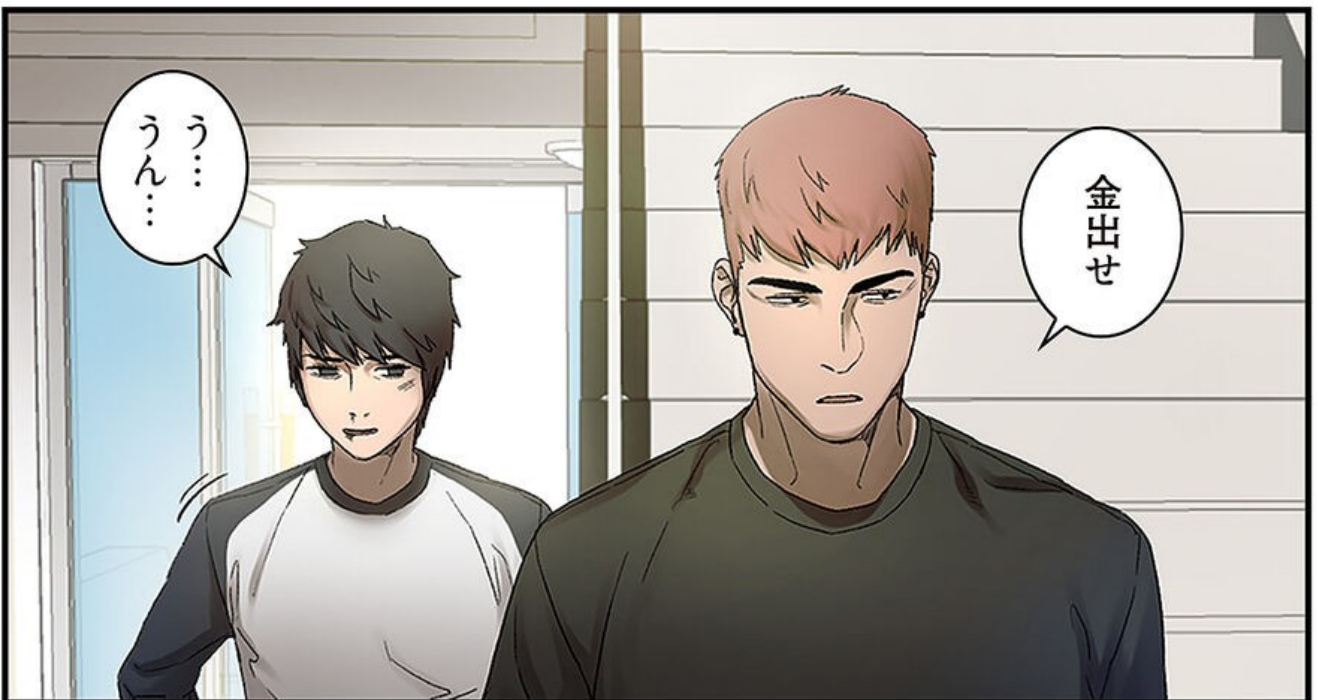


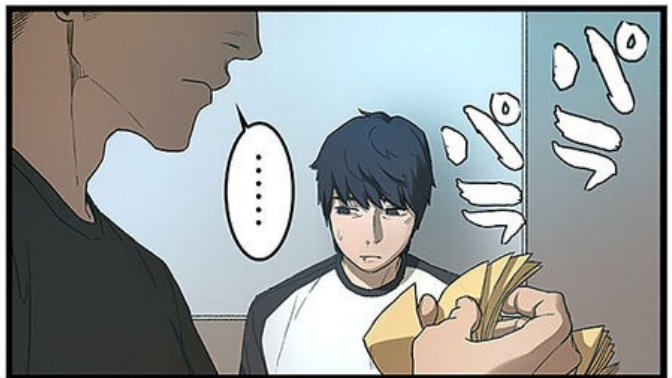
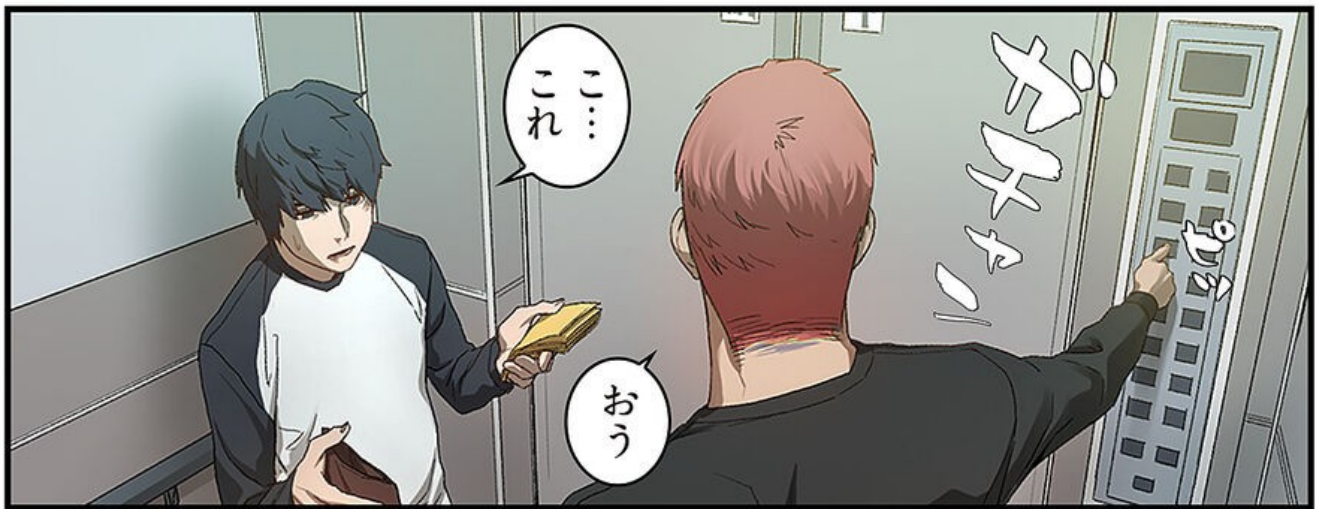
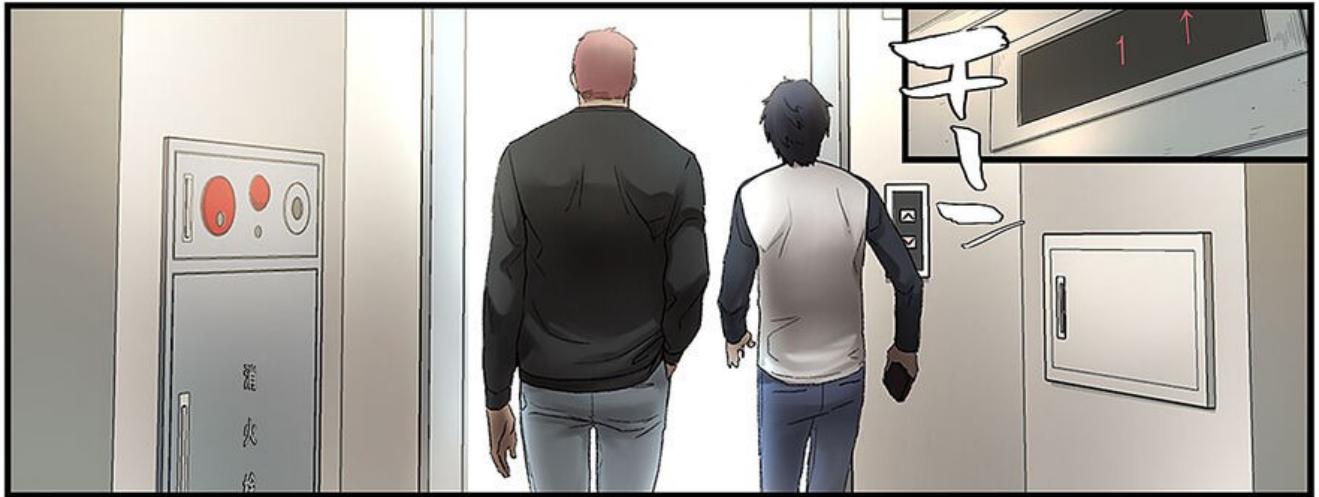
子供じゃ
ないか…

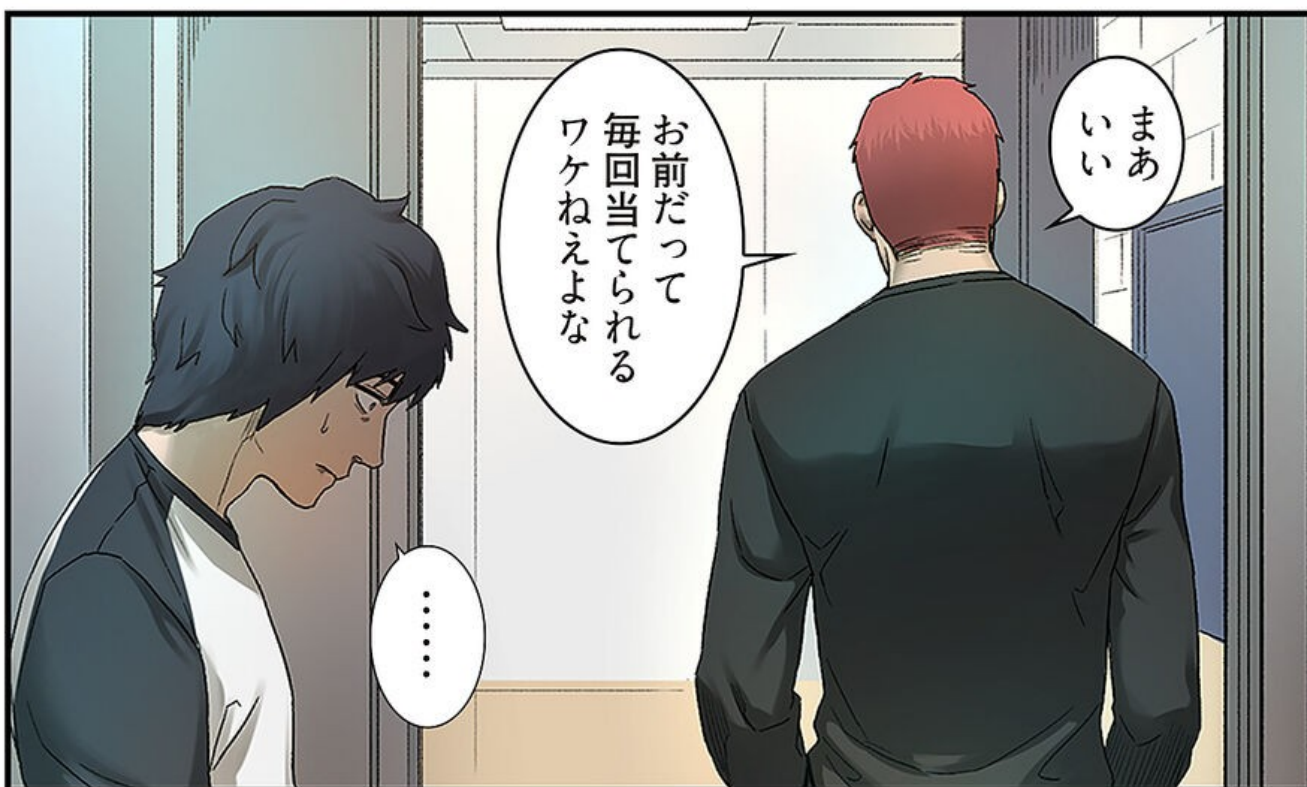
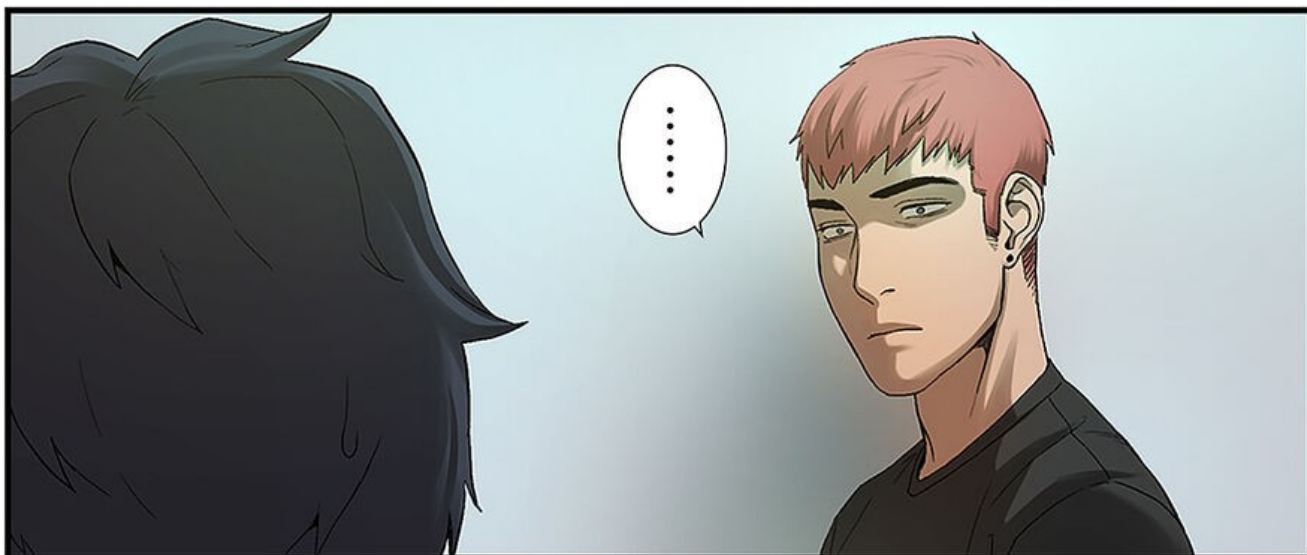


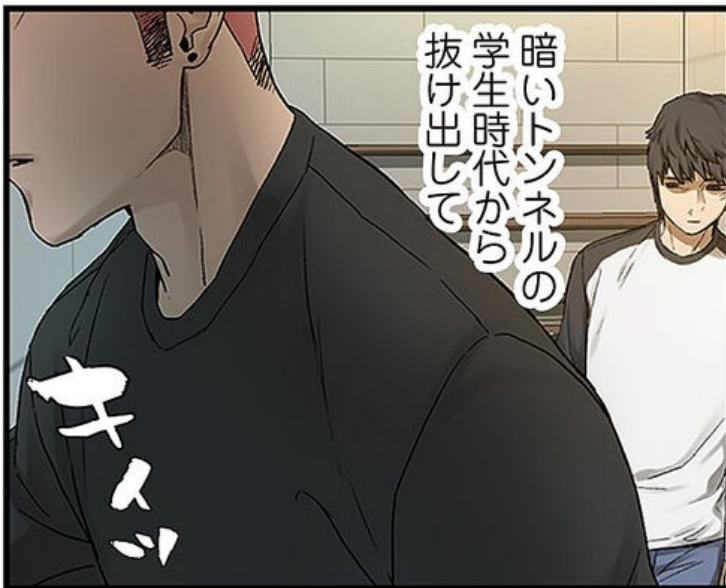
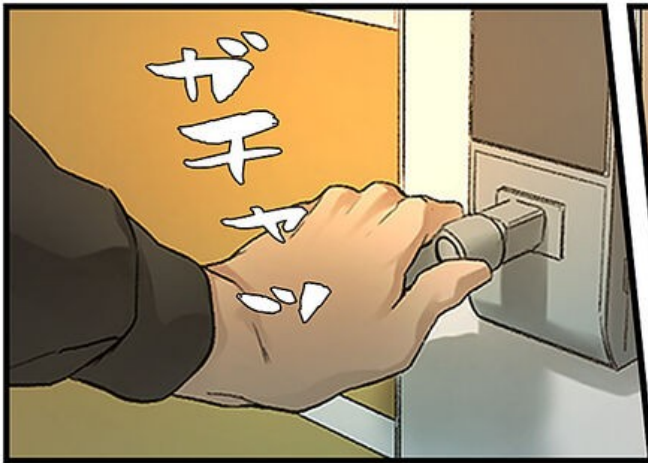














昔あいつと
ヤツたこと
あんだよ

マジかよ!?

しかし
19歳になっても
僕は相変わらず…

このアリの巣の
ような世界に
閉じ込められている

見すぎだ
お前ら

この部屋
イカ臭えよ

誰にも見つからず
誰も入り込めない

テーブルも
片づけるよ

僕ら全員を踏みつけ
たつた二人の王だけが
君臨するアリの巣

まさか
雅人!

なんだよ

ファブ●ーズ
しとけ
客が来るから

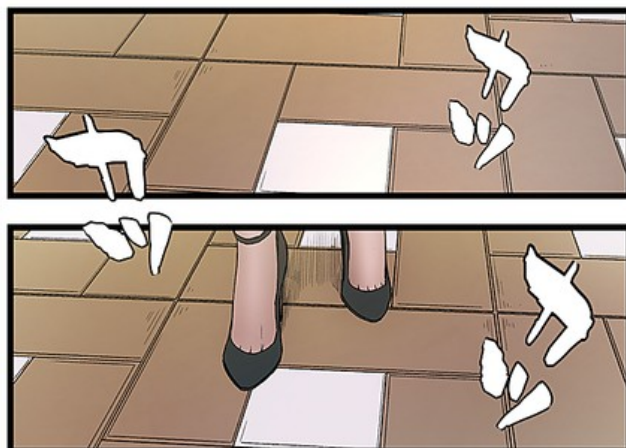
…
わかったよ

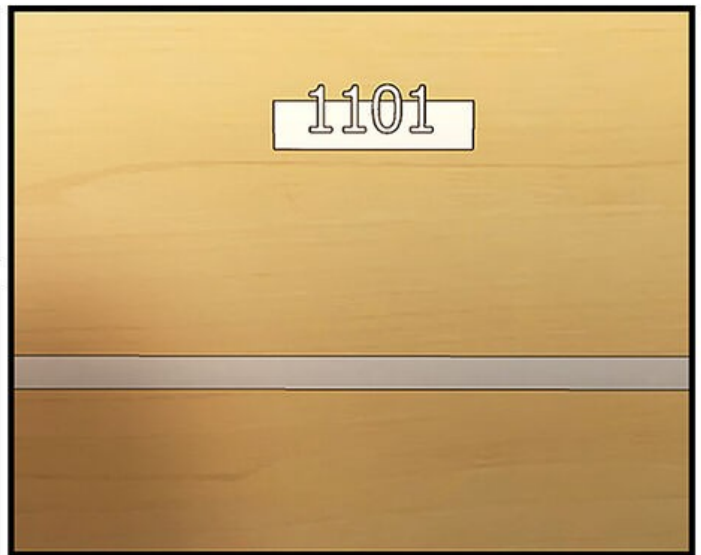
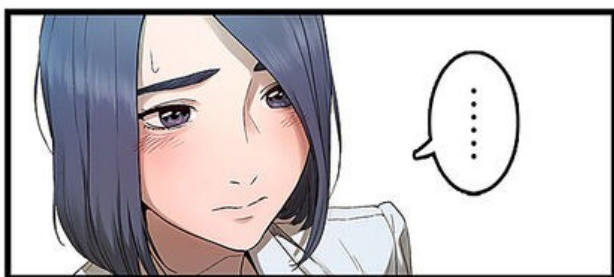
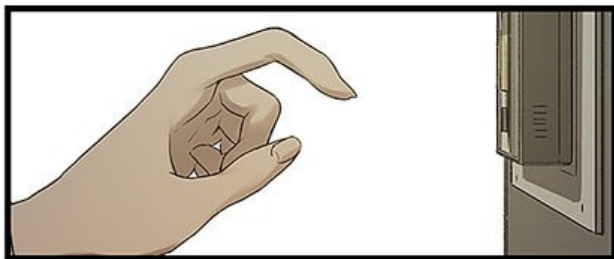
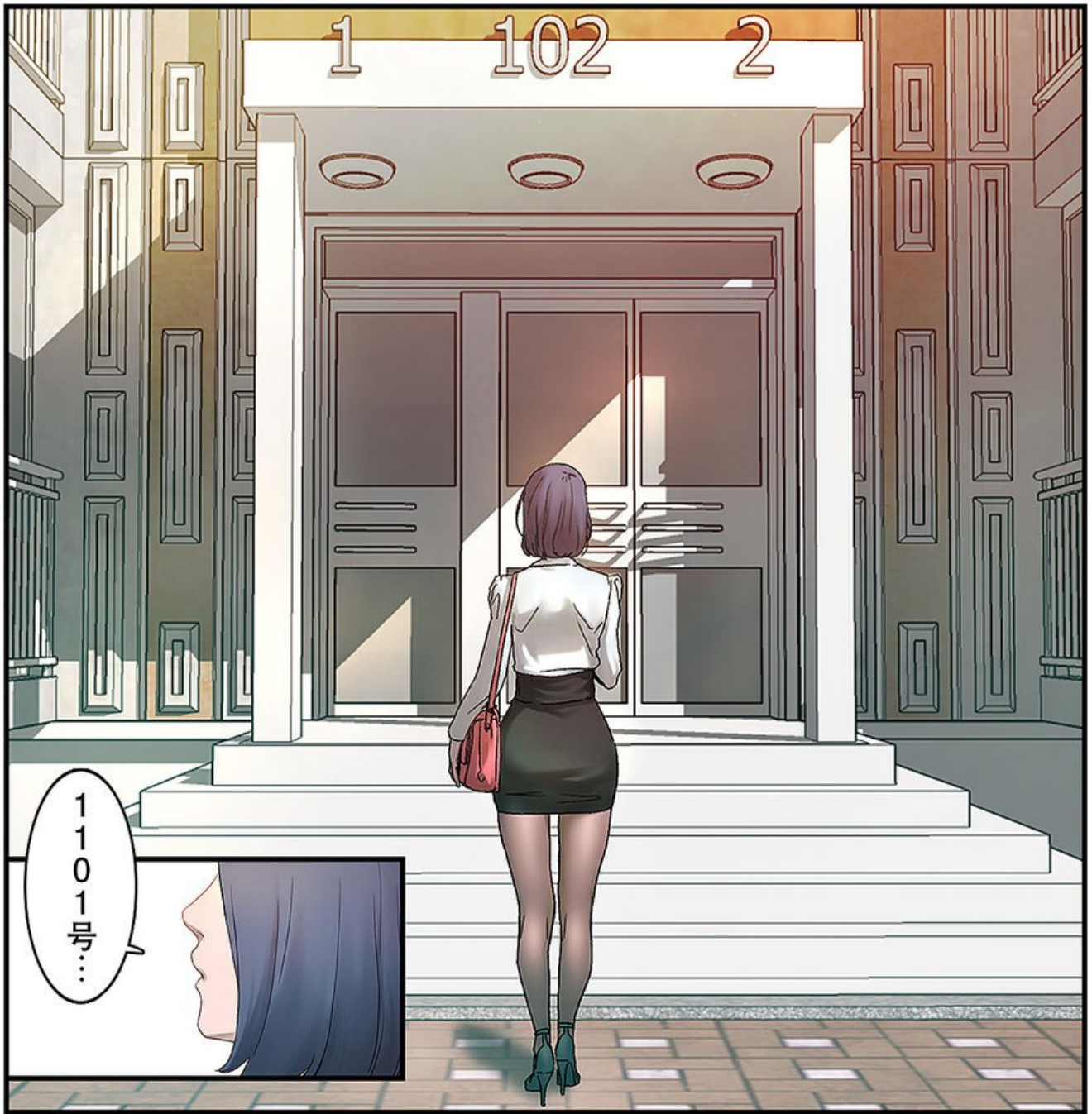


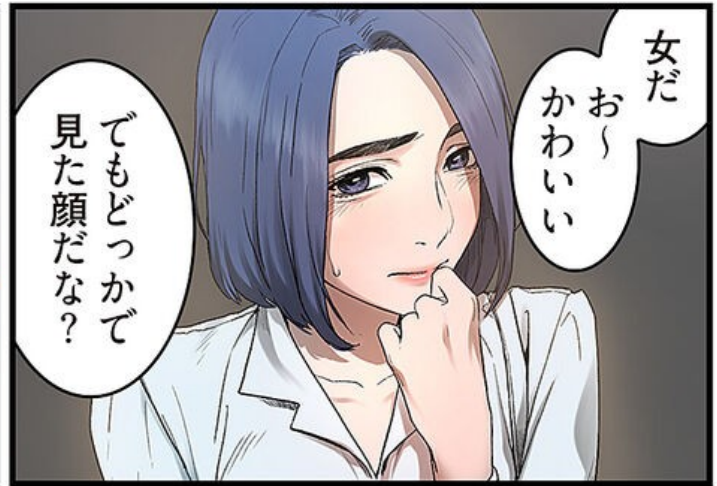
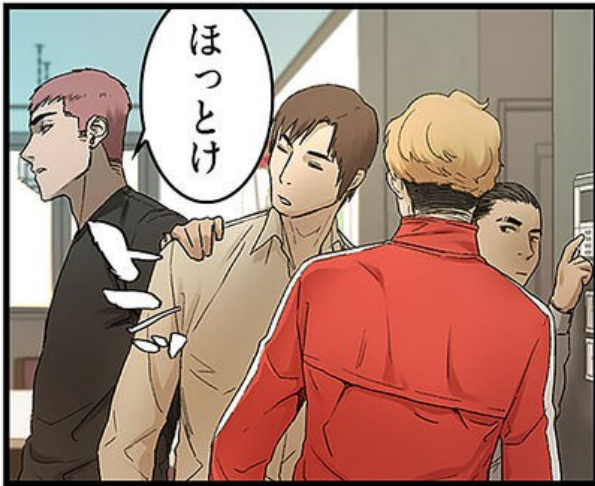
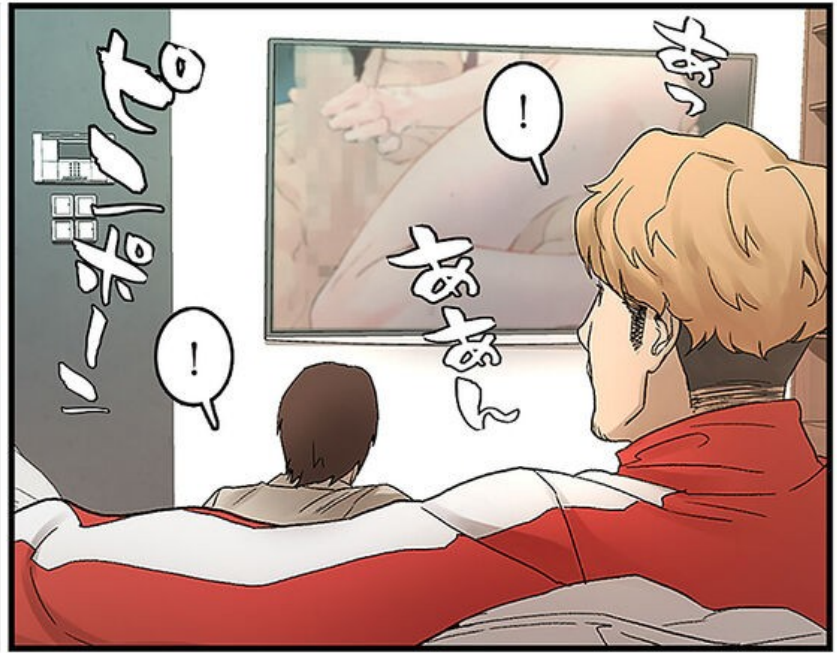
僕は鉄の鎖で
引きずられる奴隷

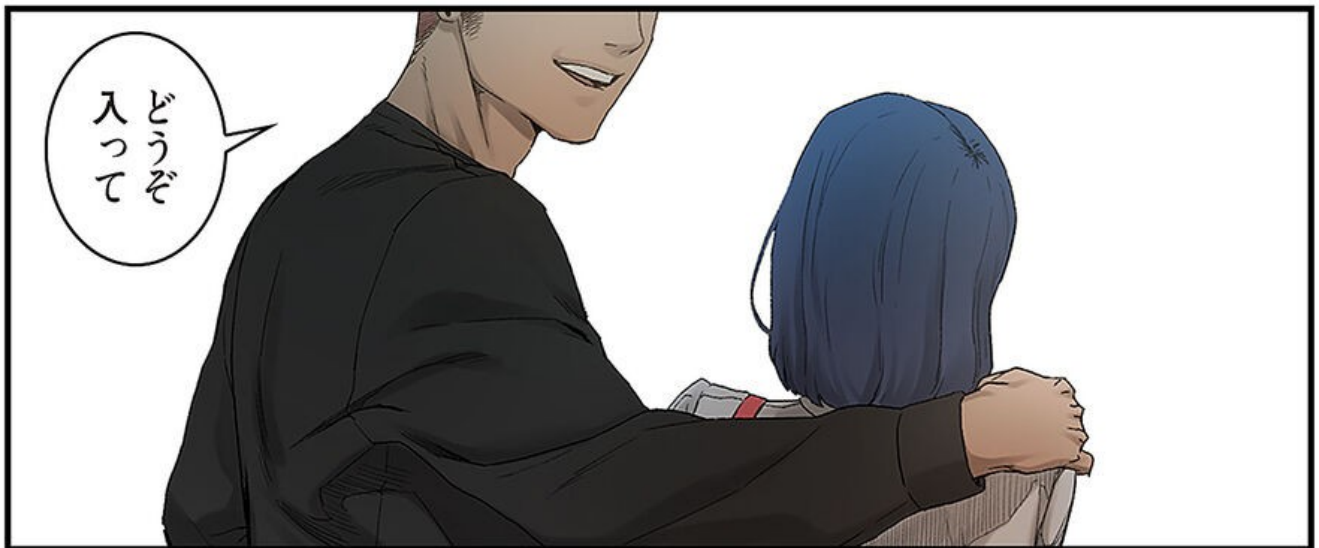
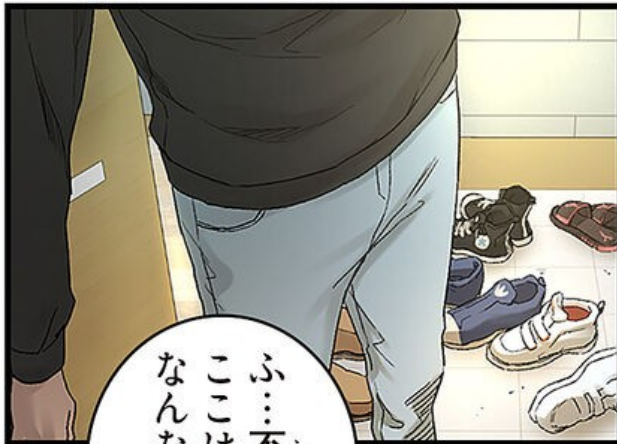
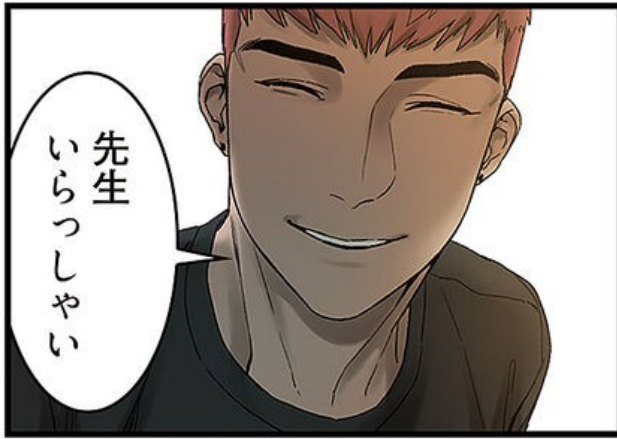
銃を向けられた捕虜

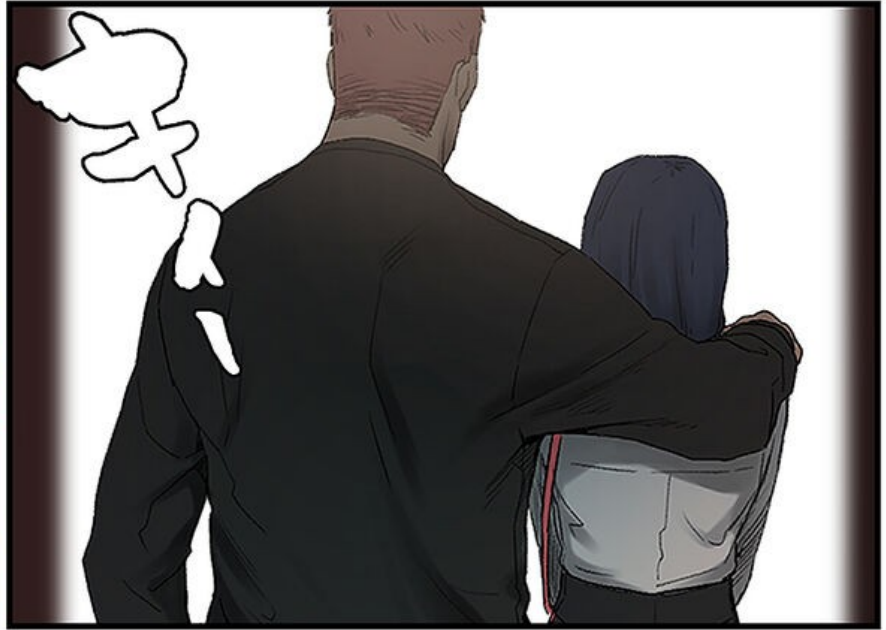
蜘蛛の巣にかかった虫

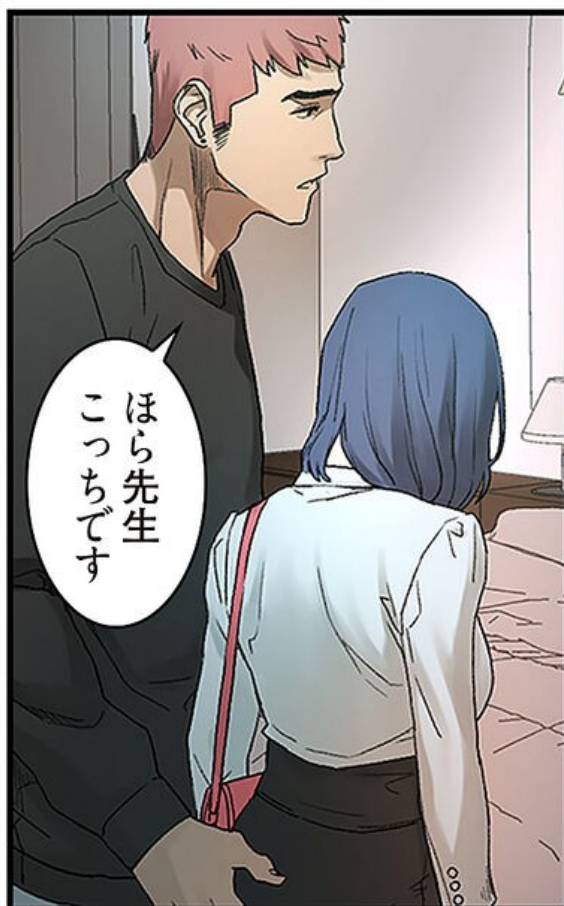
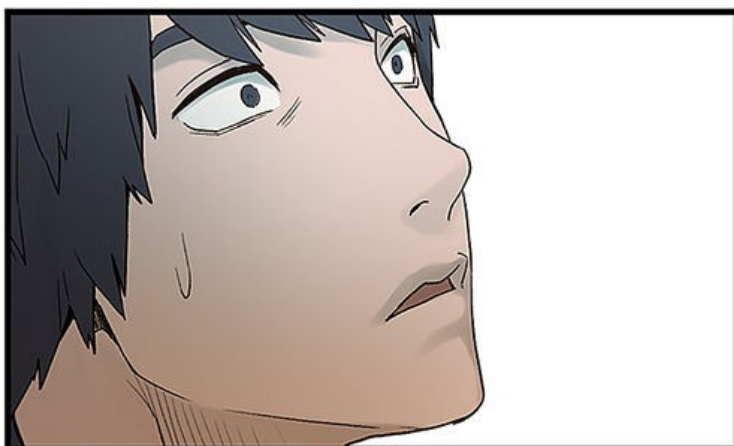
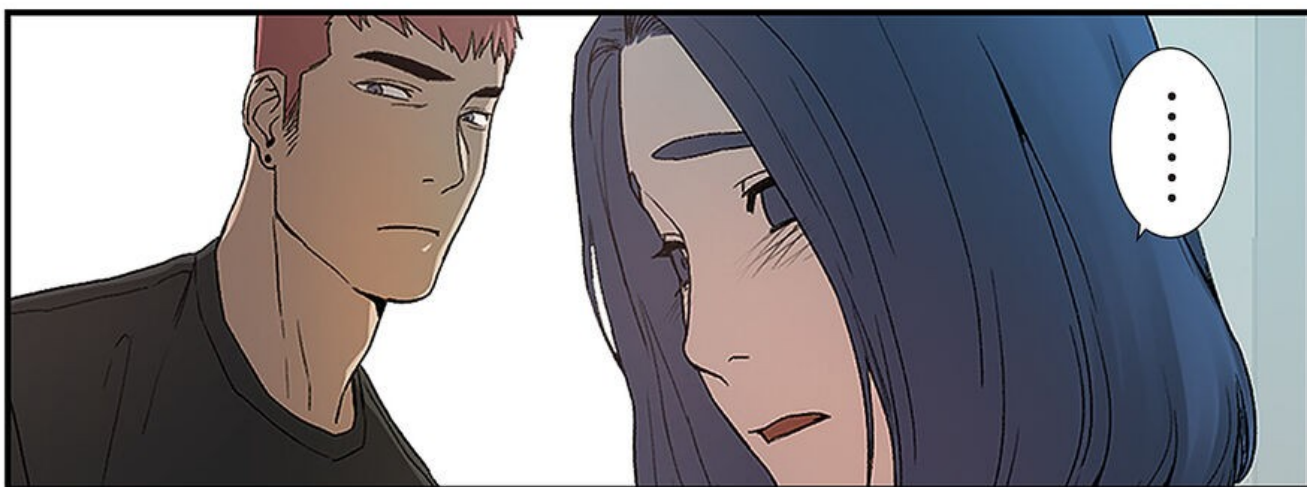


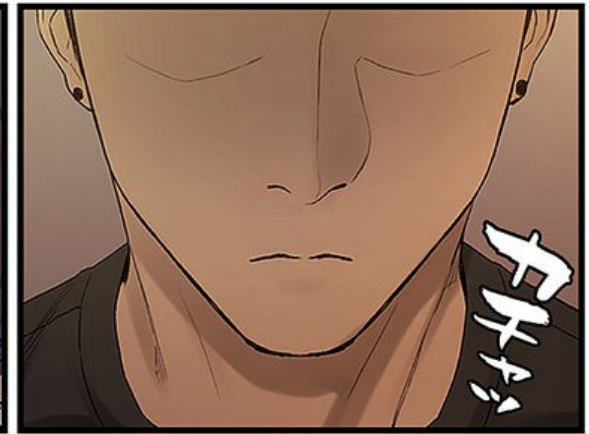
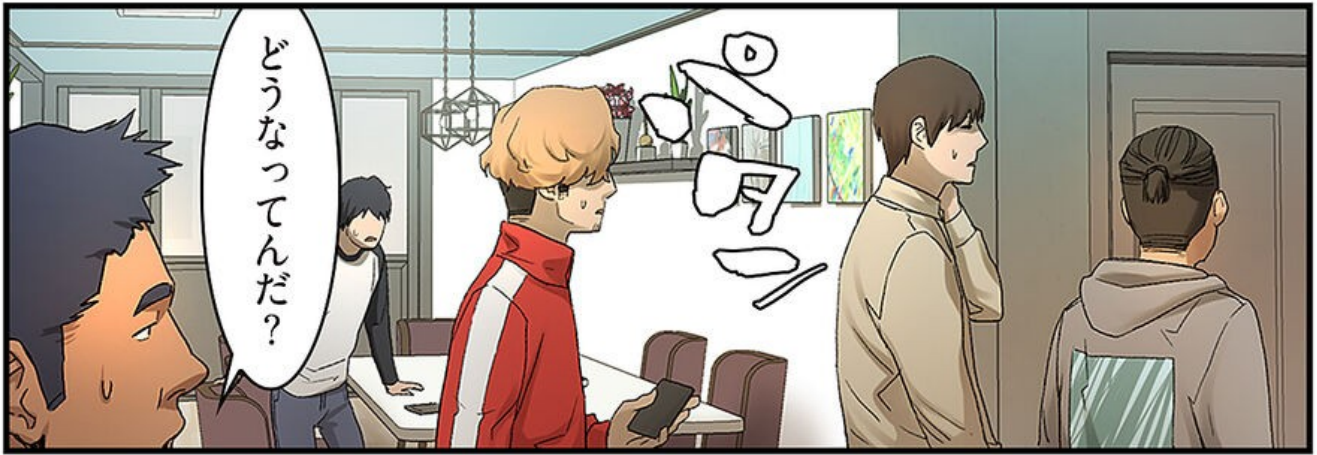




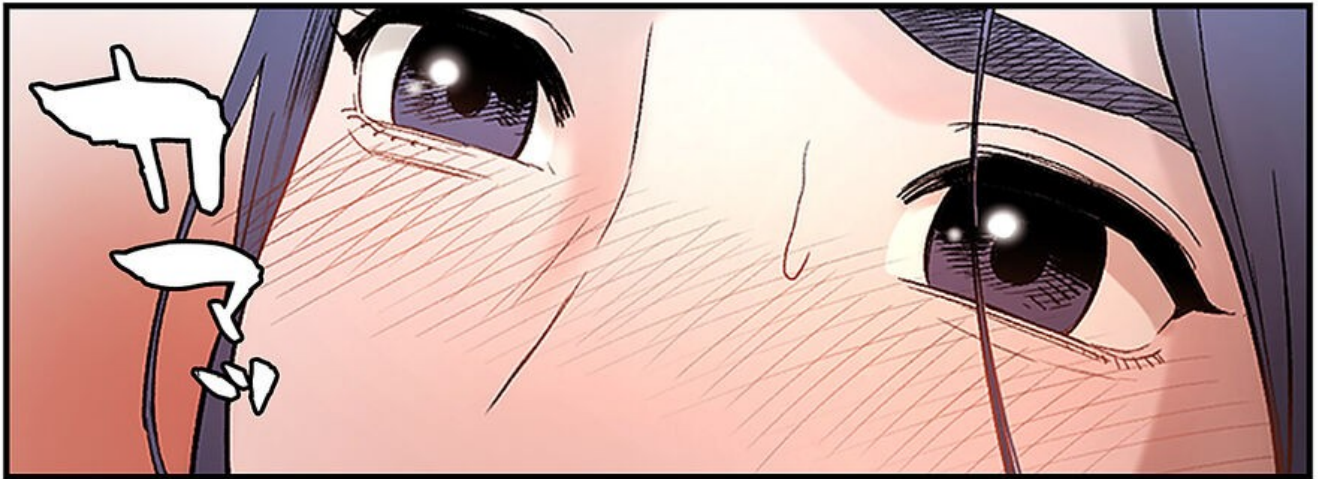












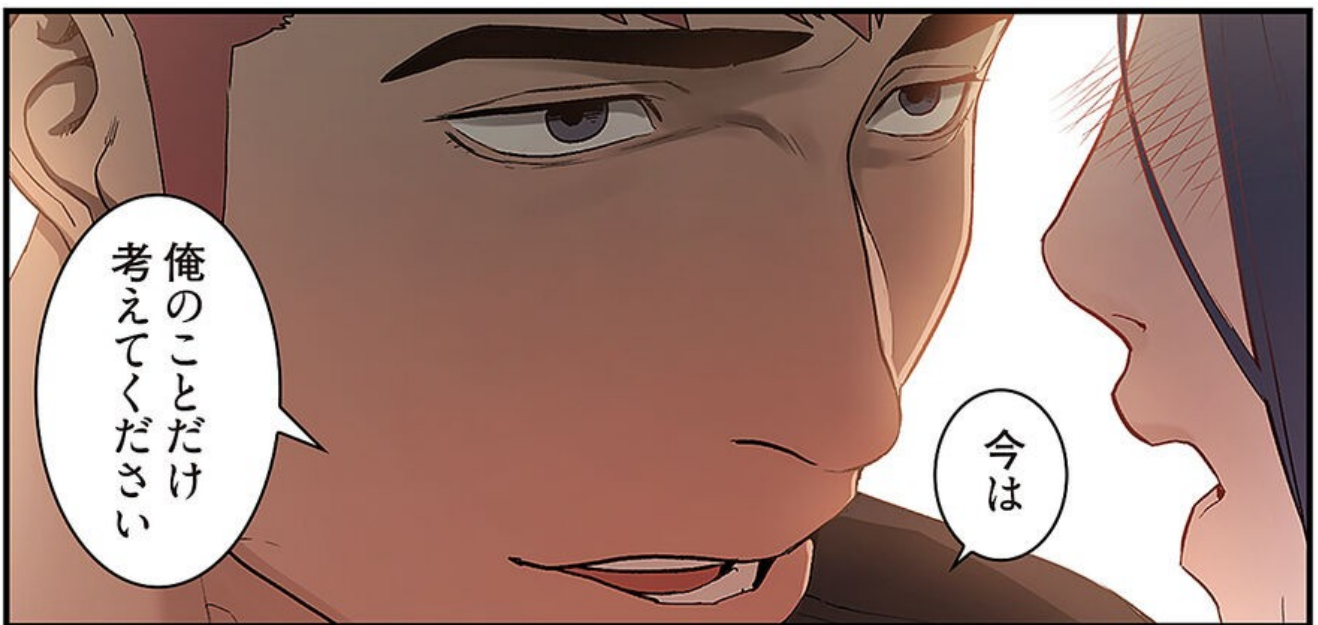
ち…
ちよっ…

外の奴らは
気にしないで
ください



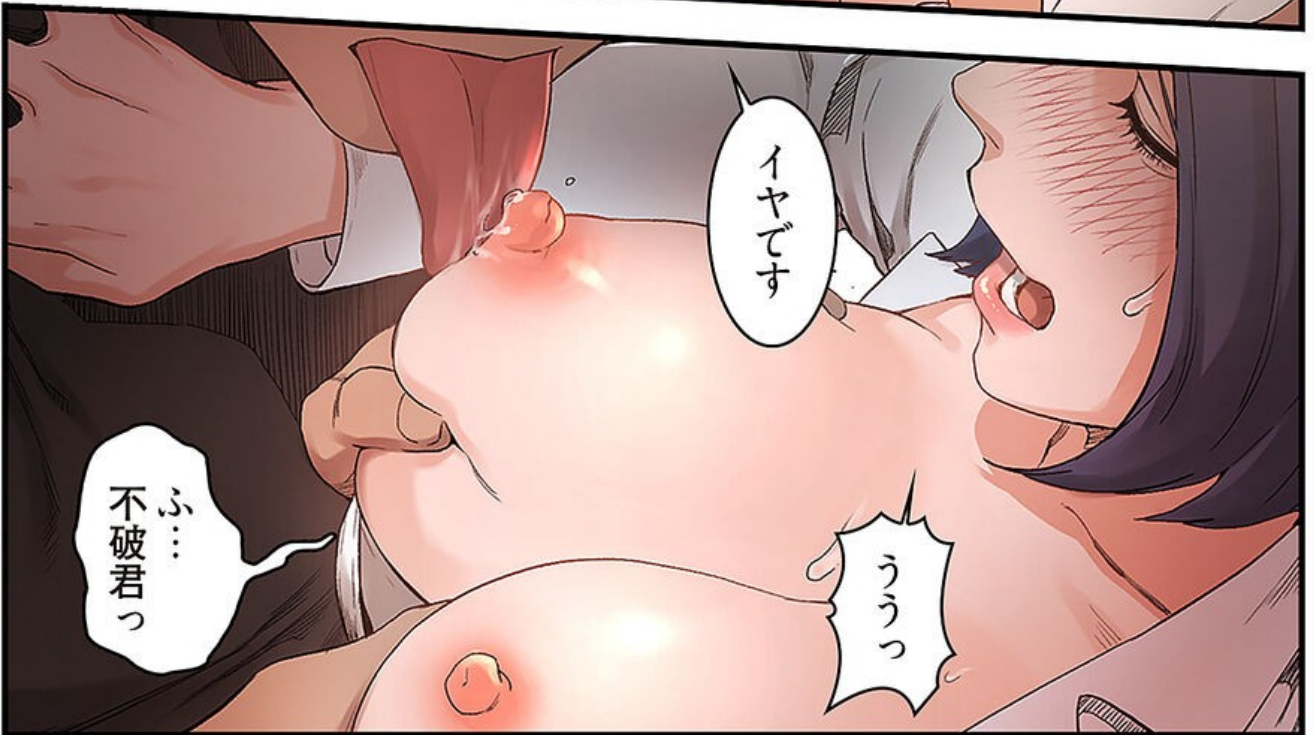
やめて
あの子たちは
なんなの!?

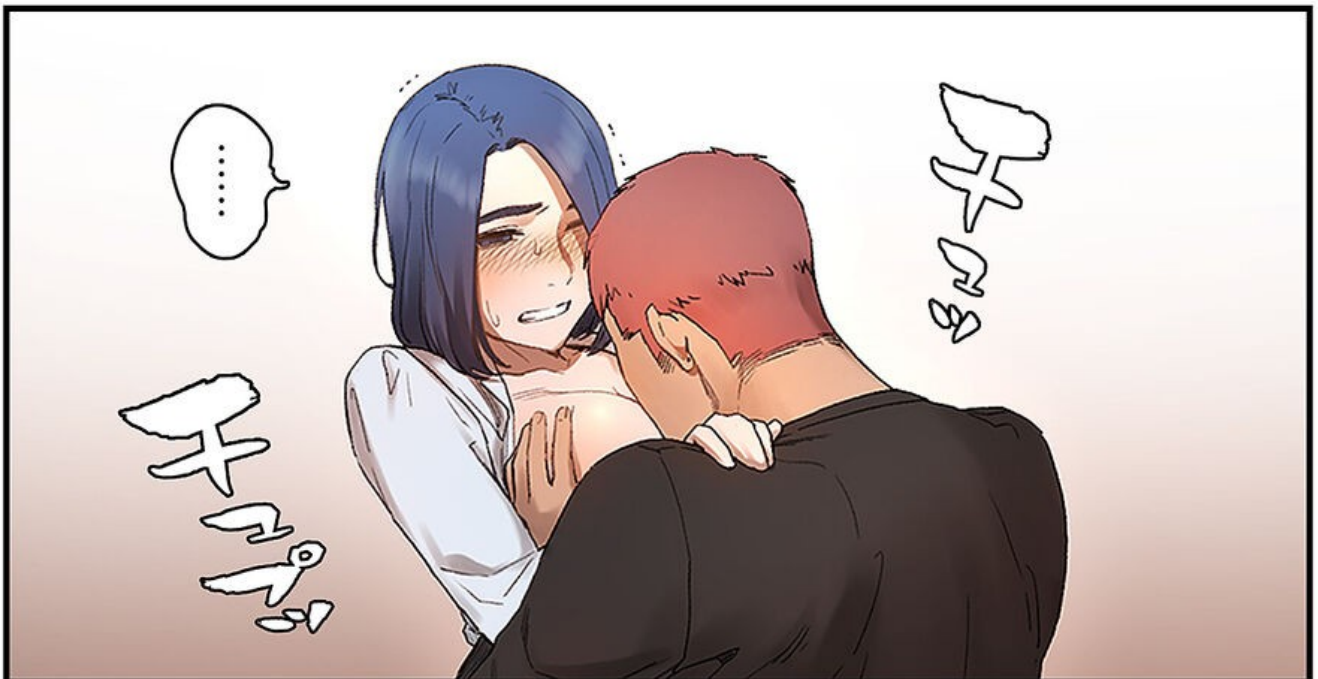
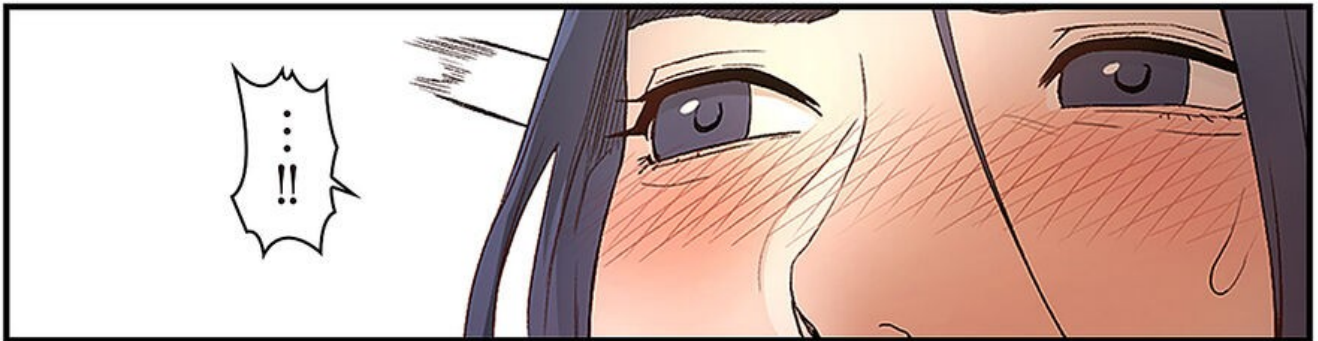
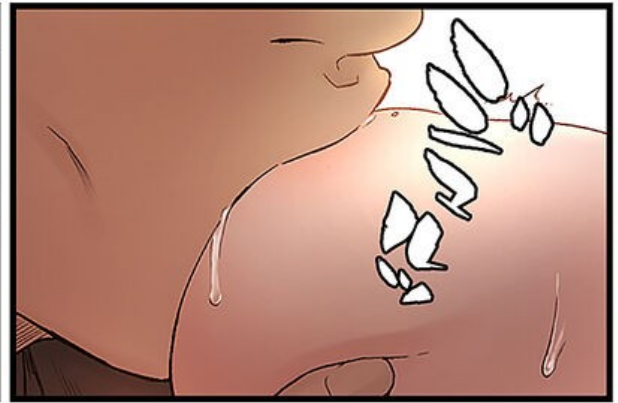
それにこの
マンションは!?



俺のことだけ
考えてください

今は







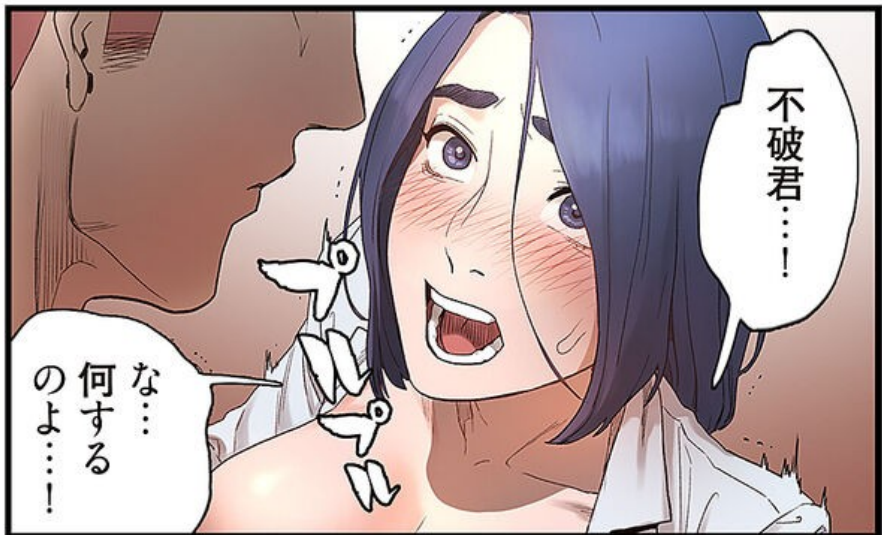
スカート
シワに
なっちゃい
ますね

…えっ
…!?

!!

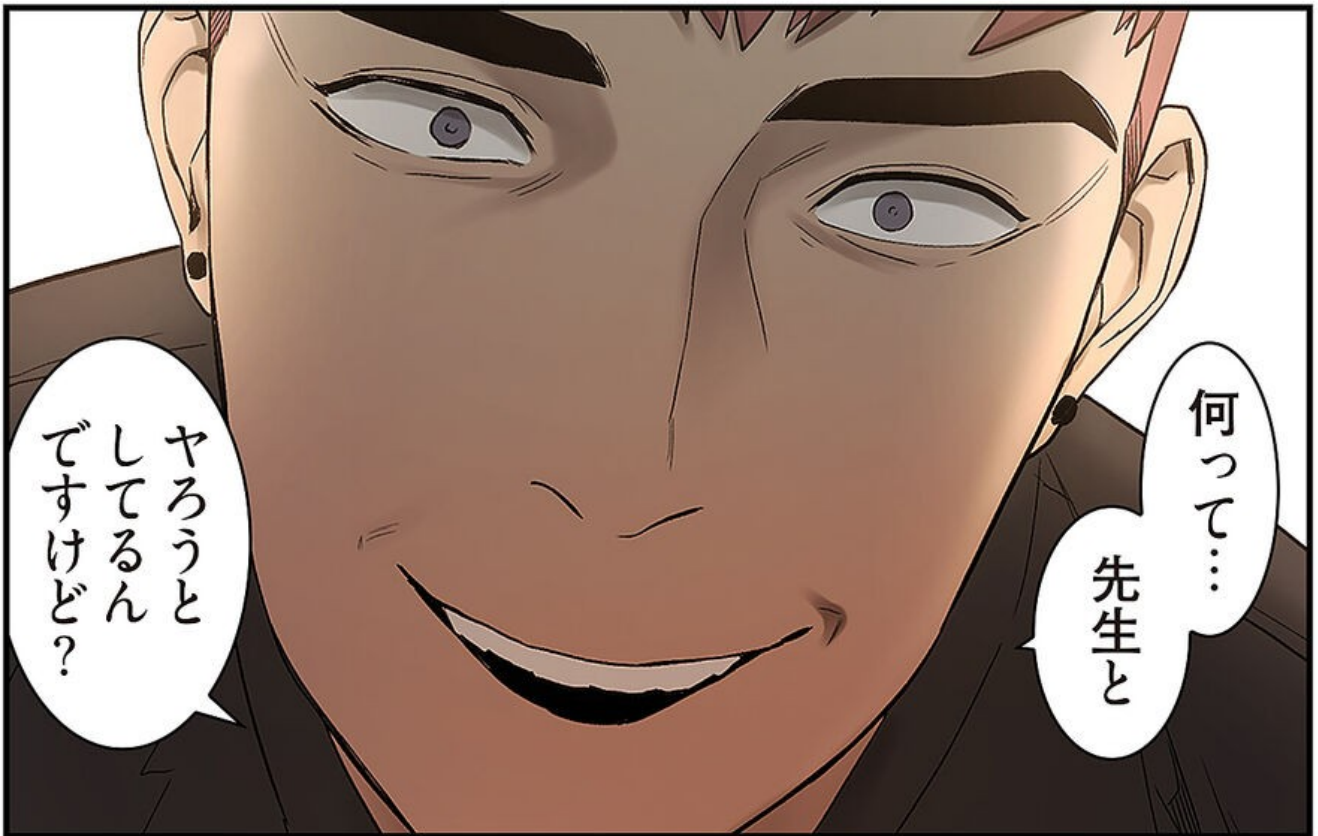
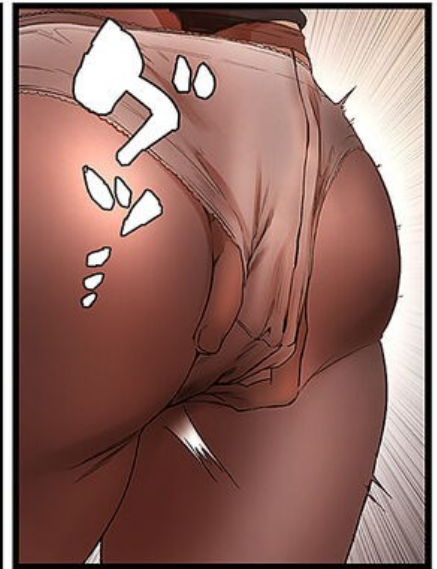
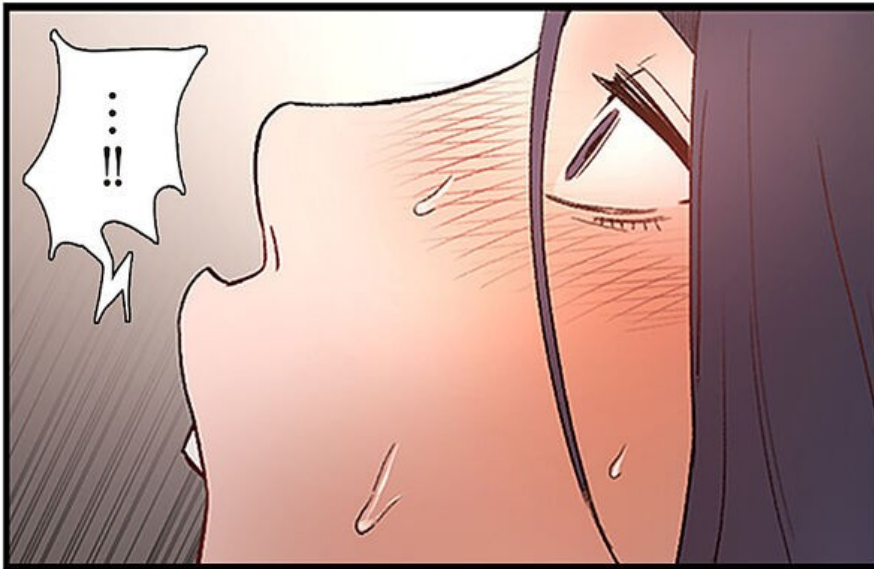


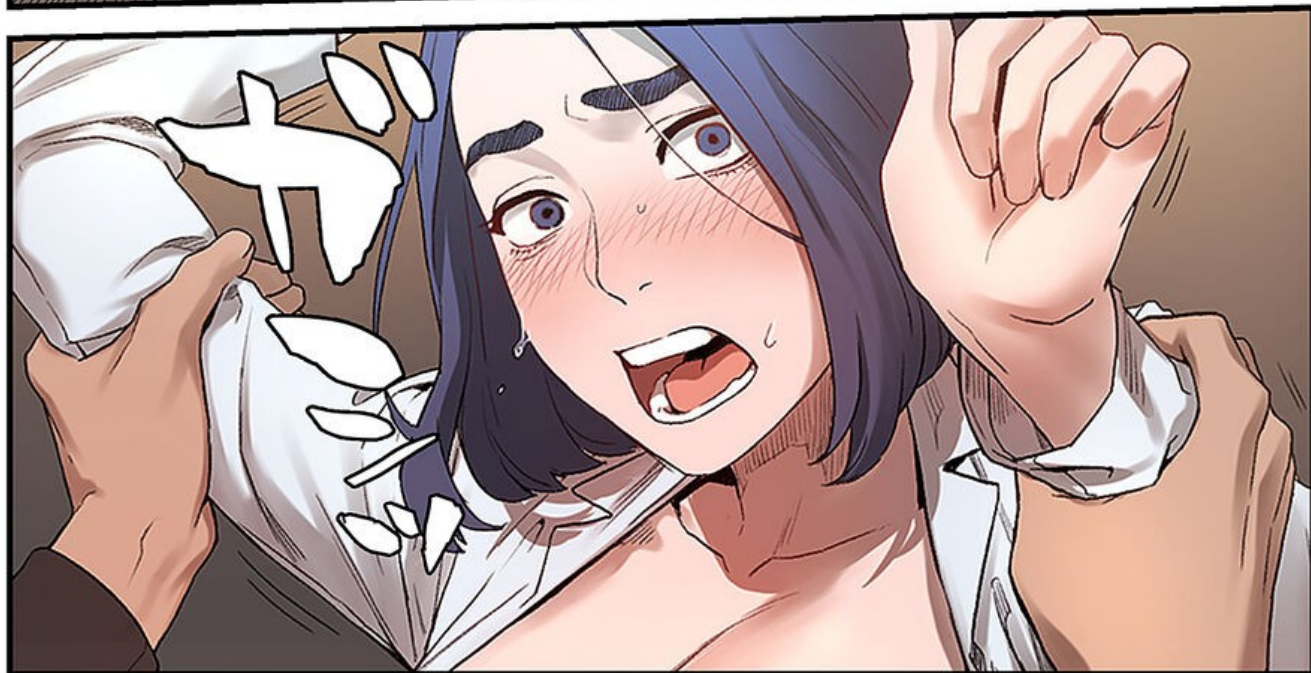
!!

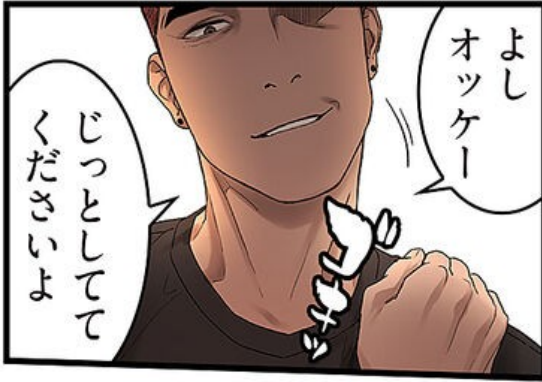


不破君…!

な…
何する
のよ…!









ダメよっ!

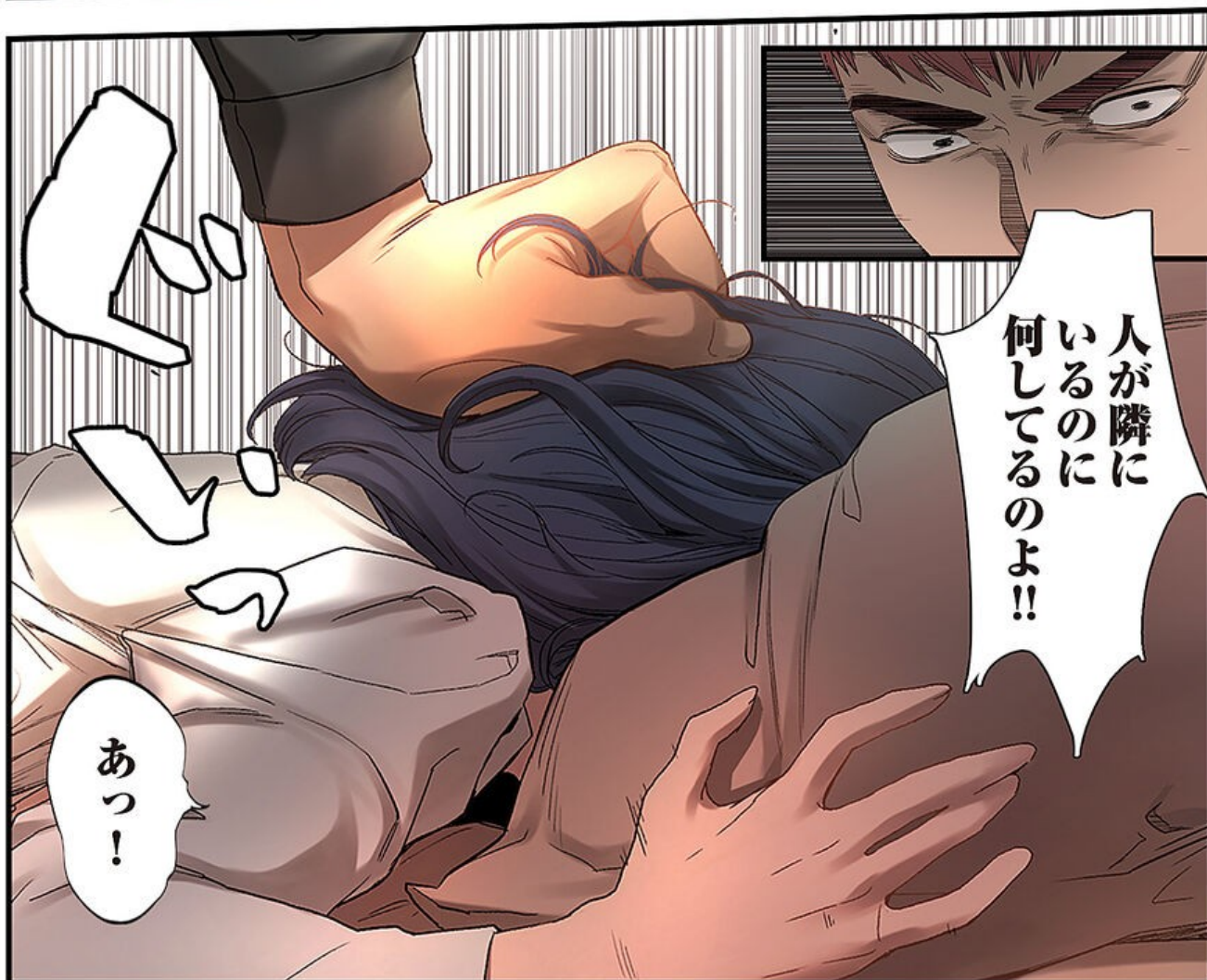
イヤ...!
こんな所じゃ

フッ
フッ
フッ

グッ
グッ

グッ
グッ

!!!



朱莉…

いっぺん
やられねえと
静かに
できねえのかよ？

う…
う…



生
殘
賭
博

生
殘
賭
博

第2話 王国

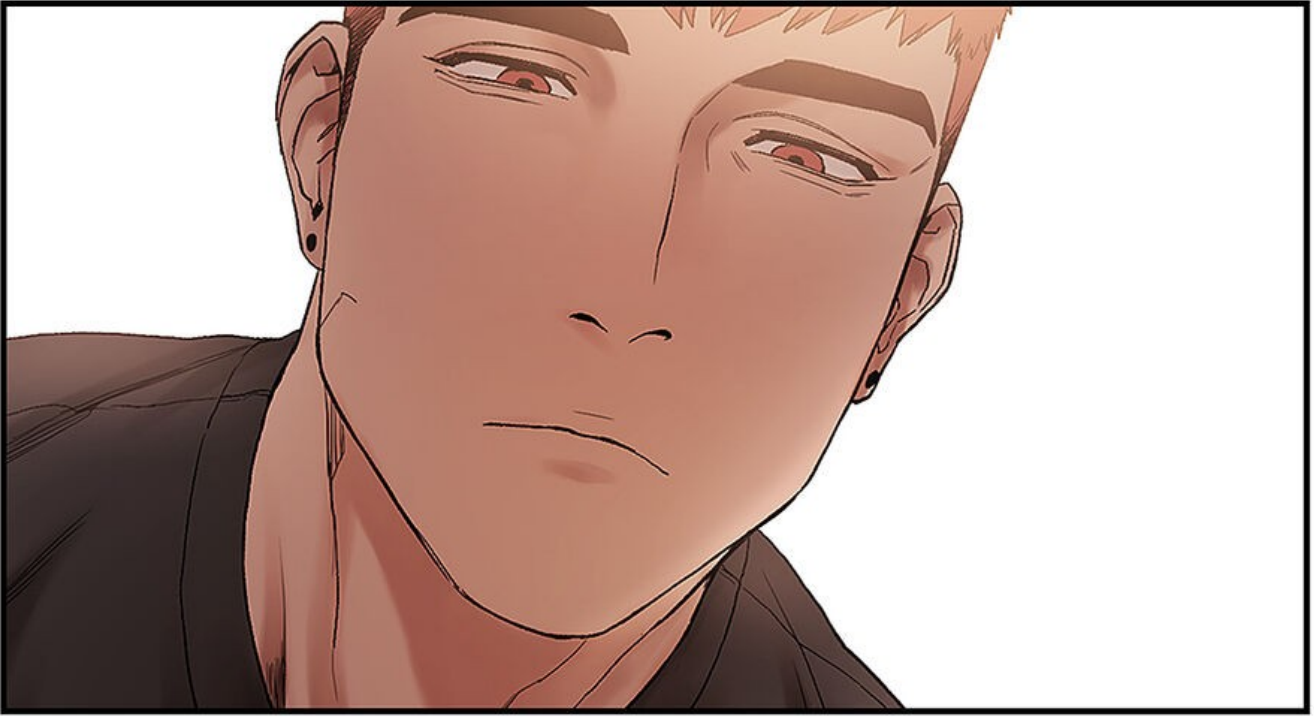
…急に
どうしたの？

あいつらのことは
気にしないで
ください

いつもみたいに
俺たち二人だと
思ってください

どうして…

どうして
こんなところに
来たって
言ったの…？
恥ずかしいわ



別に…



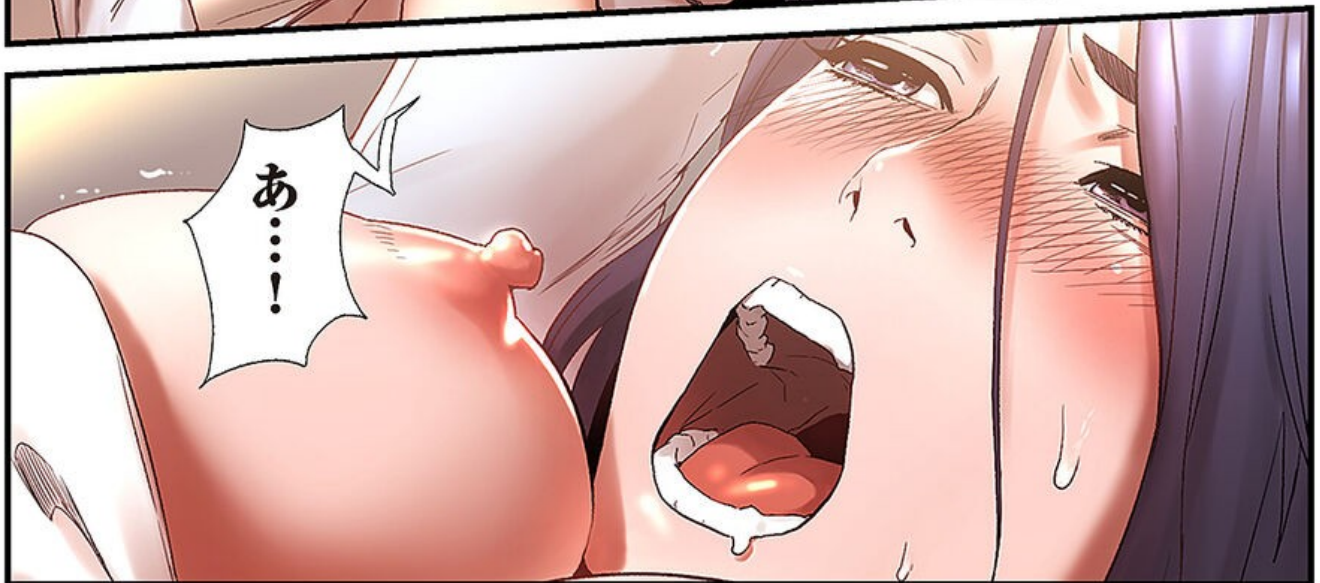
先生にここを見せたかっただけです

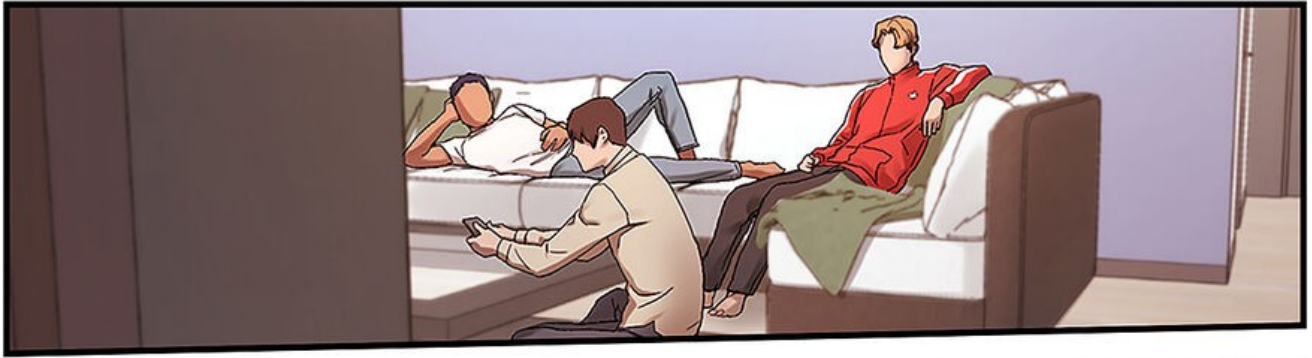


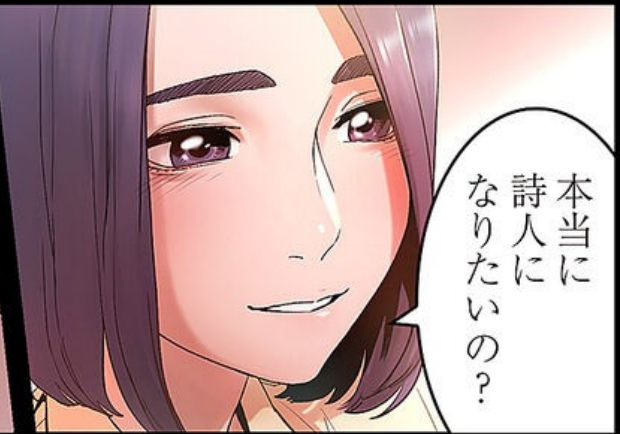
ここはなんなの…？

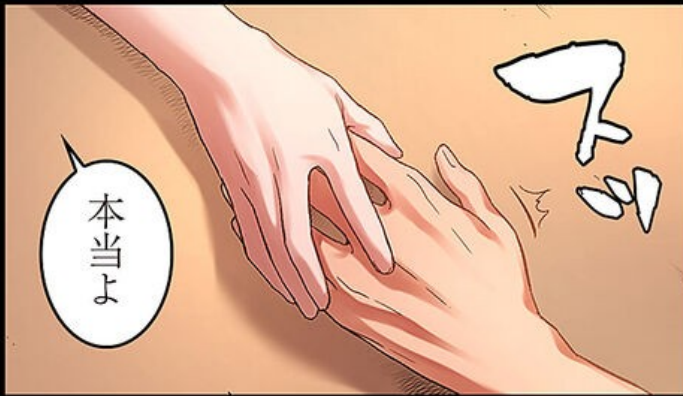
ここは
俺が治める
王国なんです











本当よ

下



え…
本当ですか？



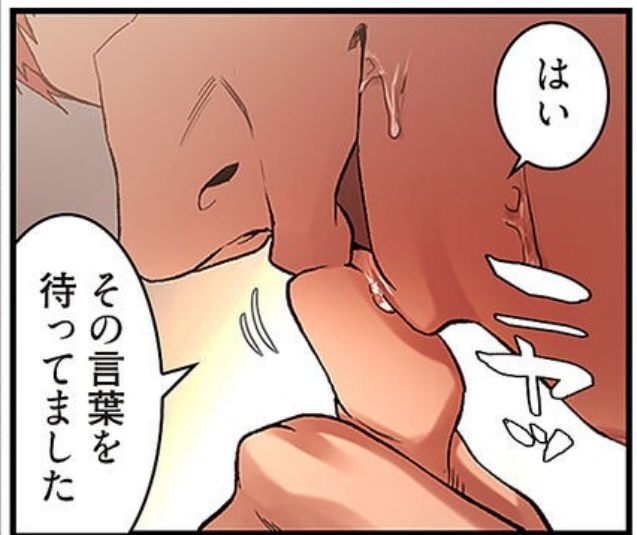
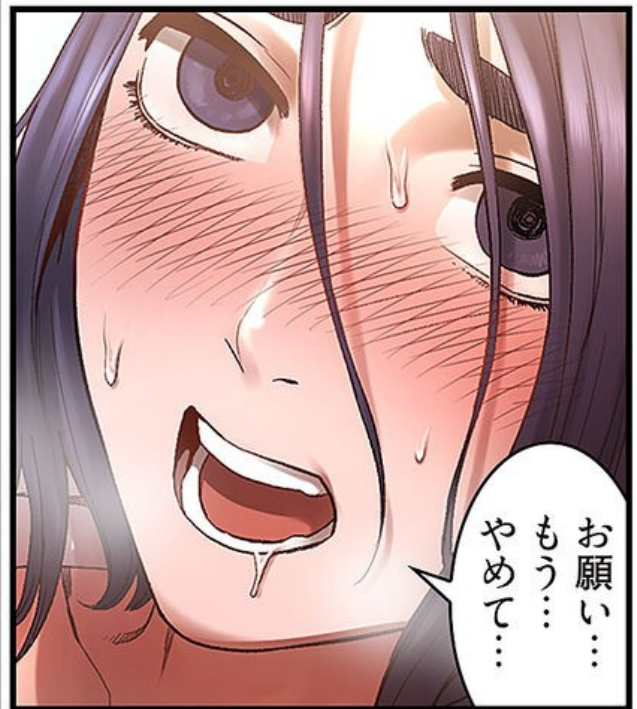
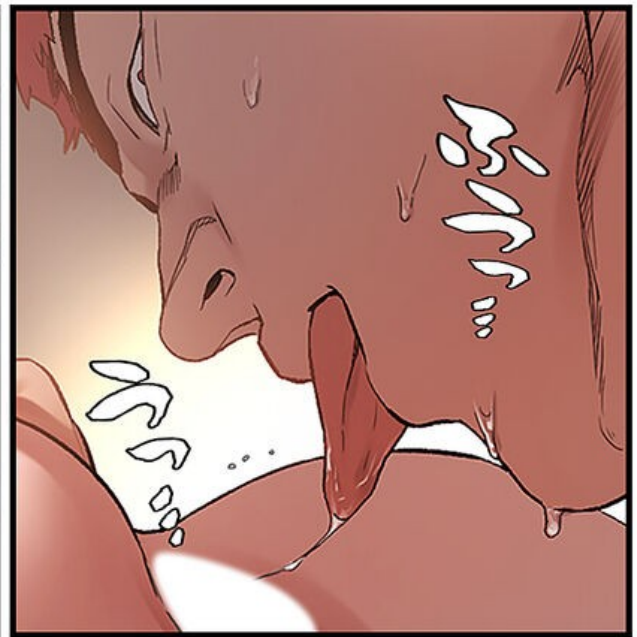
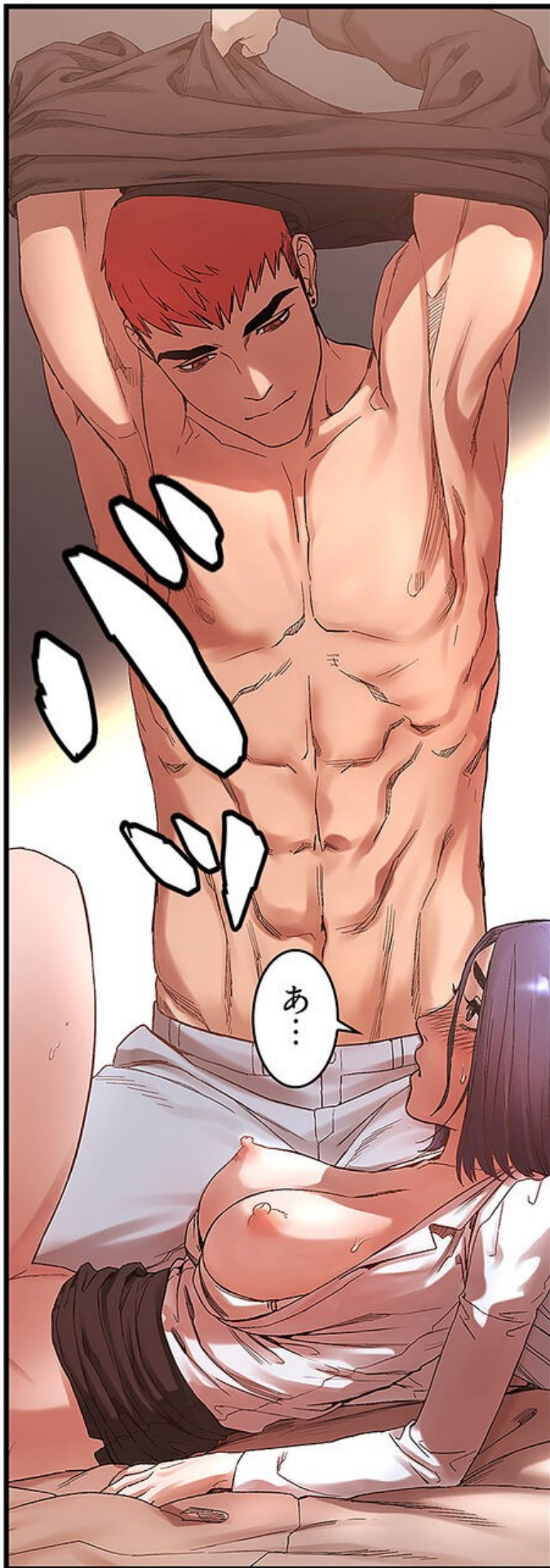
先生は
なれなかったけど
宮下君なら
きっとなれるわ

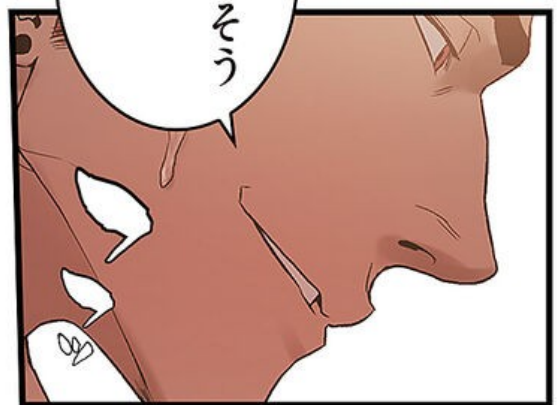
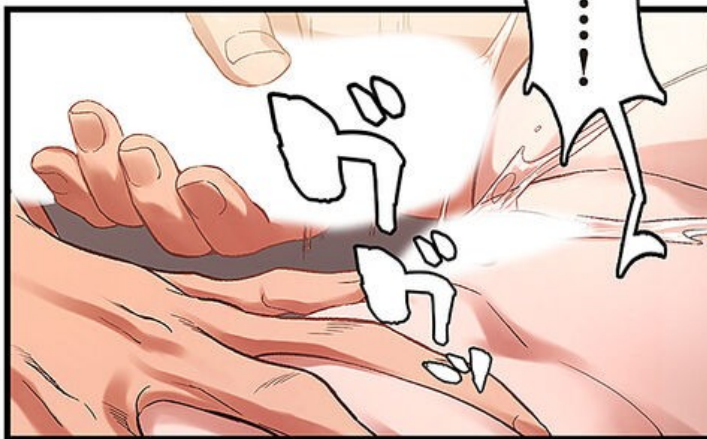
教会にいったら
宮下君が
素敵な詩人に
なれるよう
祈るわね



後で先生に
詩を見せて
くれる？









不破君…
でも…

グチヨグチヨ
ですよ

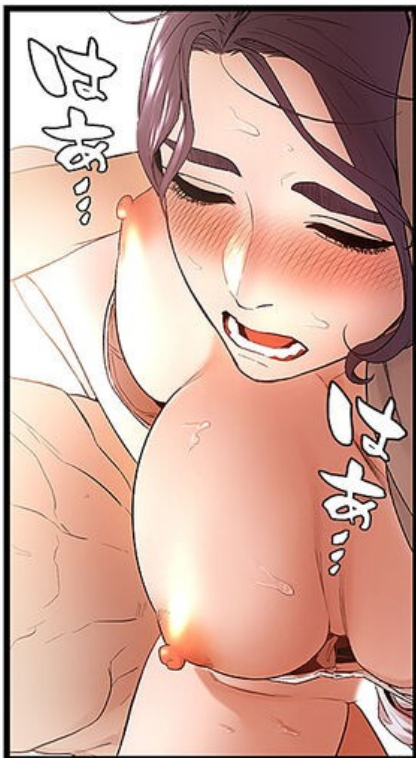
あっ…!!
ふあっ!!

ダメよ…



わかって
ます

先生が
ダメって
言う時は

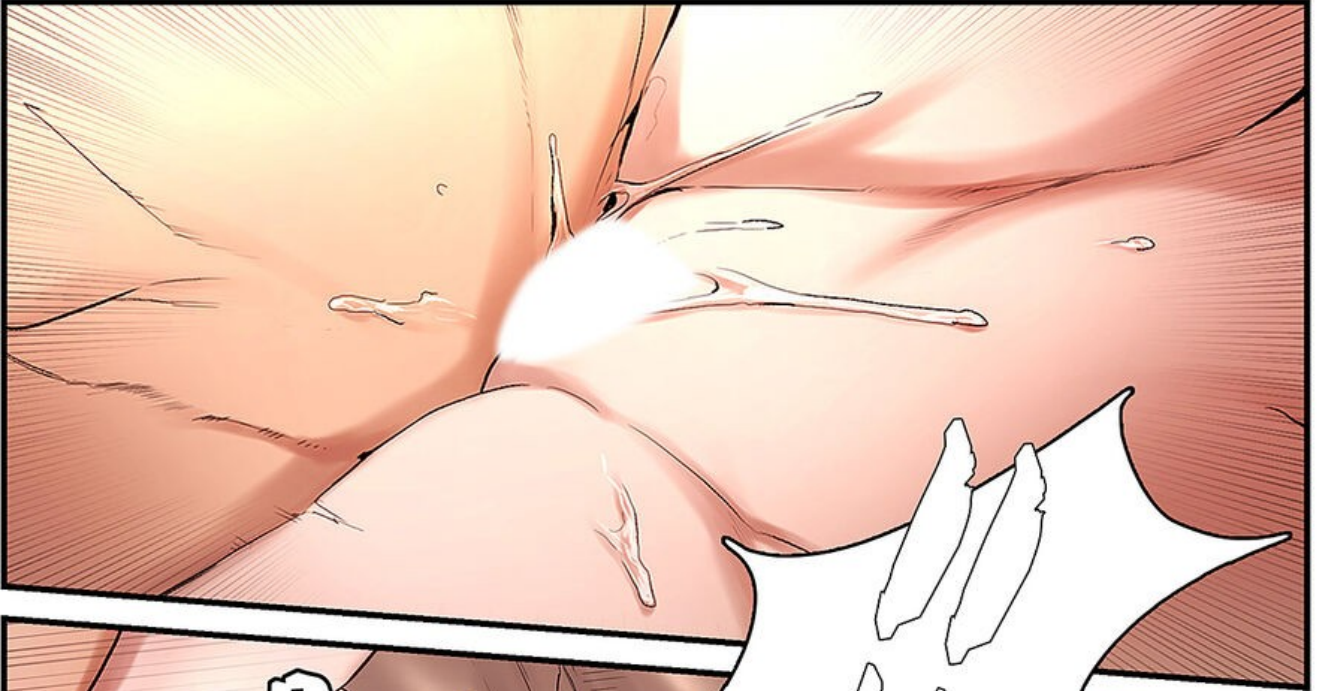
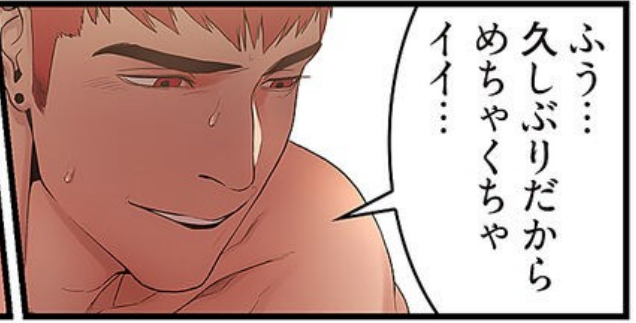
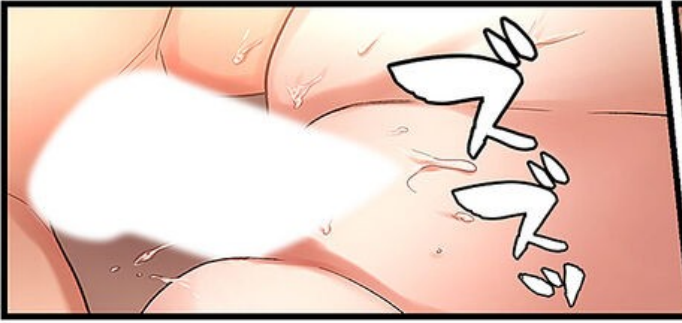


たが...

たが...



いいって
意味だっけね





ふあああつ!!

先生の
ココは...

いつも
ねっとり
締めつけて
きますよね

はん...

はあん

うっ...

他の男には
本当に
やらせてないん
ですよ?

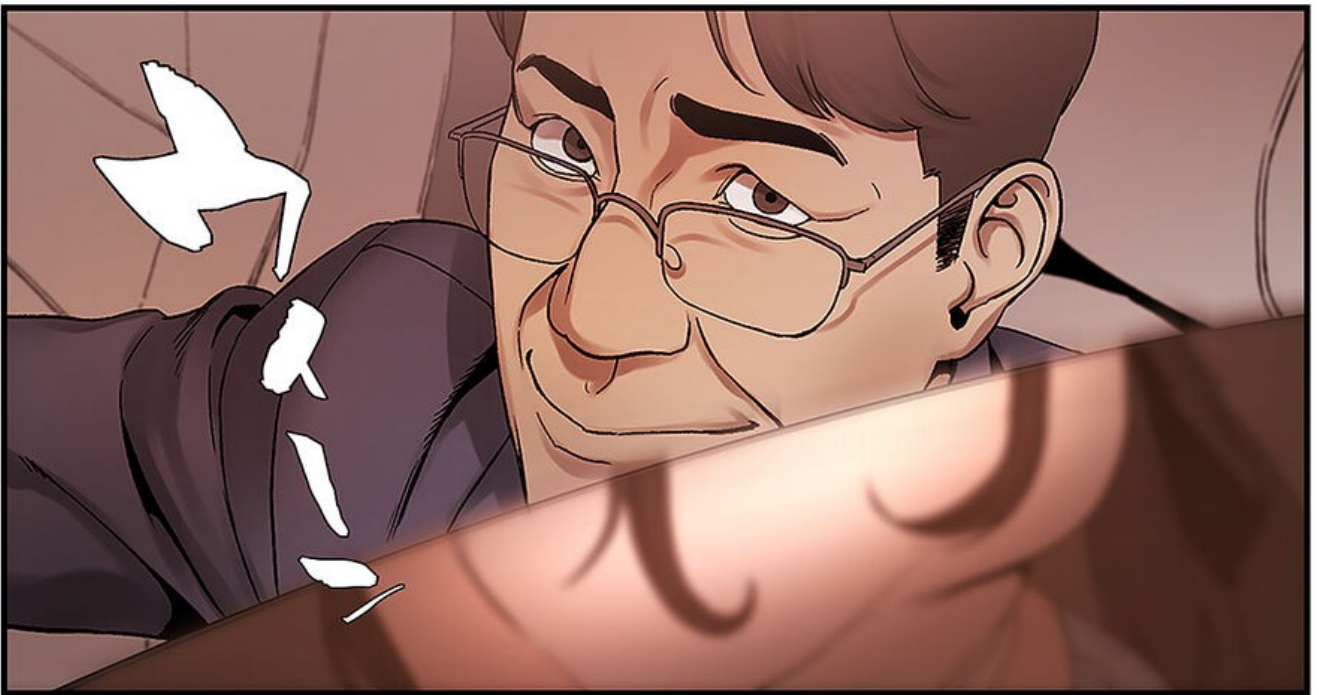
ふあつ

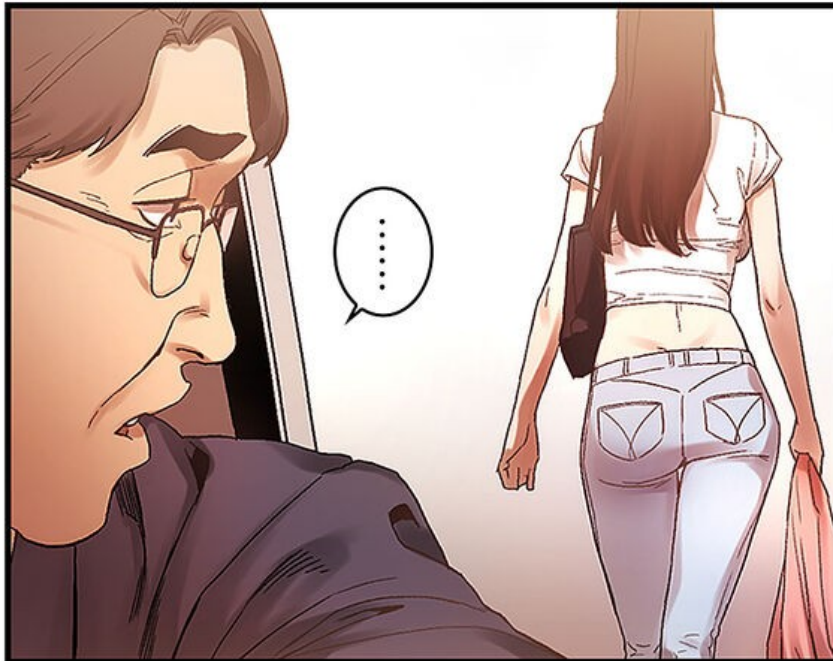
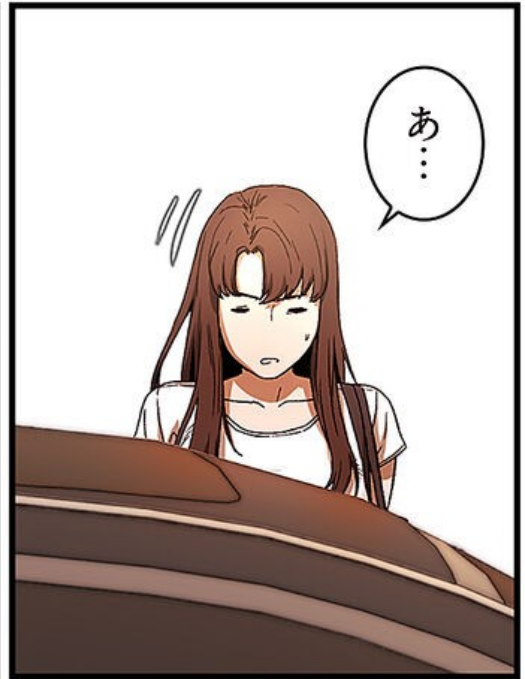
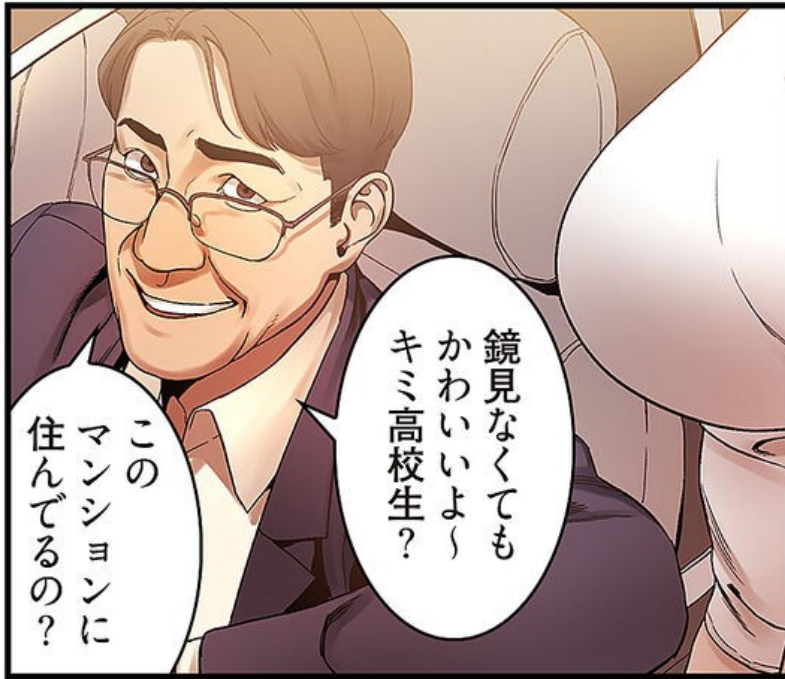
ま...
ま...
ま...

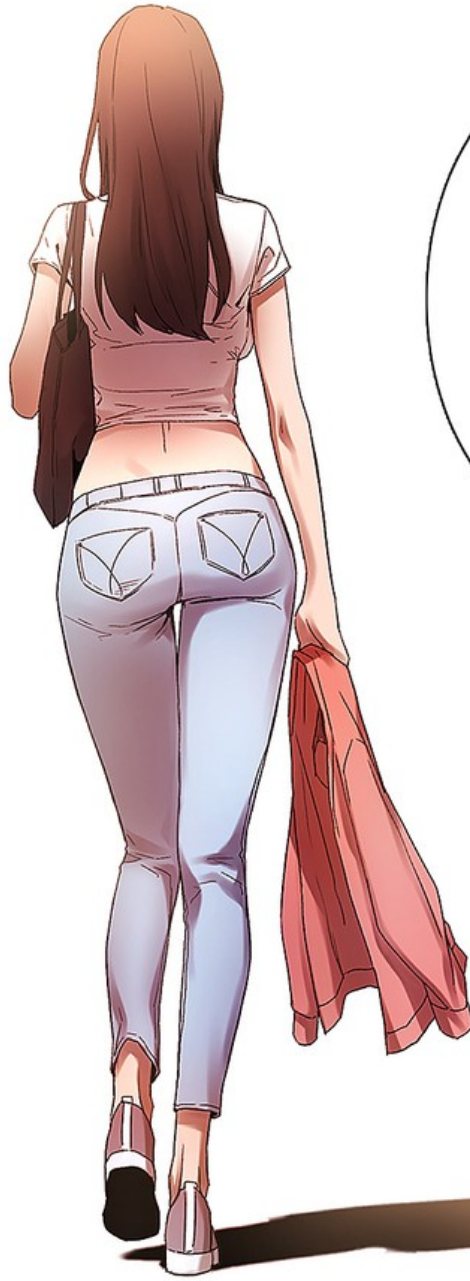
そんなこと...
うっ...

ま...
ま...
ま...

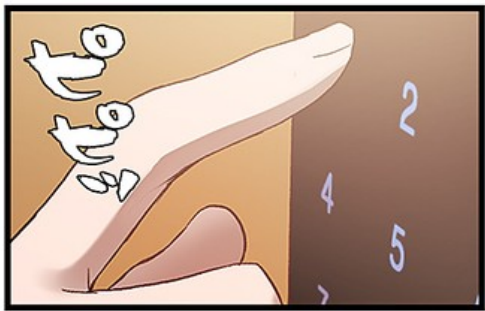
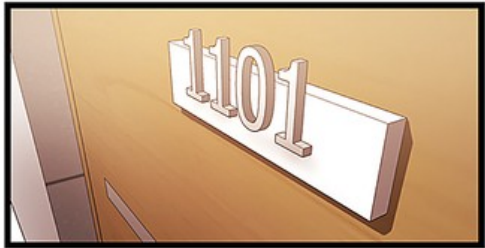
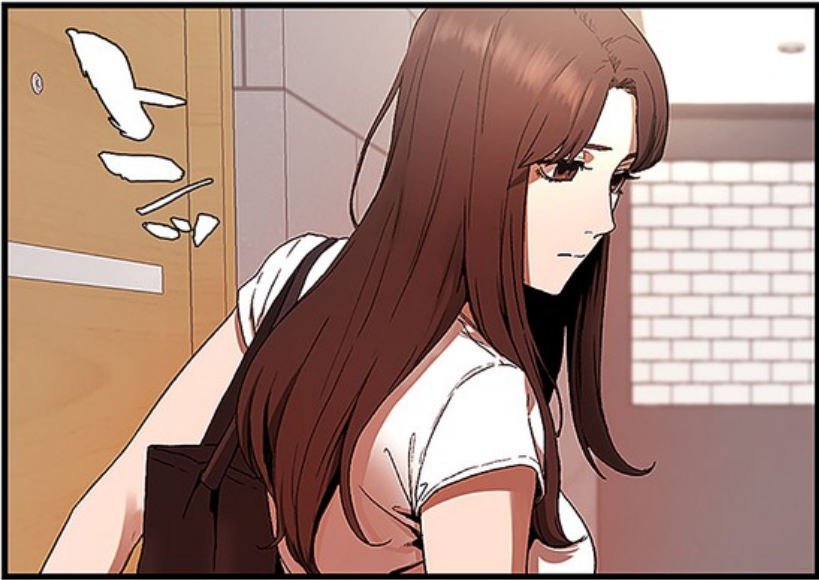


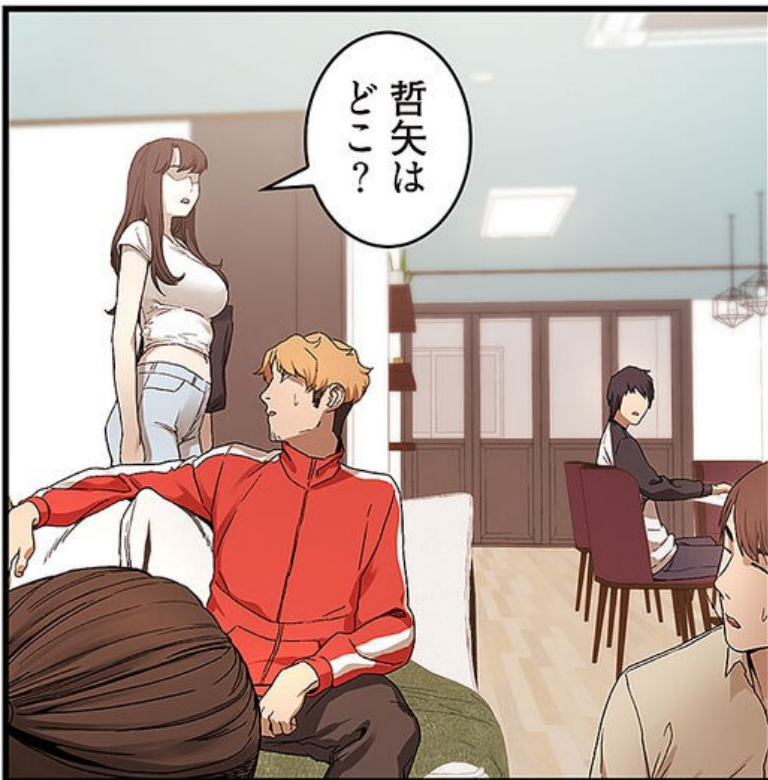
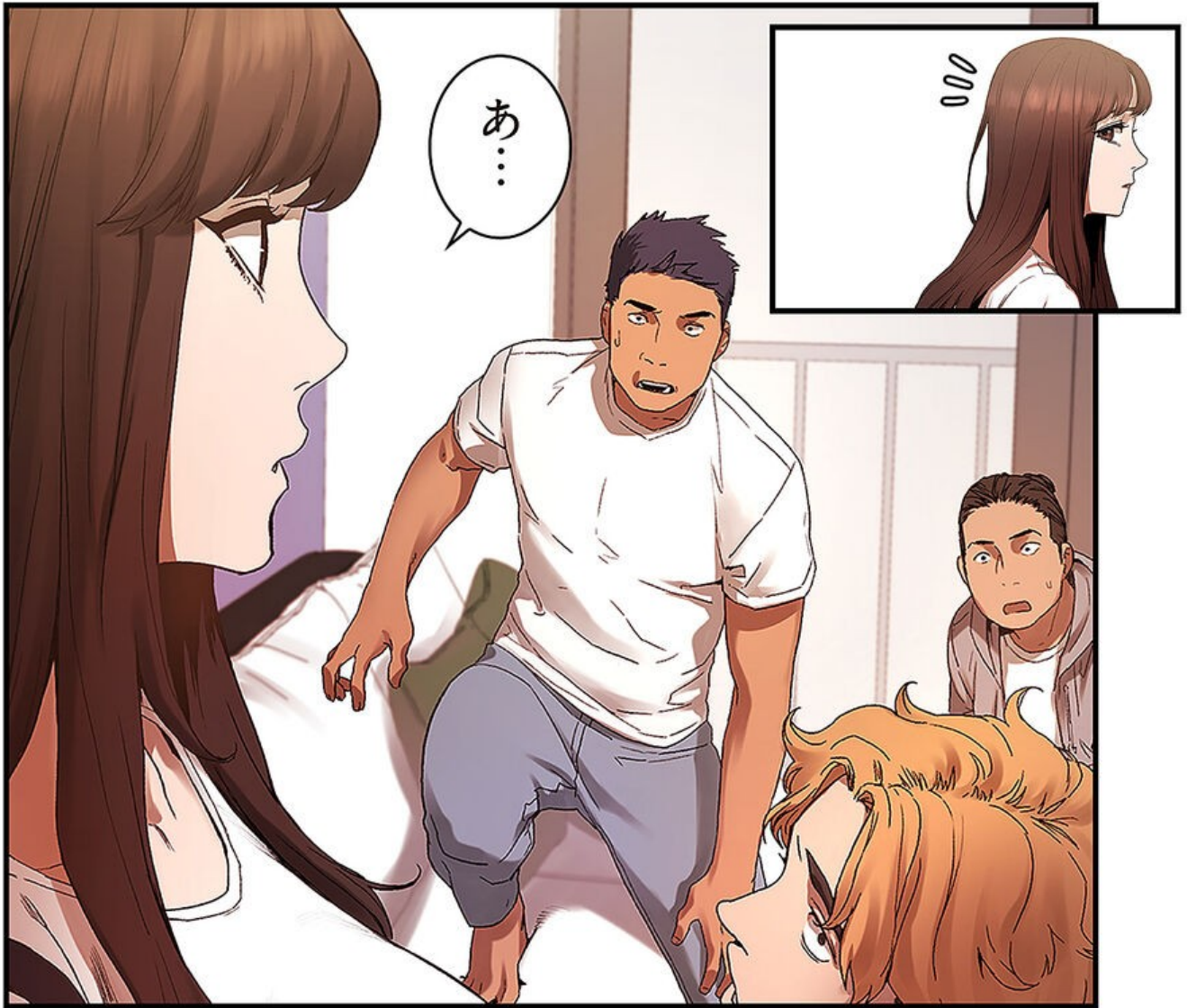






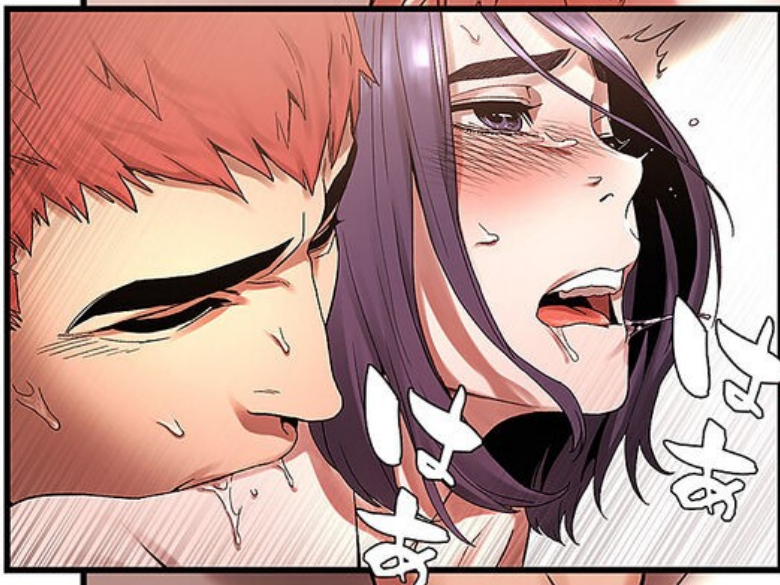
俺だって
かわいい嫁が
いるっての







はあっ



はあっ



うっ…!

はっ



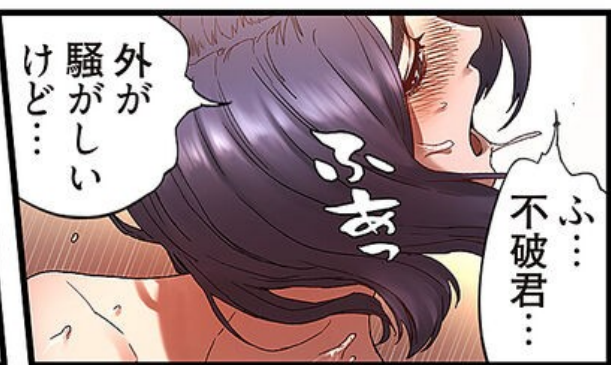
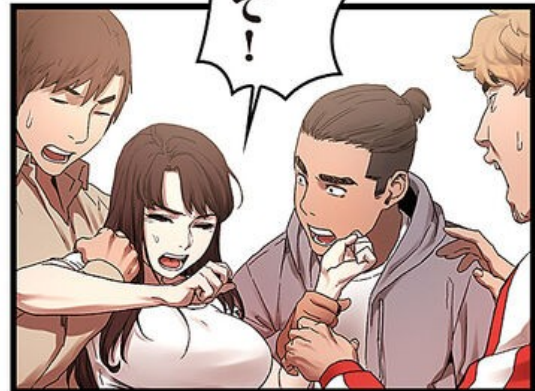
寝室ね？

日菜子
ちよっと
待て！

止めろ！

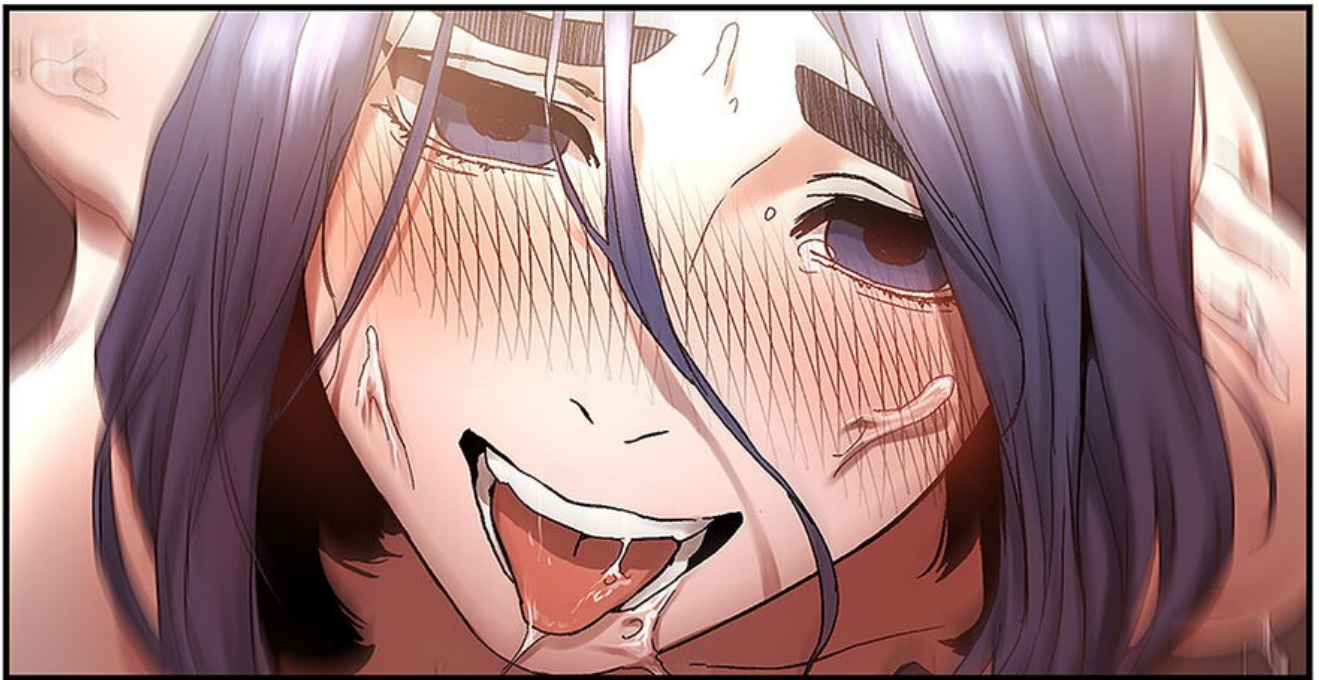


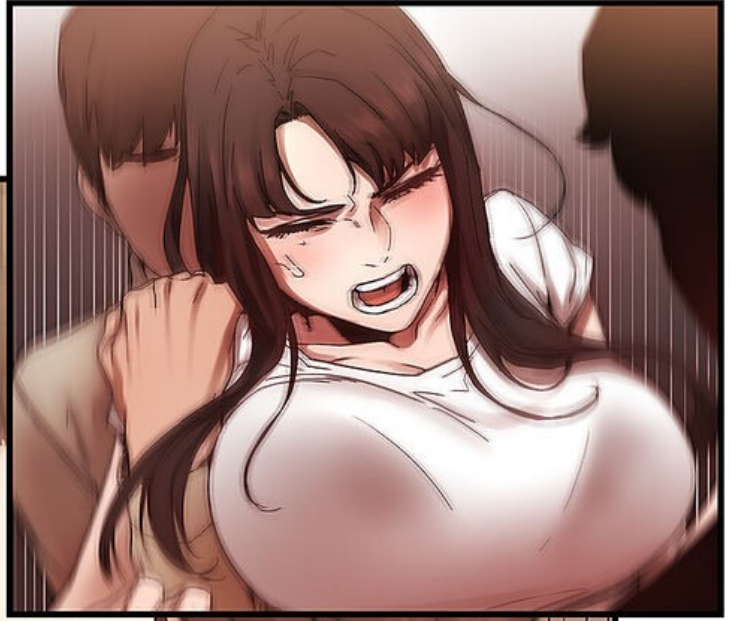
何よ
放して！



外が
騒がしい
けど…

ふ…
不破君…





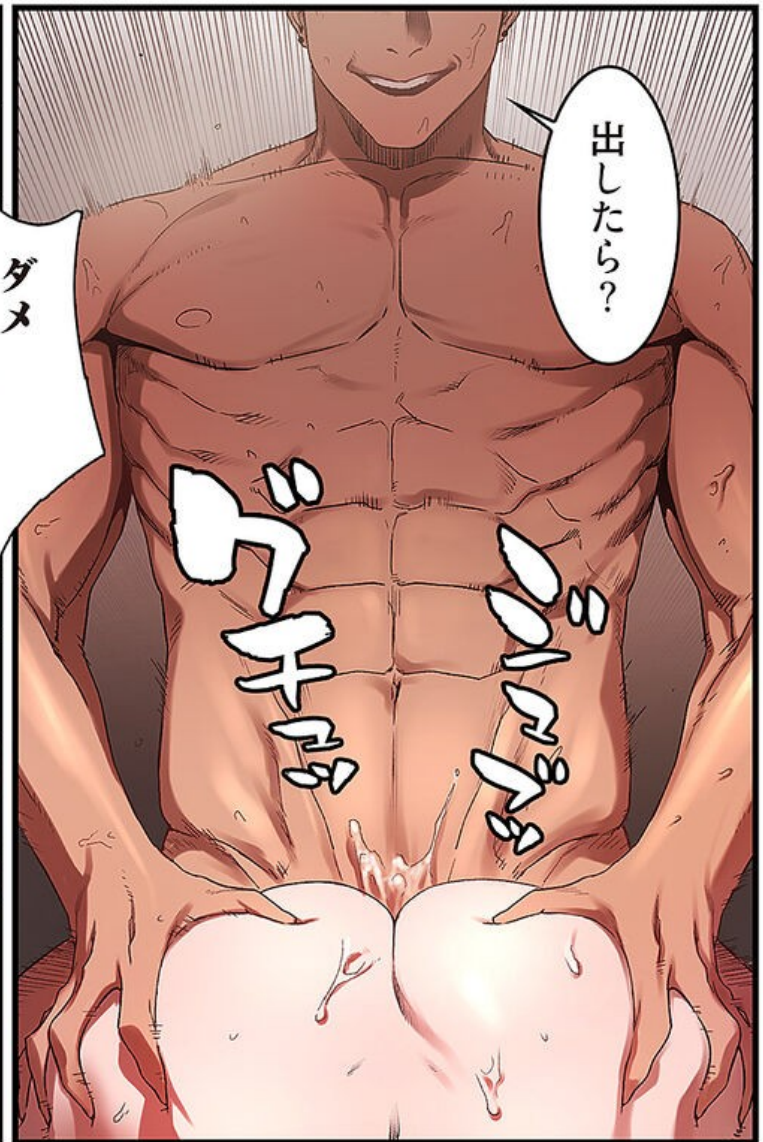
哲矢あ
出てきなさいよ!!



生
殘
賭
博

生
殘
賭
博

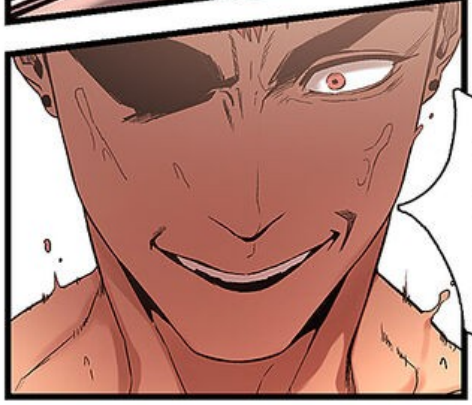






…ホントに
俺と会わずに
いられるのか？

ダメ…
うっ…



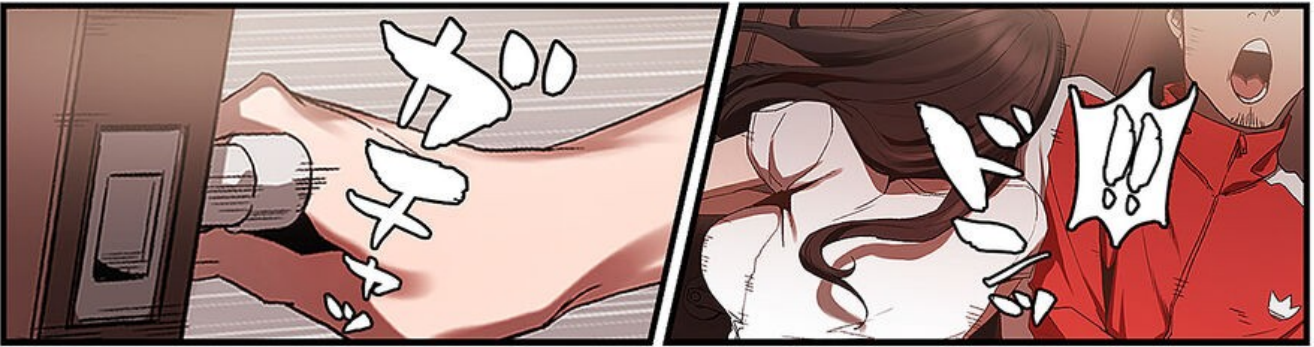
やめて…！

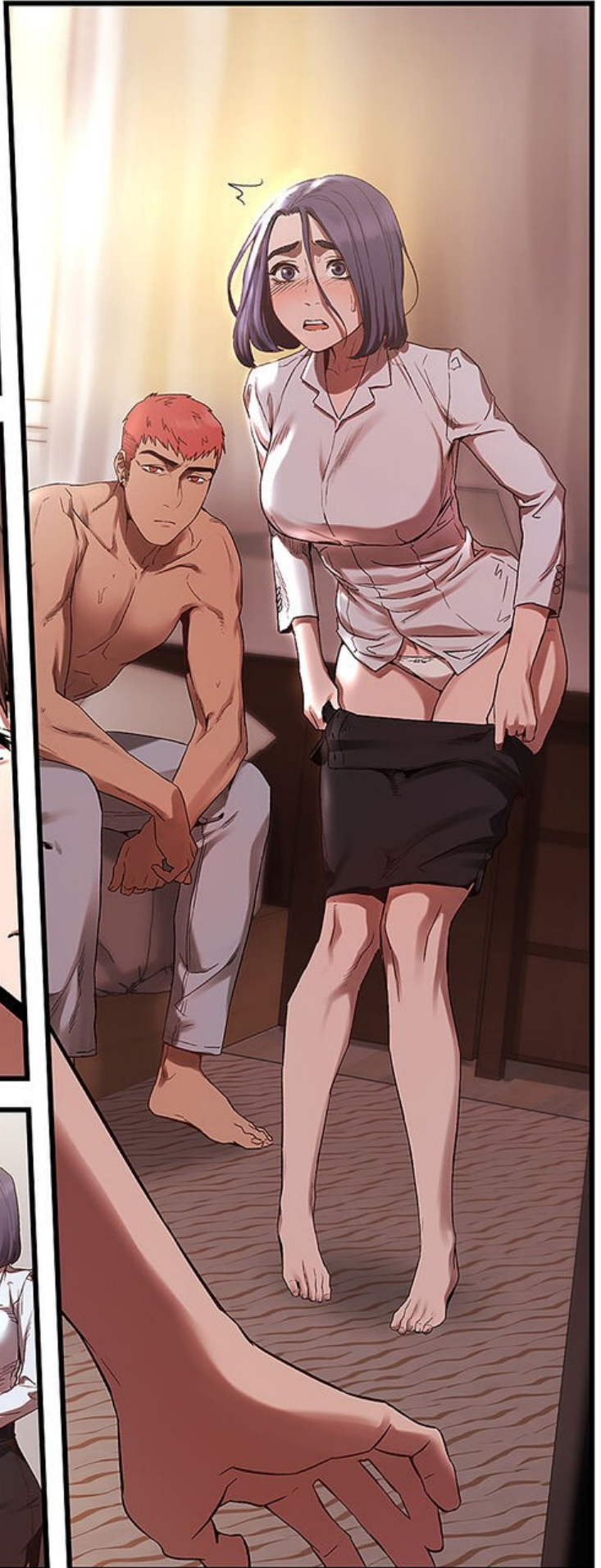


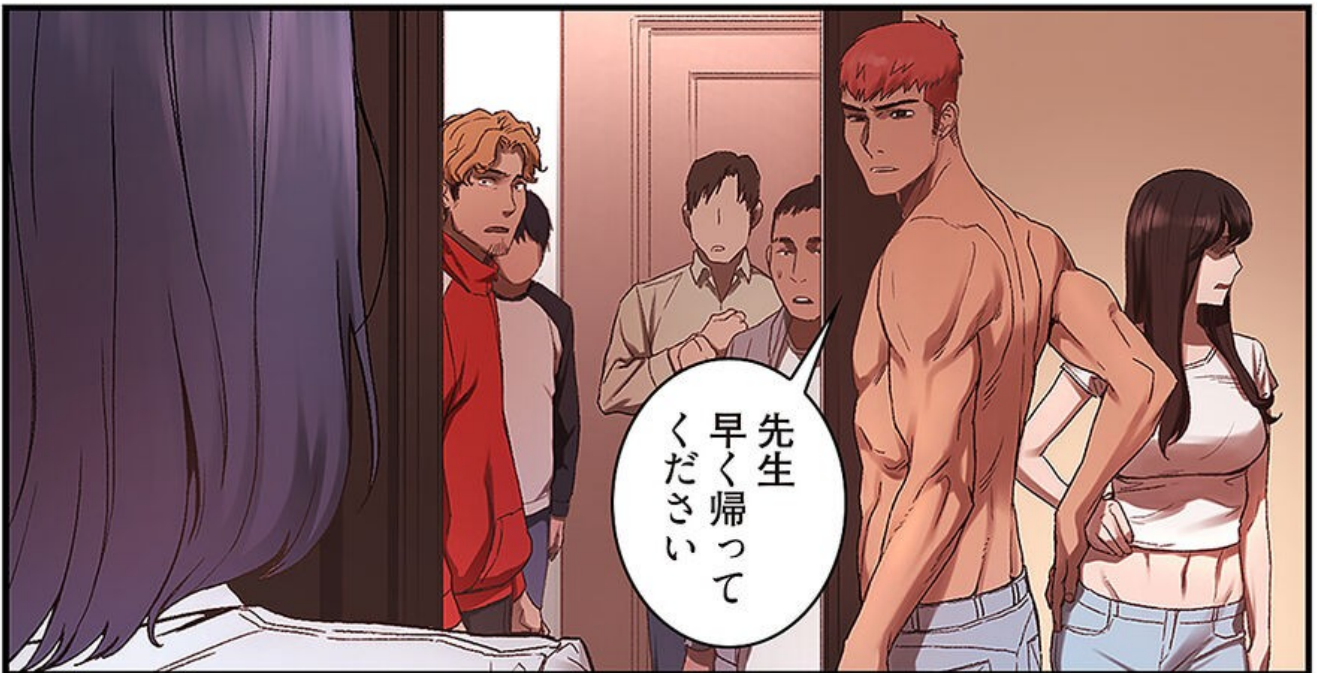
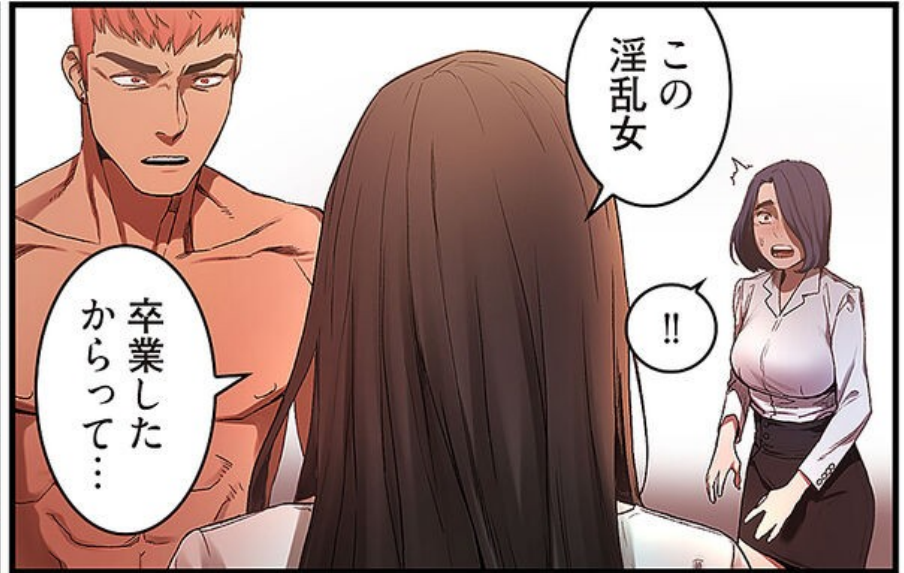
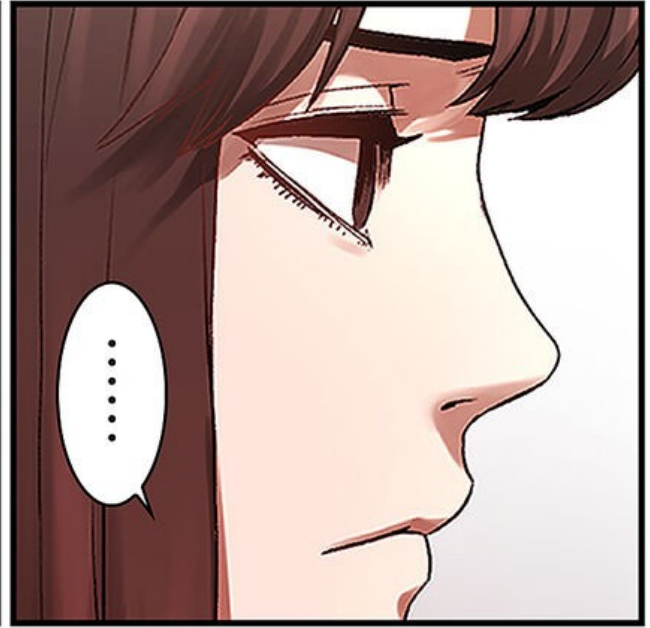
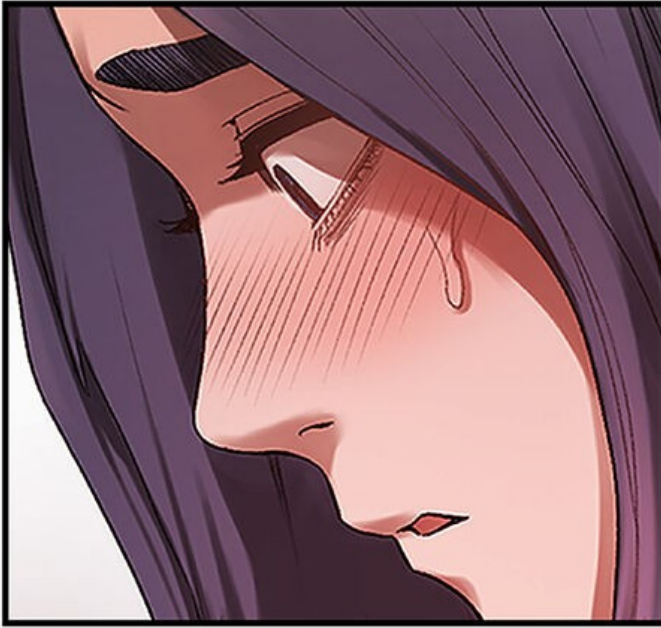
はあ…
お願いだから…
不破く…ん

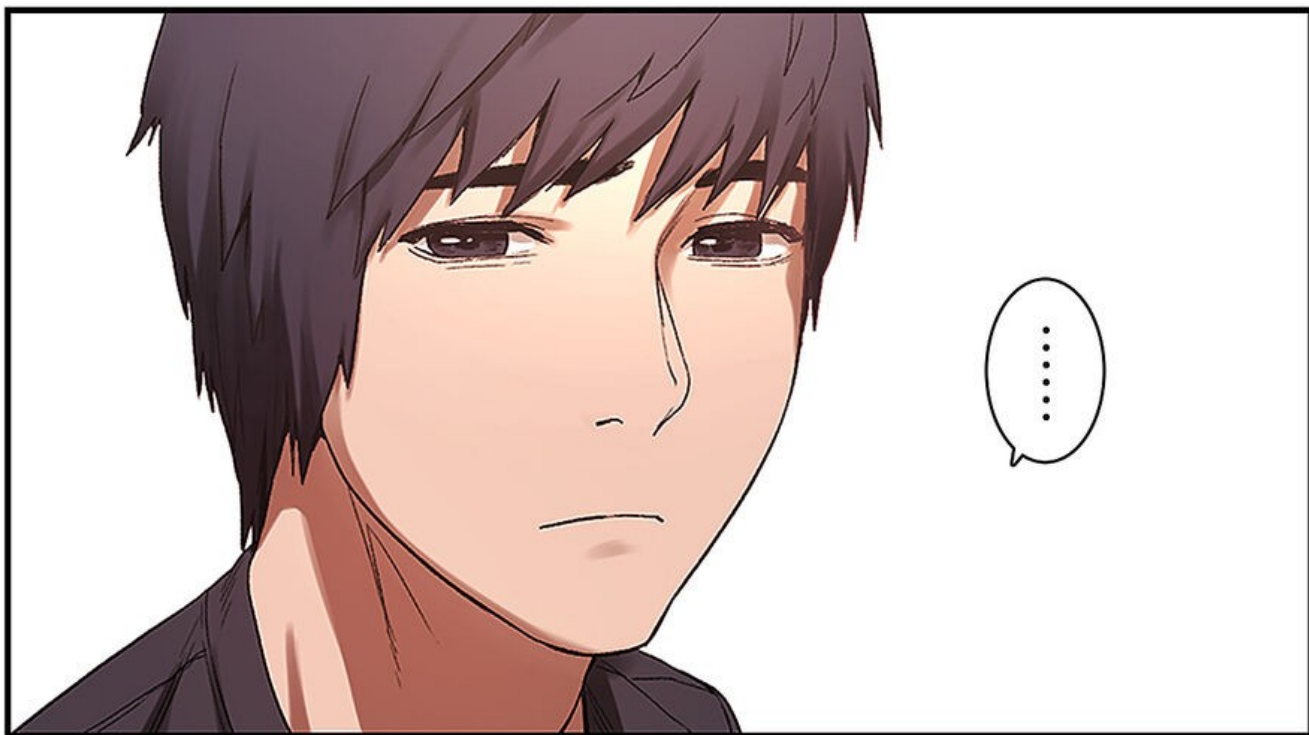
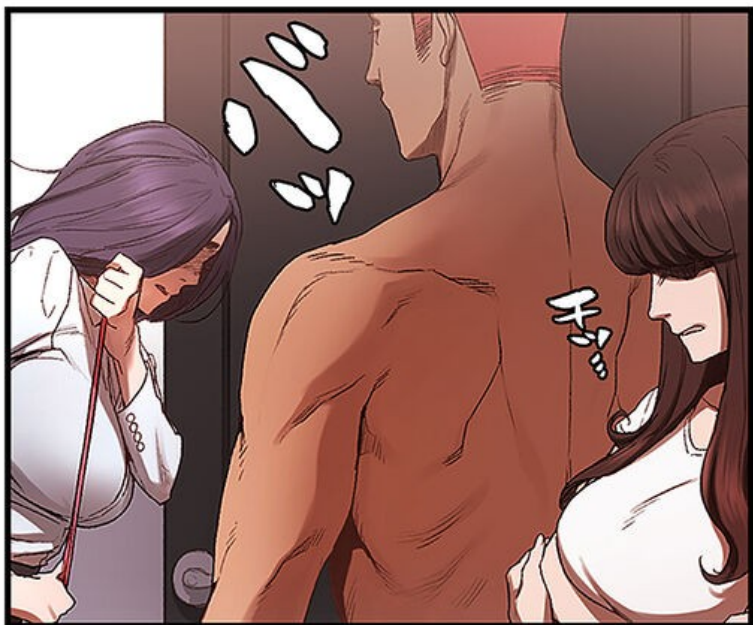


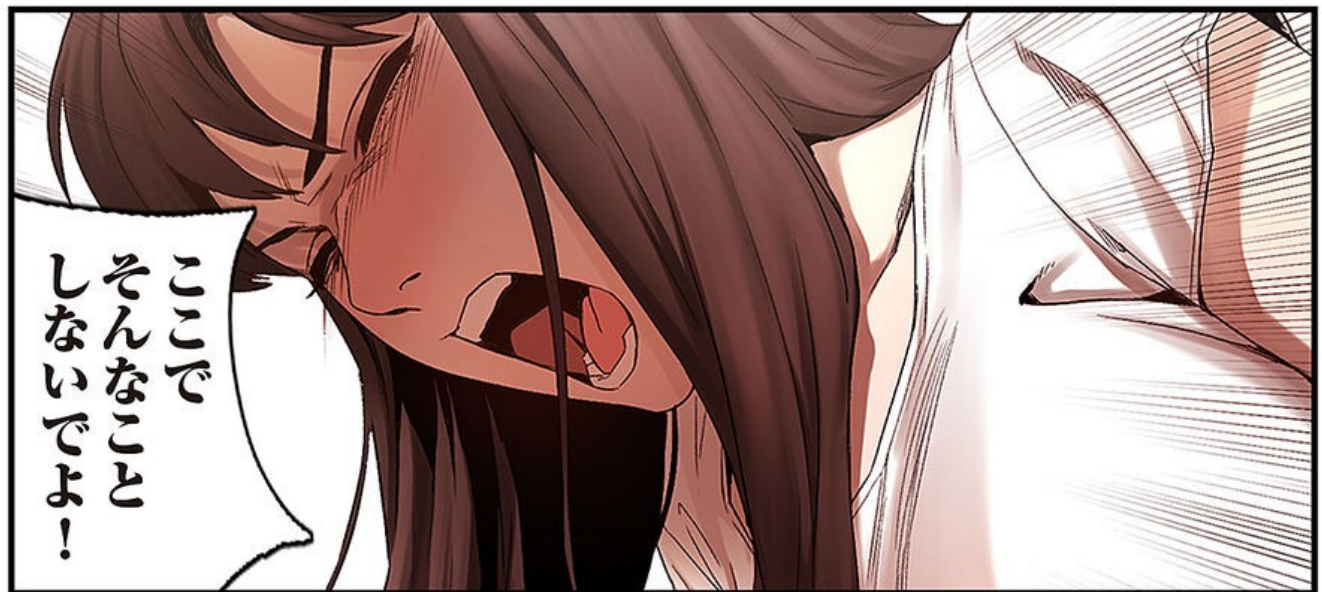






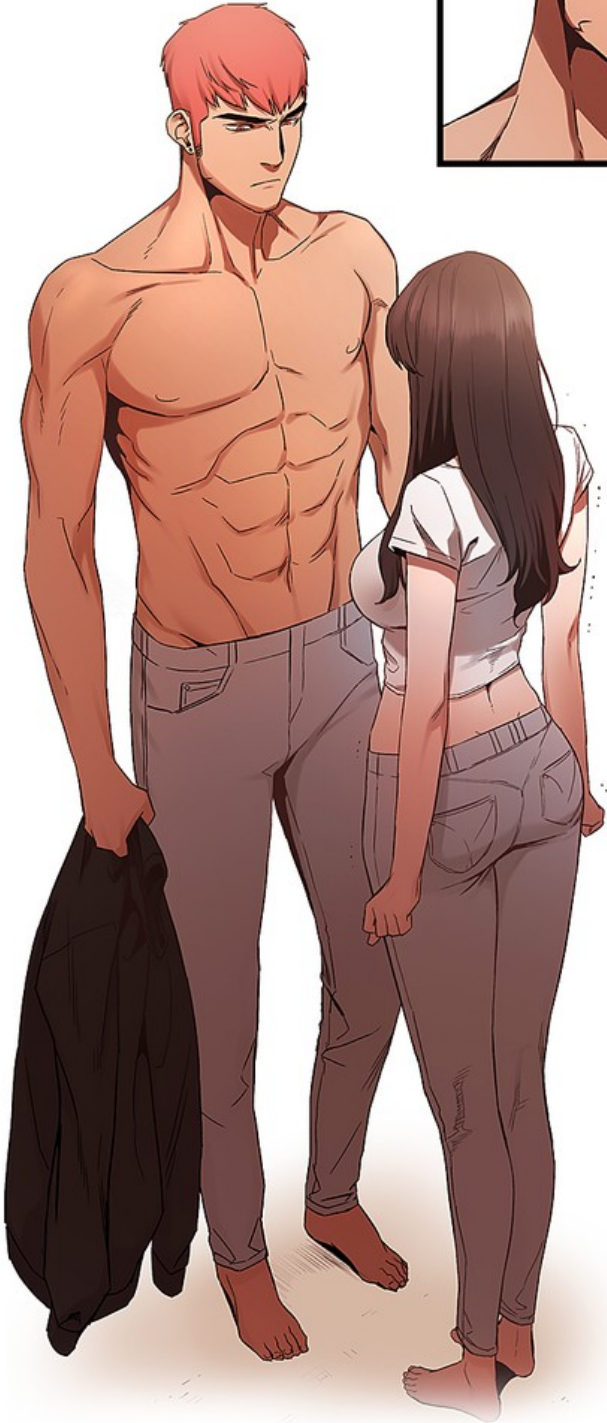








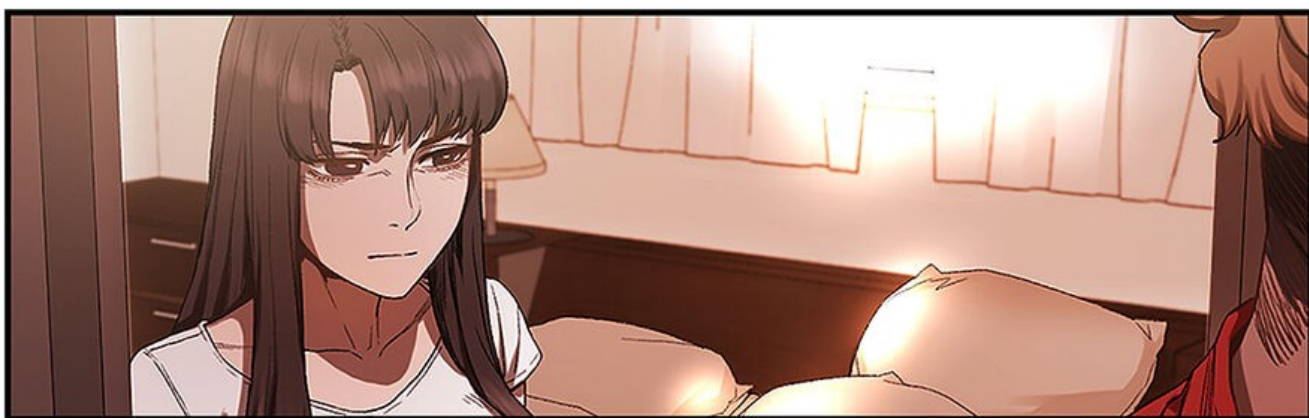
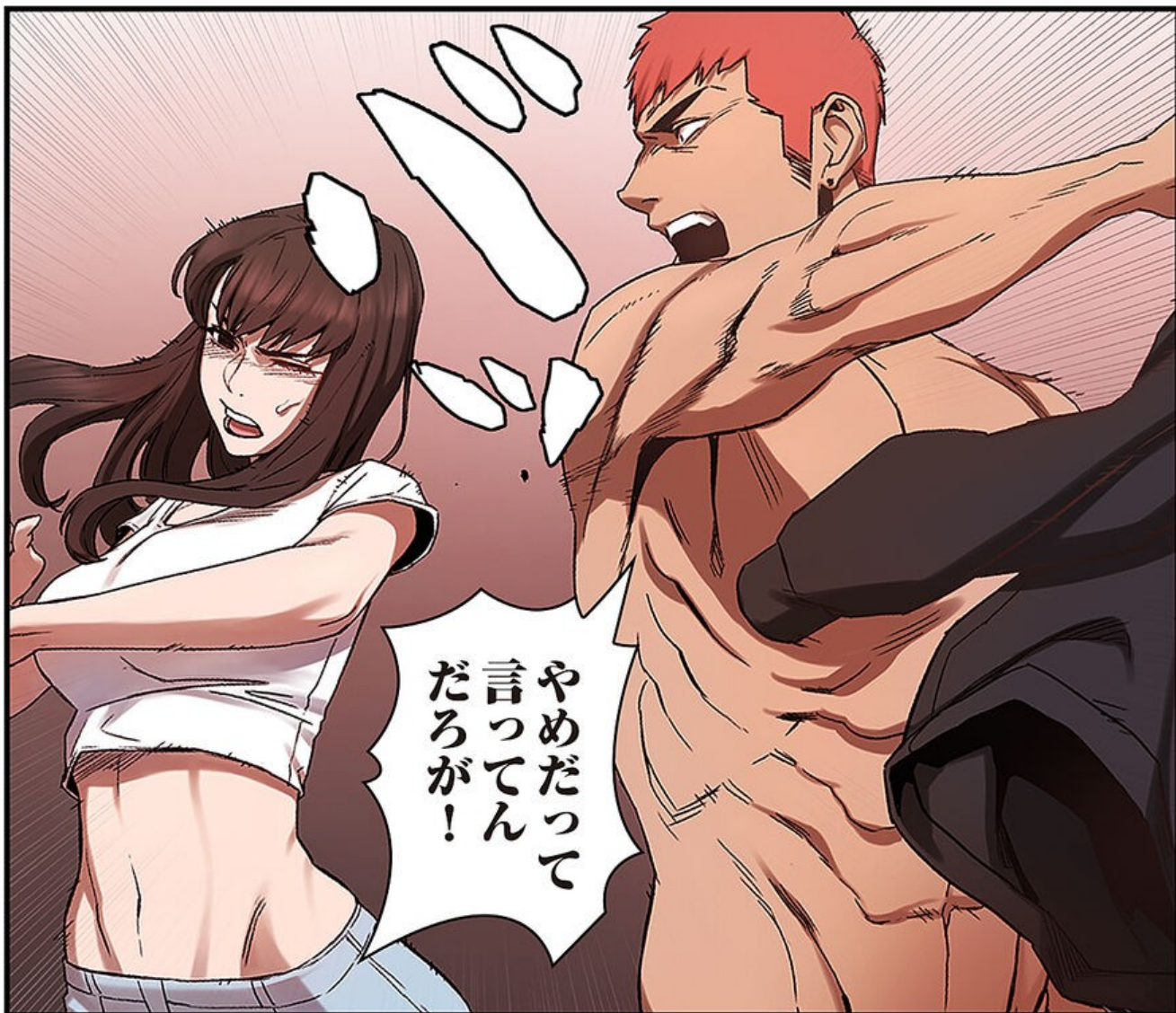
ここ？
ここは
お前の
マンション
なのか？

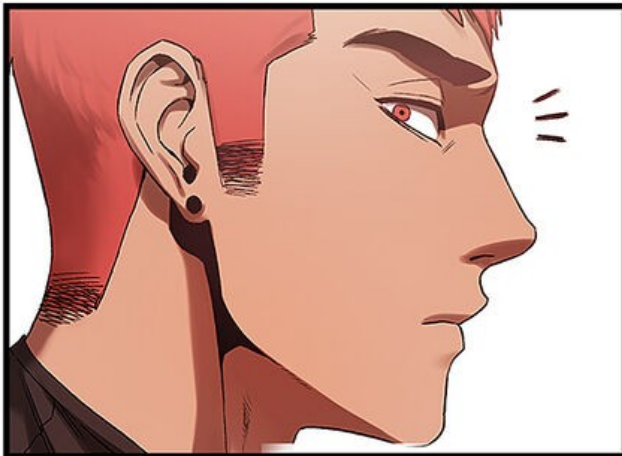


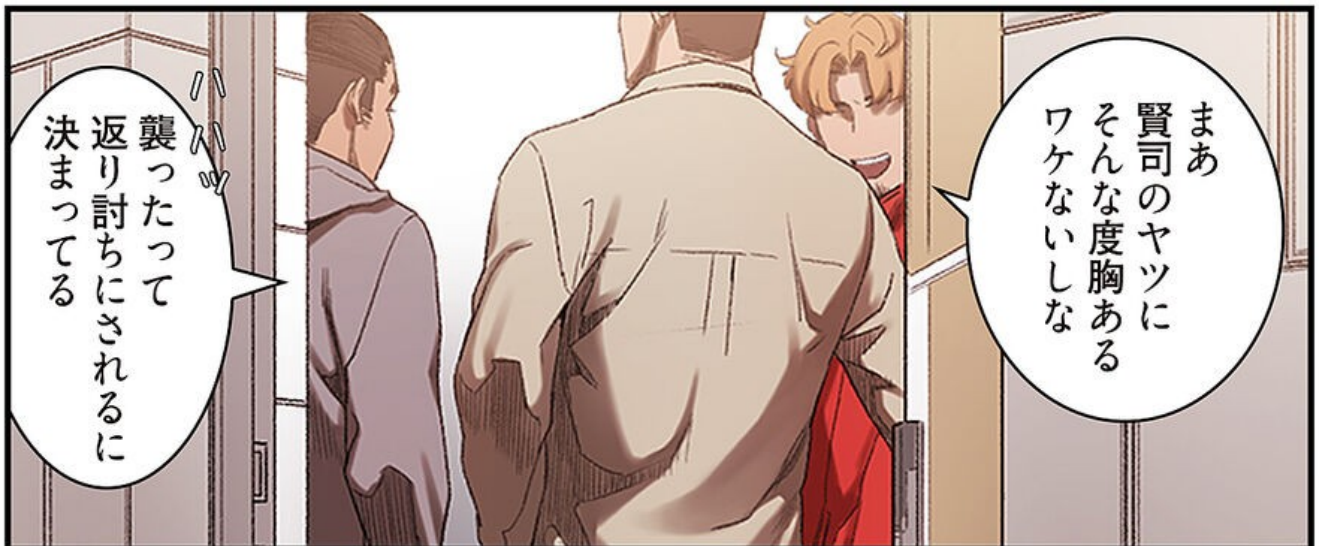
約束した
じゃない

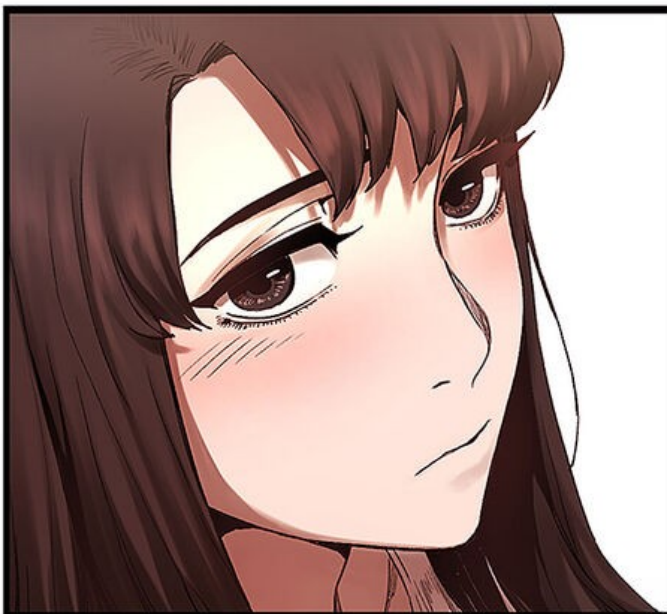
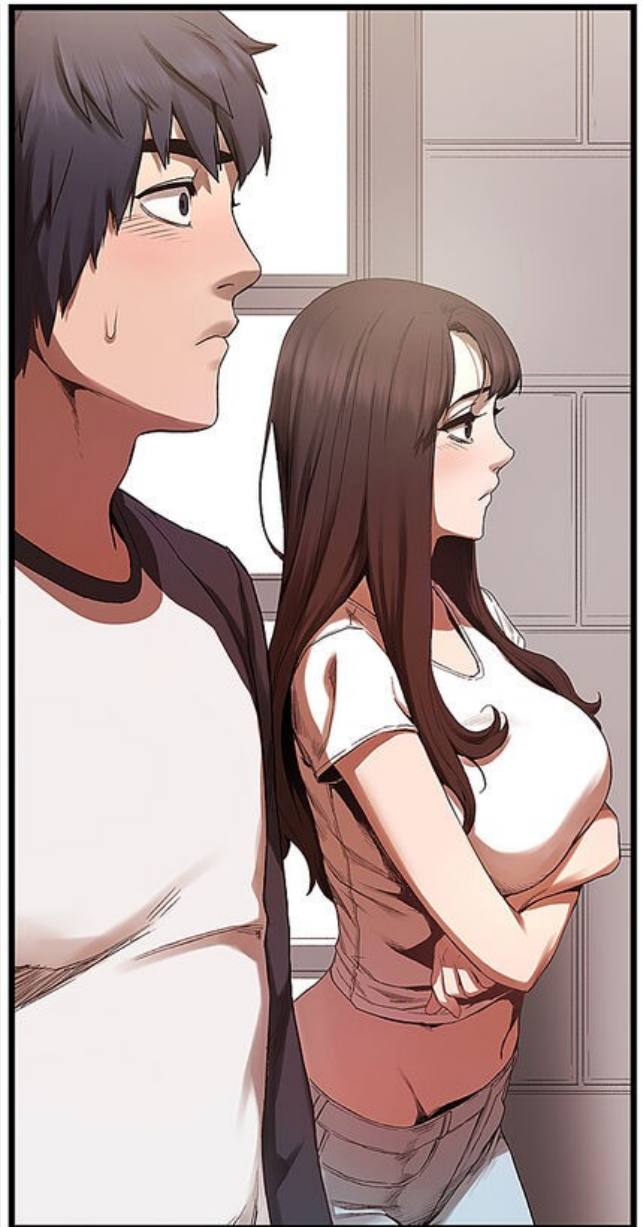
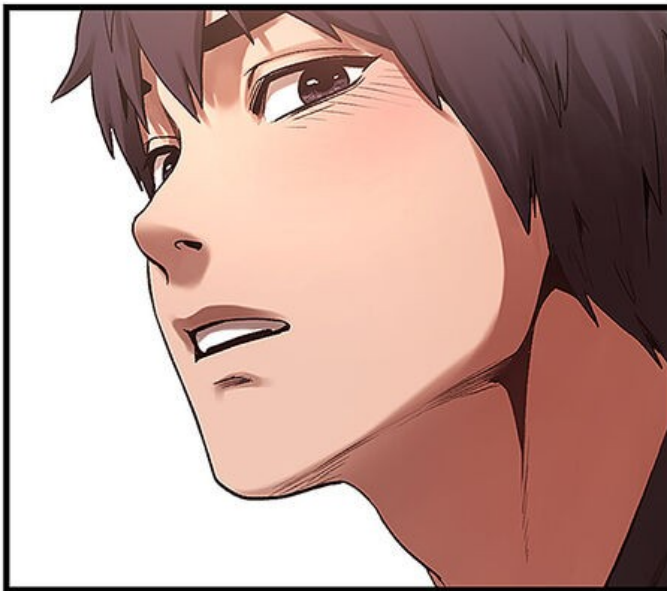
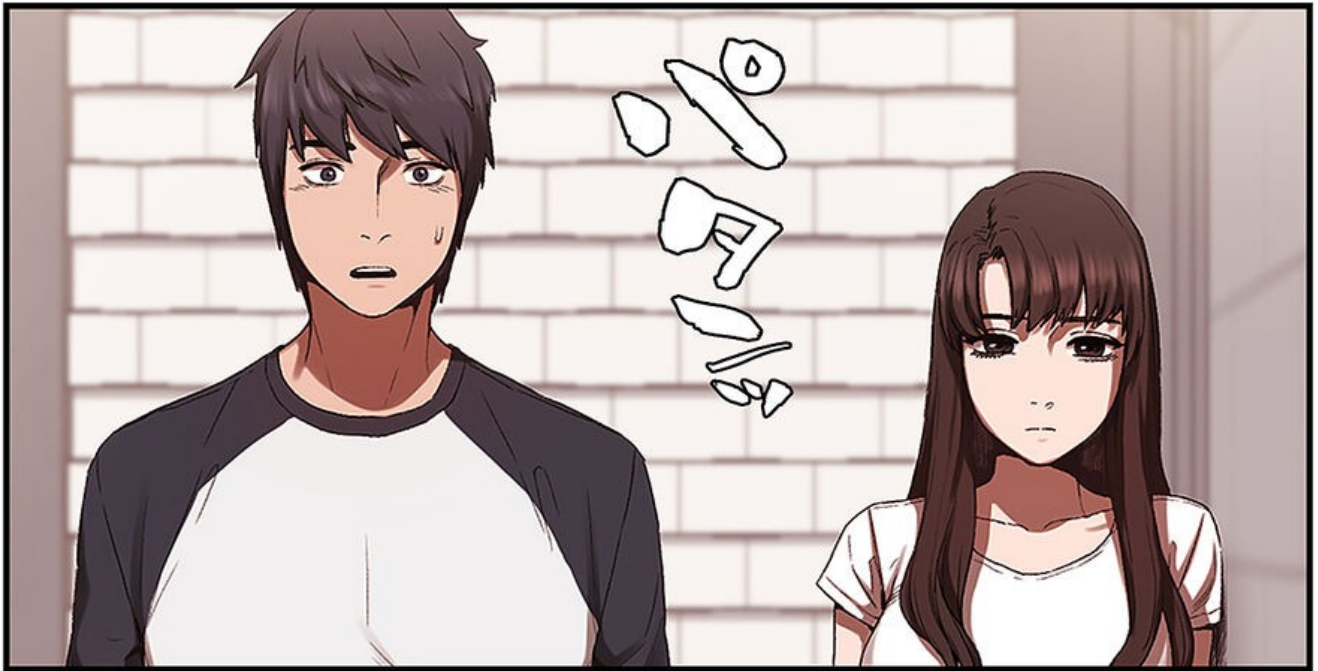
私の目の前では
ダメだって

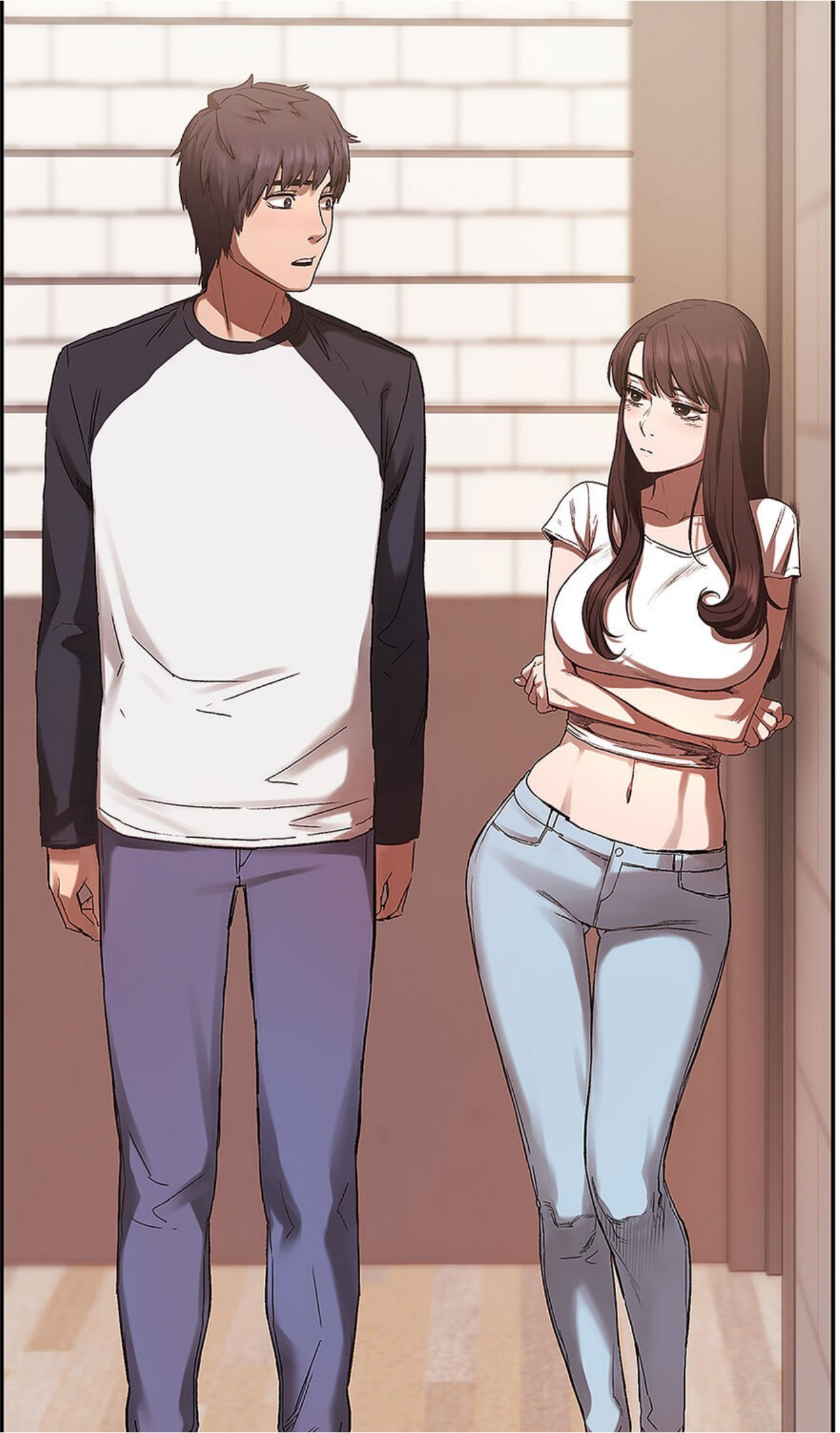












生
殘
賭
博

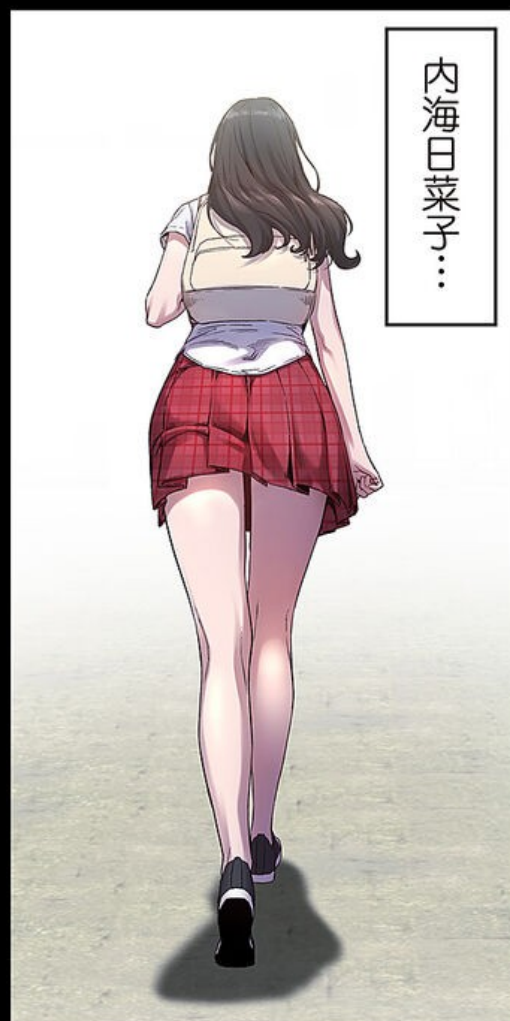


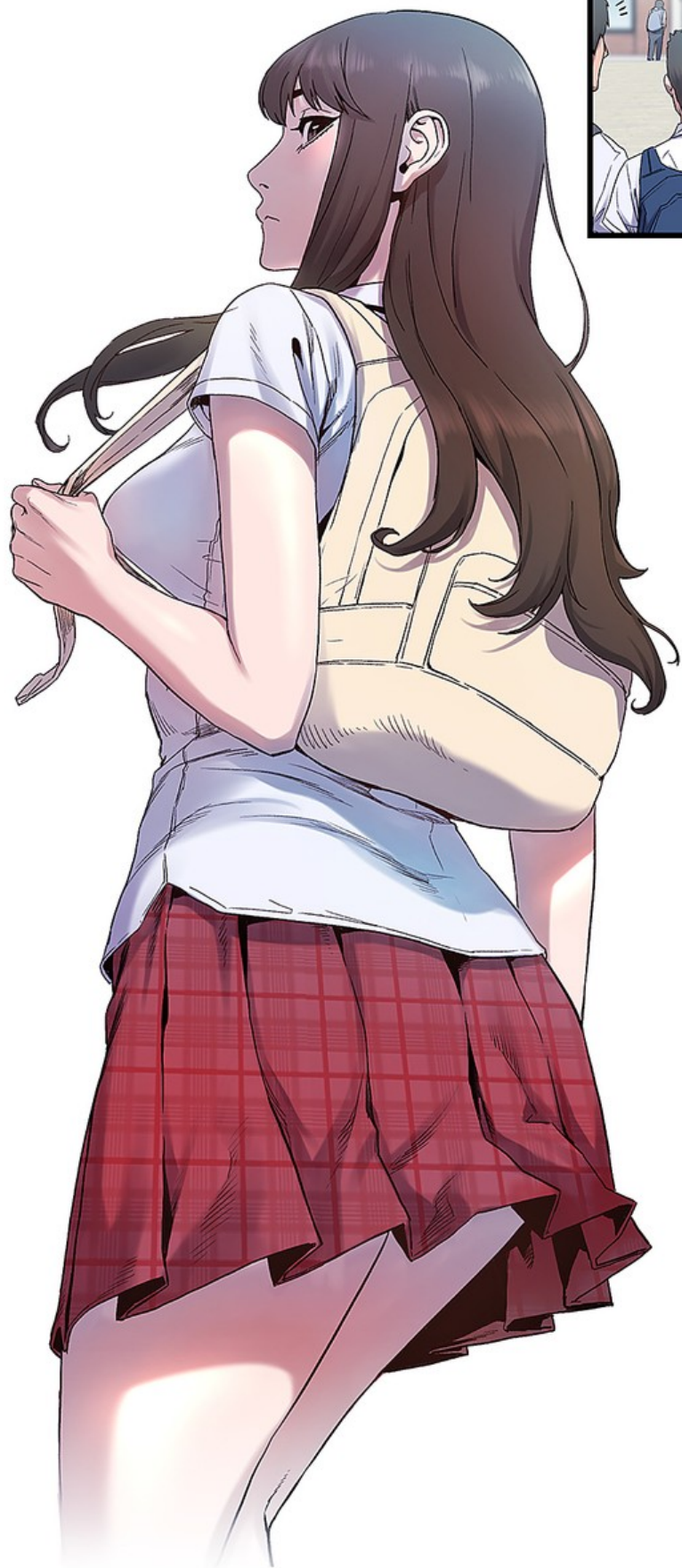
第3話 僕の女王



日菜子…



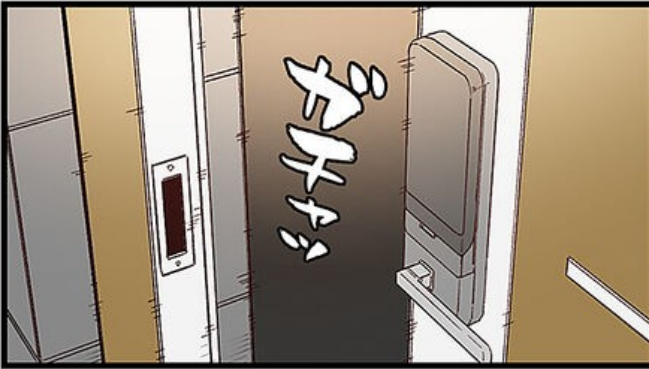
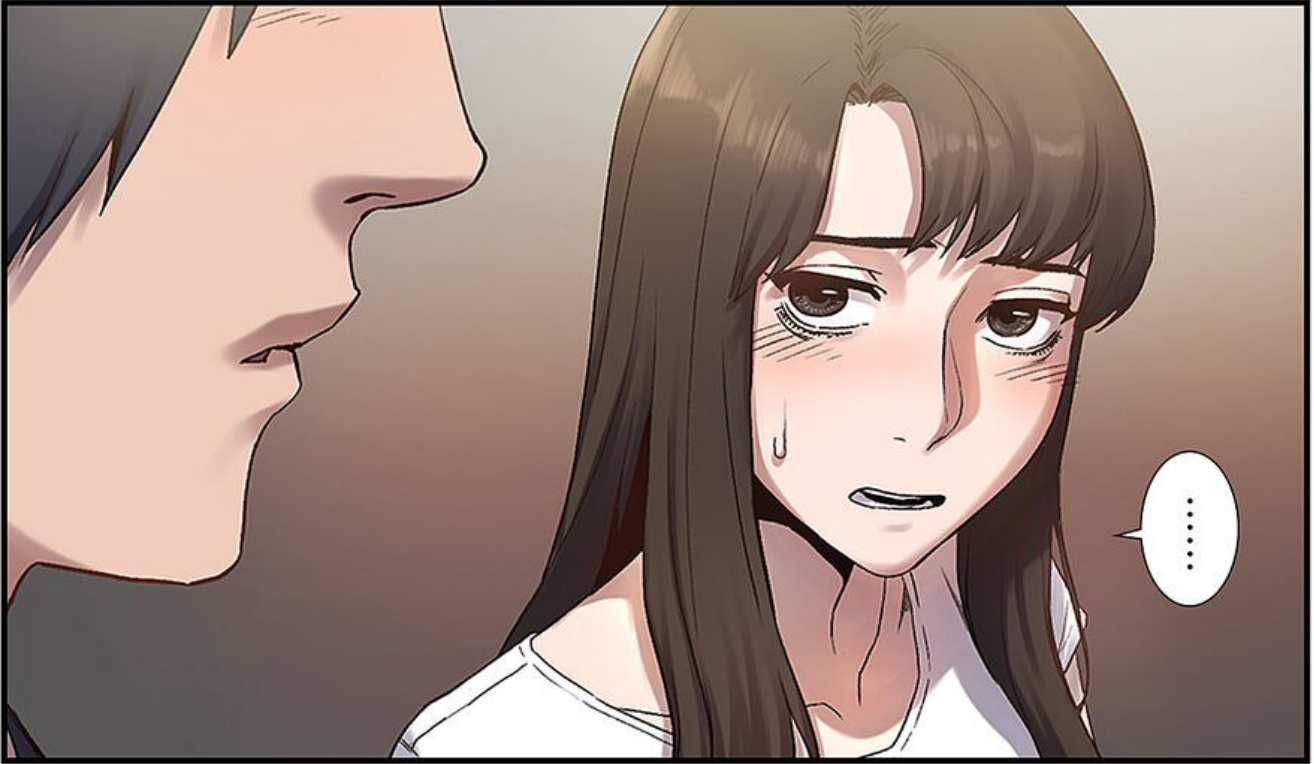


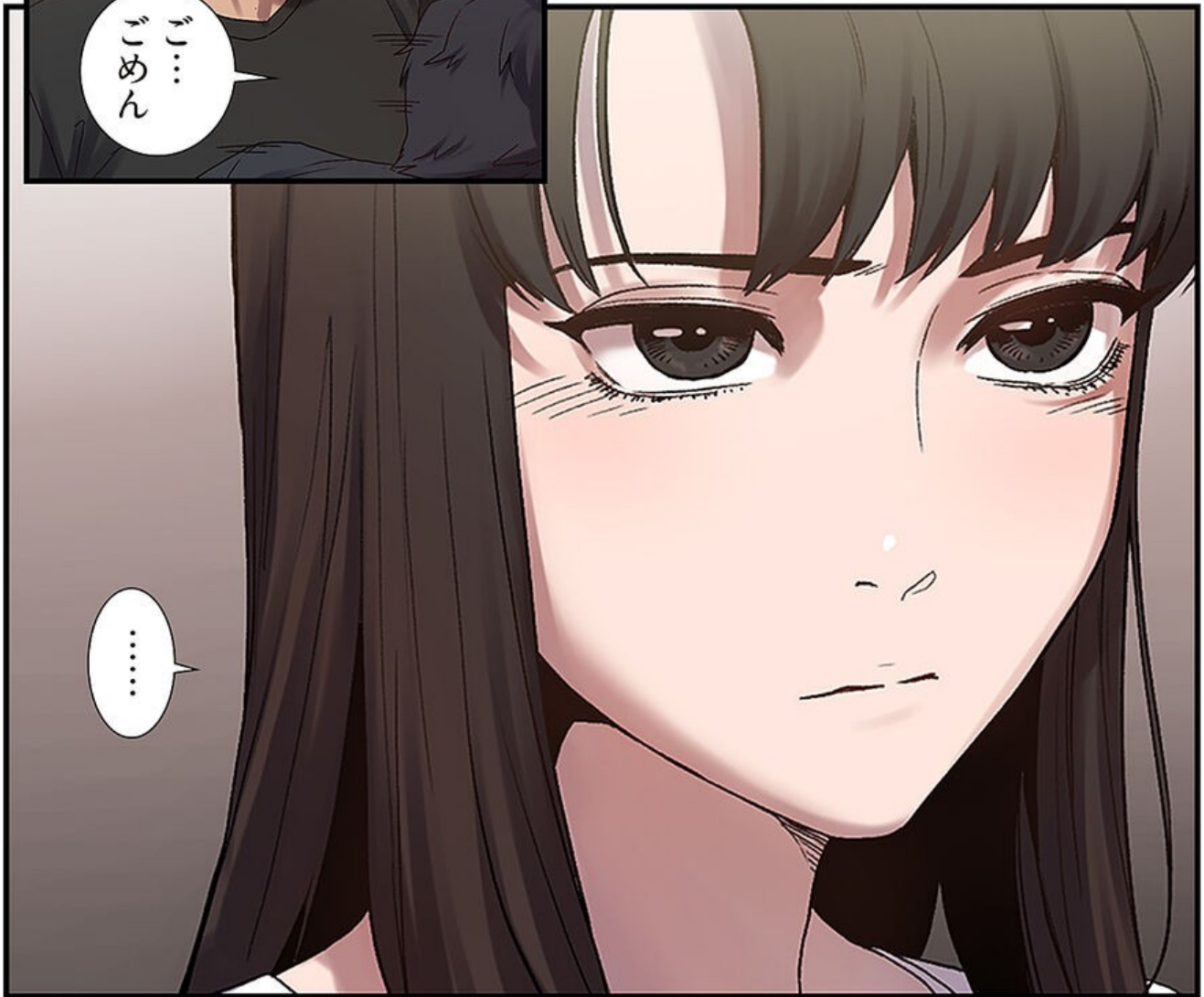
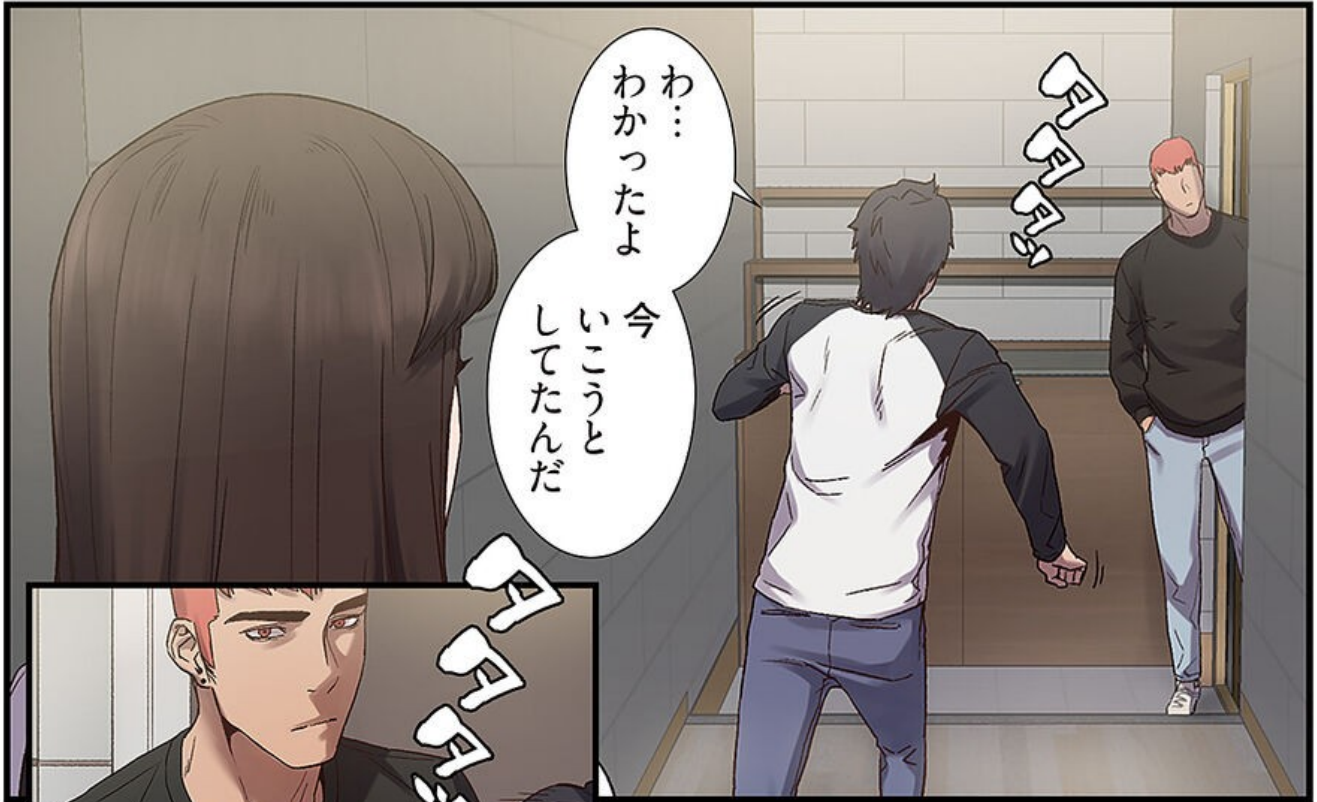


ア
ア
ア



僕の
夢の中の女王







賢司...!!
お前もホント
バカだよな



まじったく

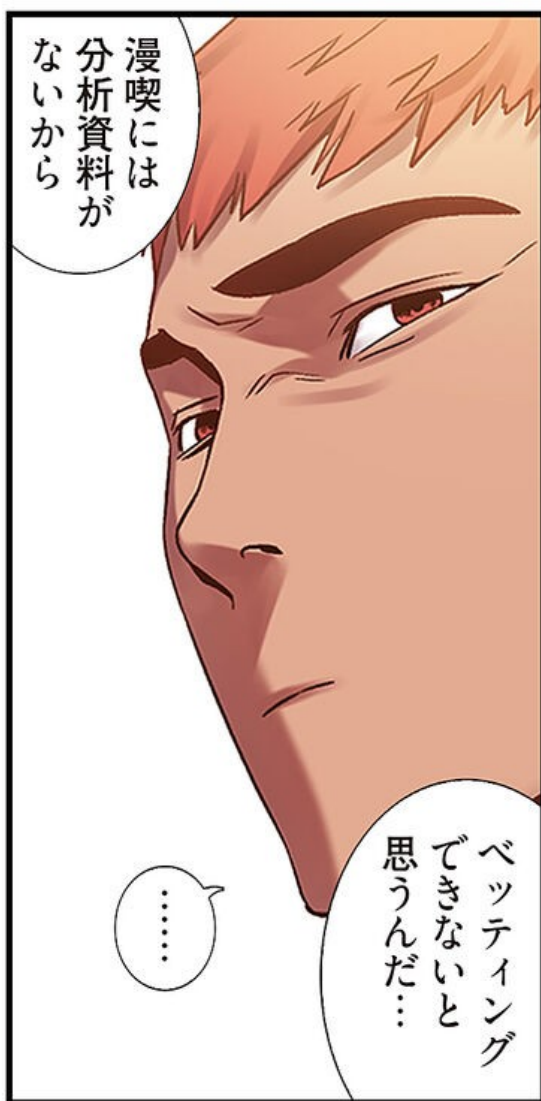
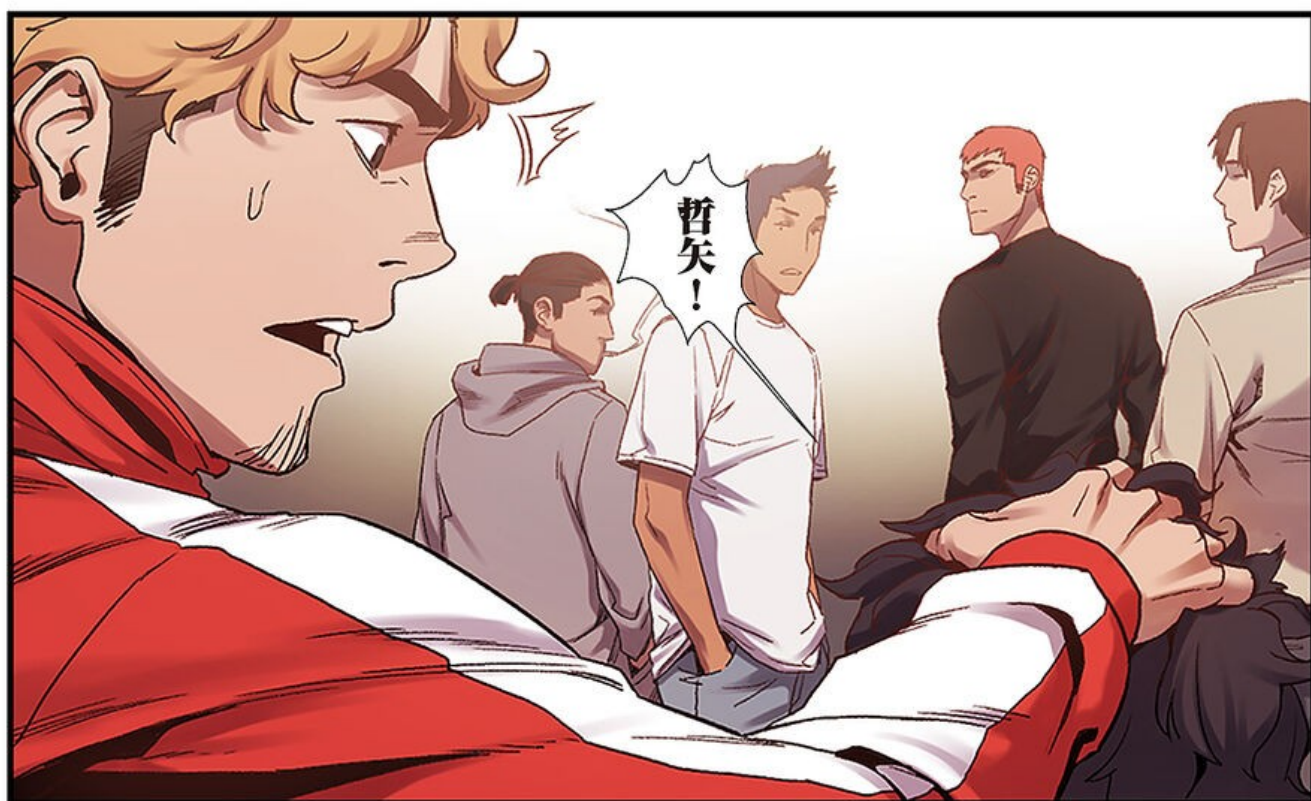


陰キヤは
陰キヤらしく!
空気くらい
読めよ

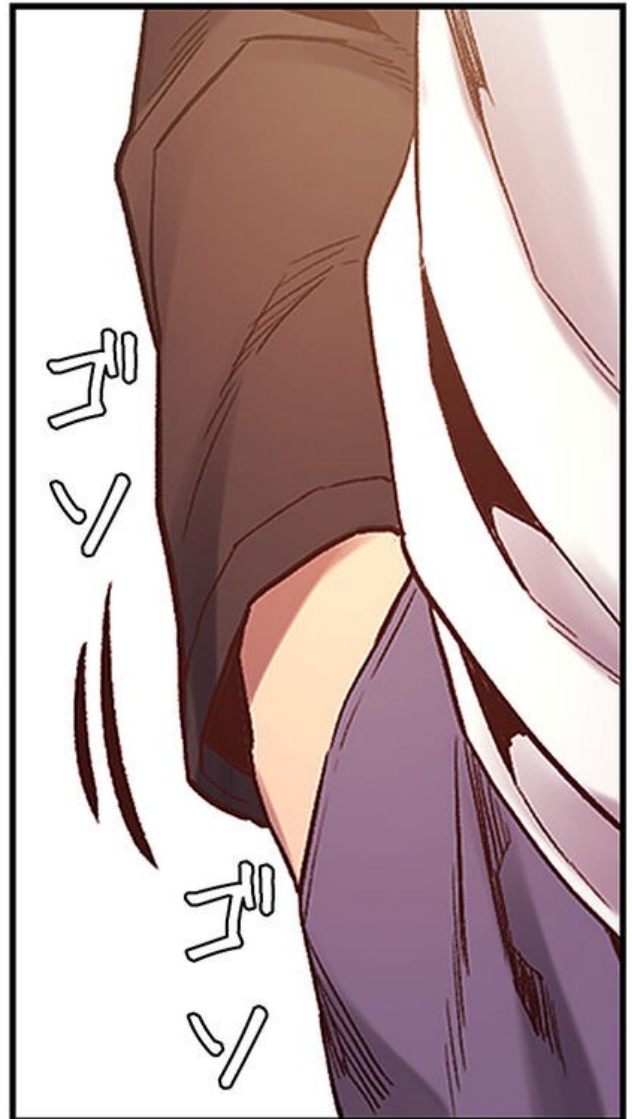
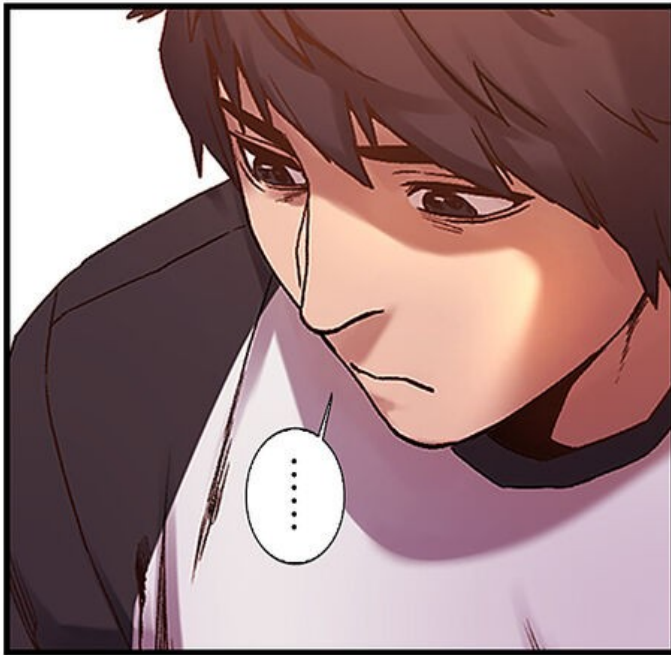


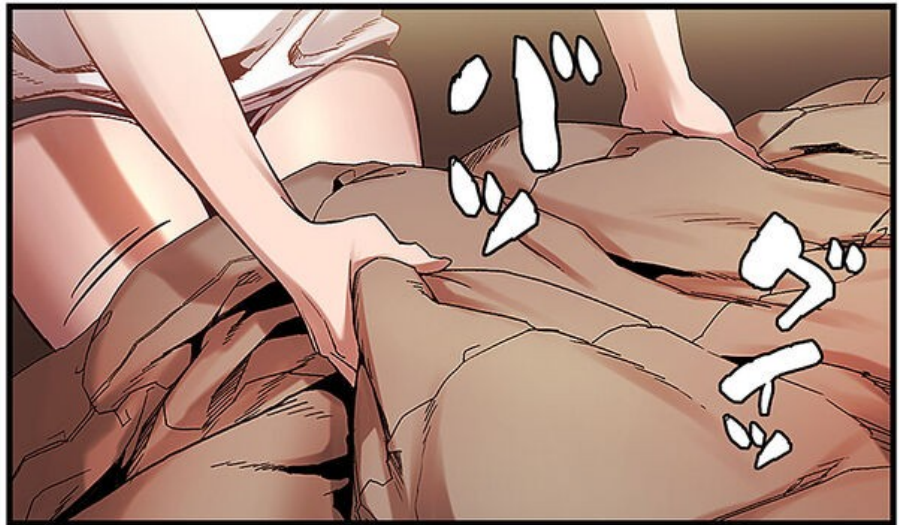
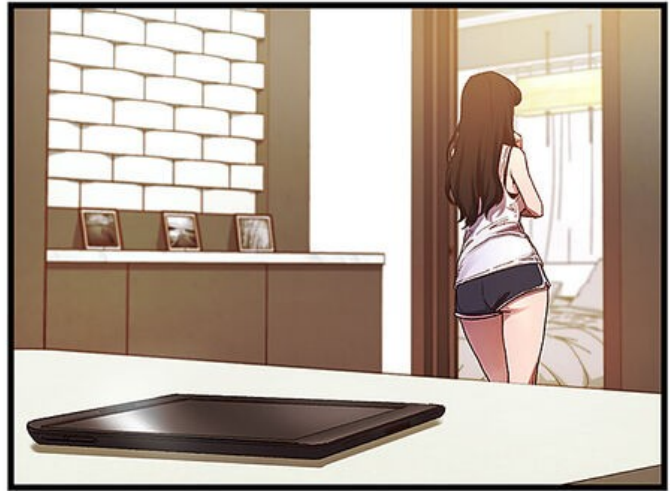
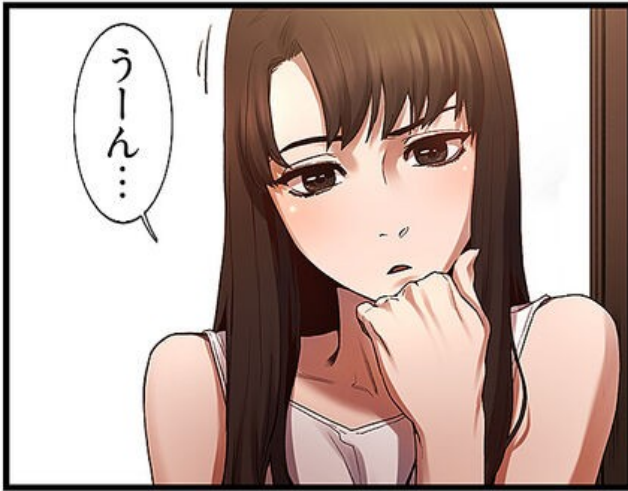
哲矢が許可
したからって

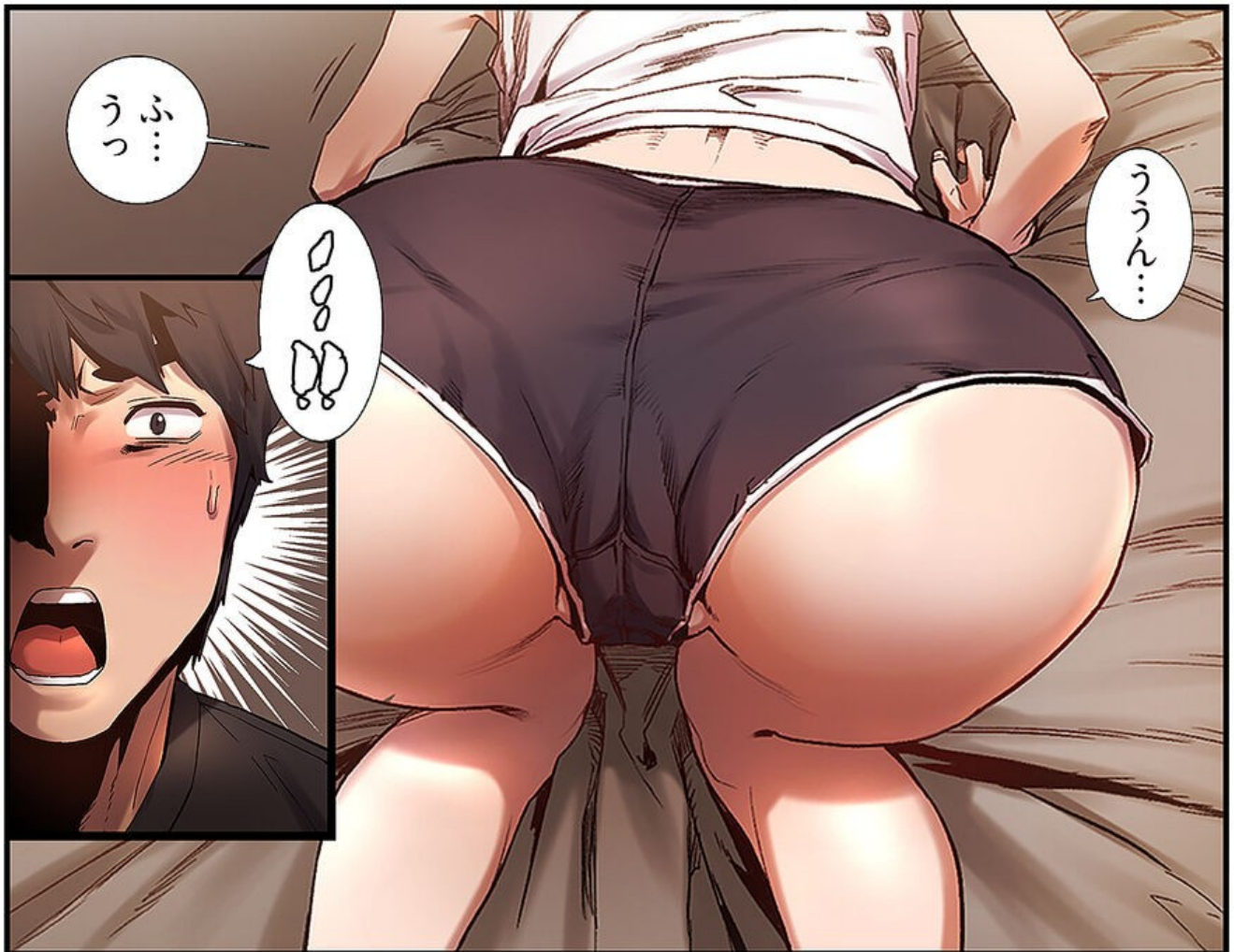
マジで日菜子と
二人でいるつもり
だったのか?

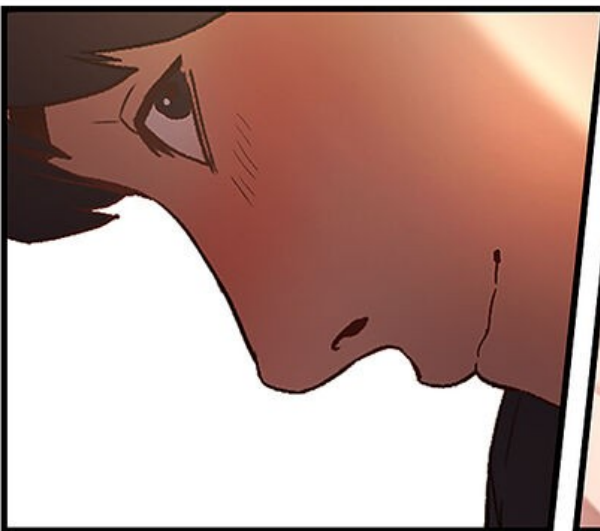














これでよし

汚い痕跡なんか絶対残したくないからね

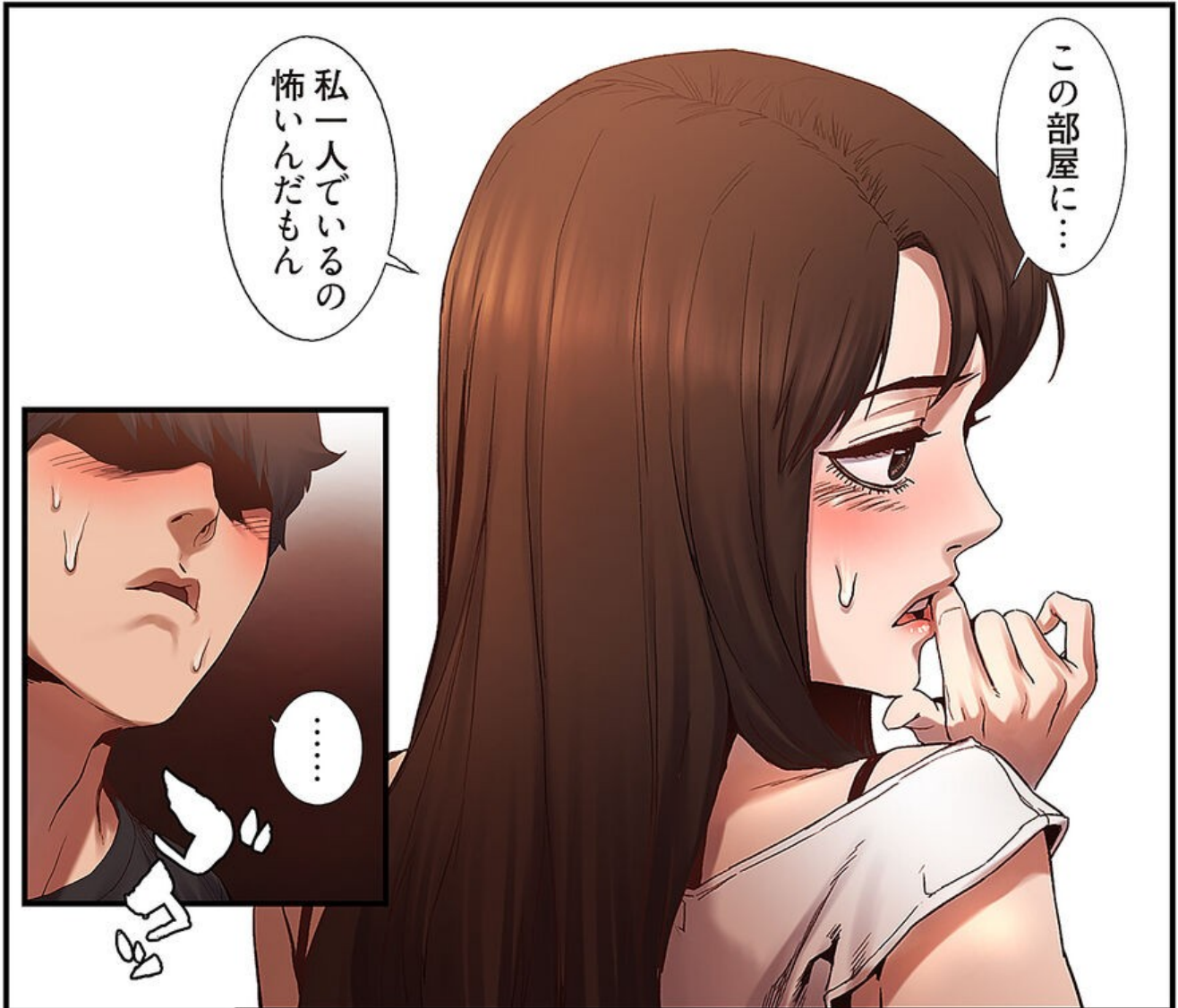
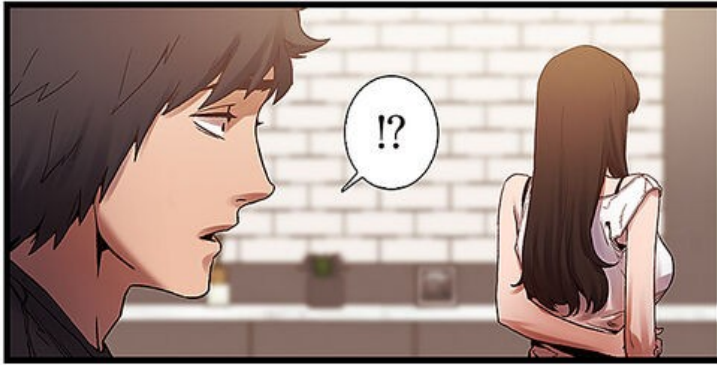
カキカキ

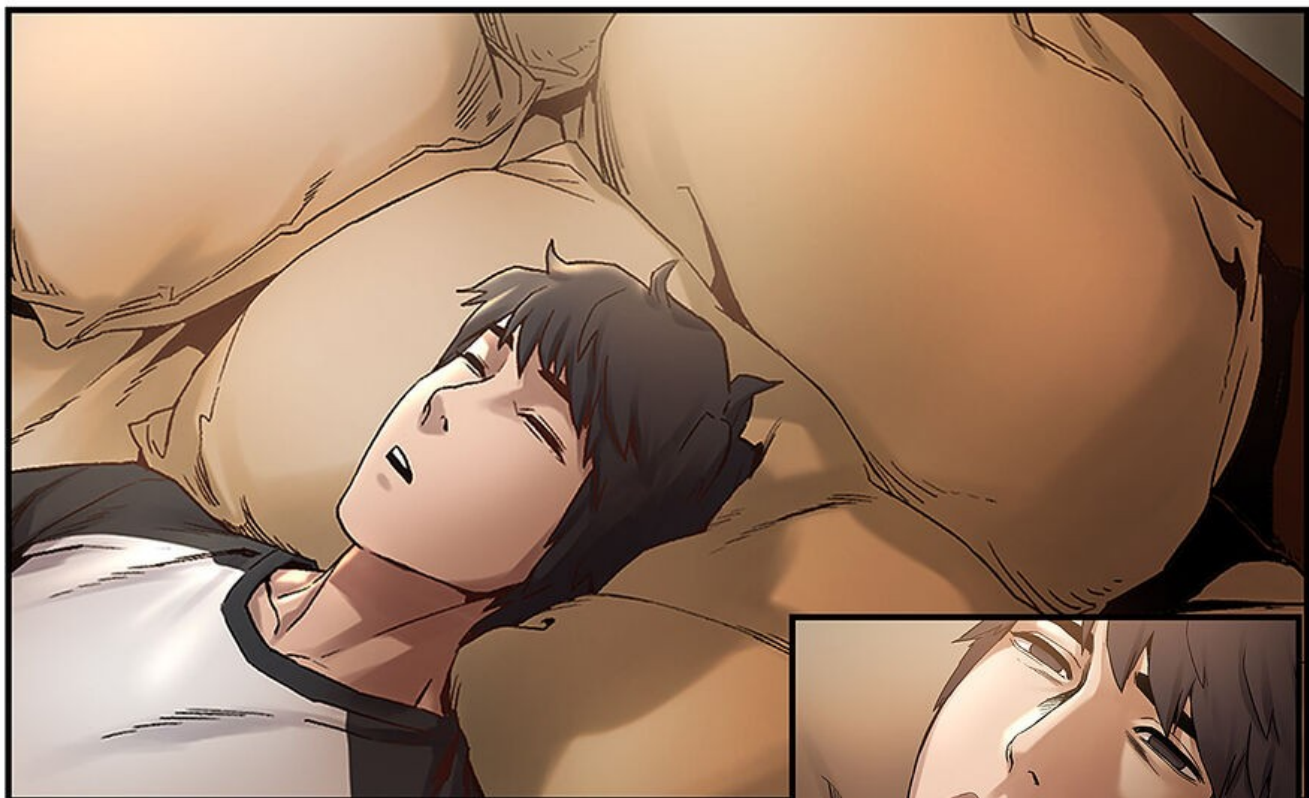
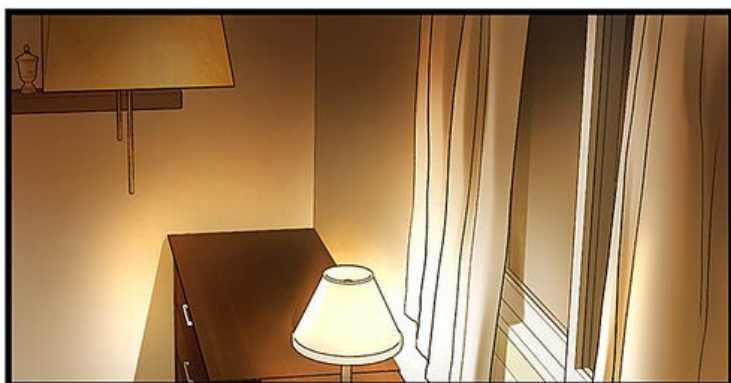
カキカキ

カキカキ

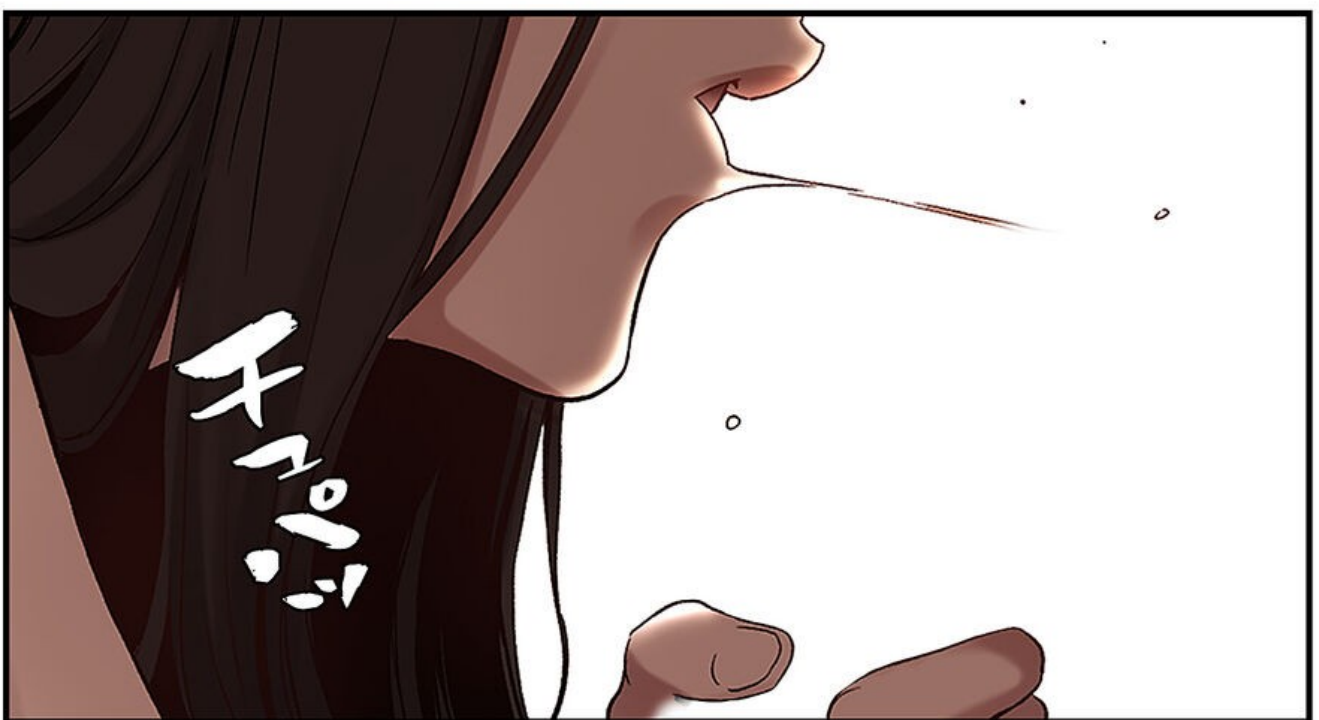
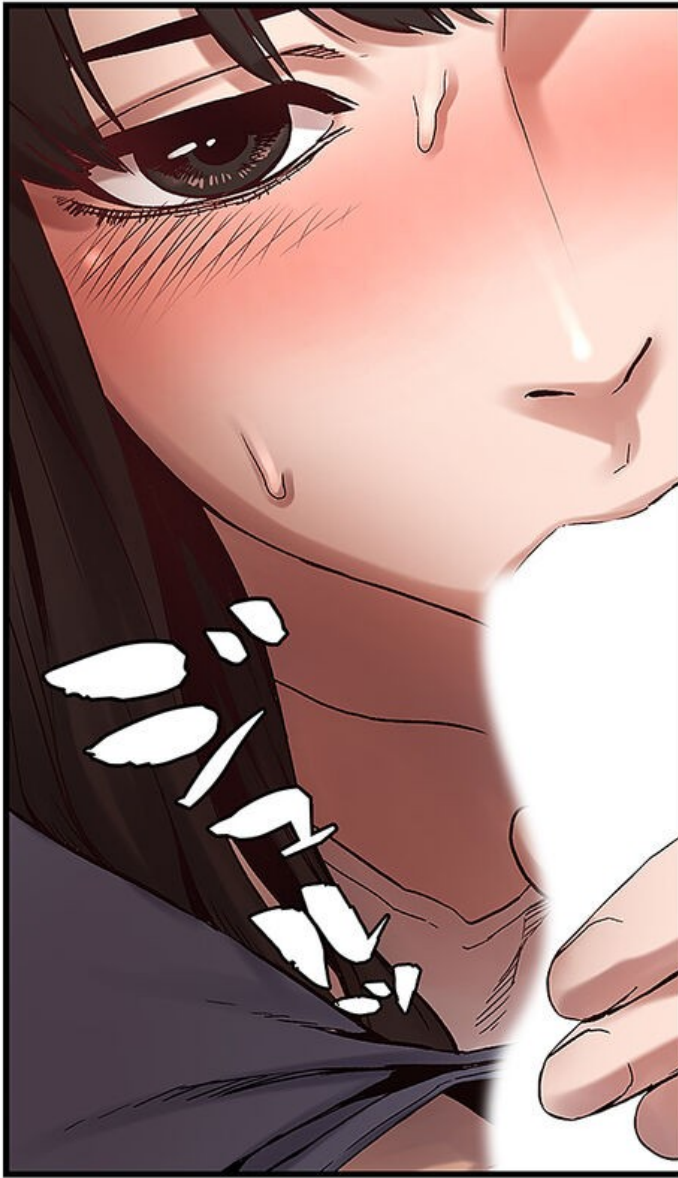


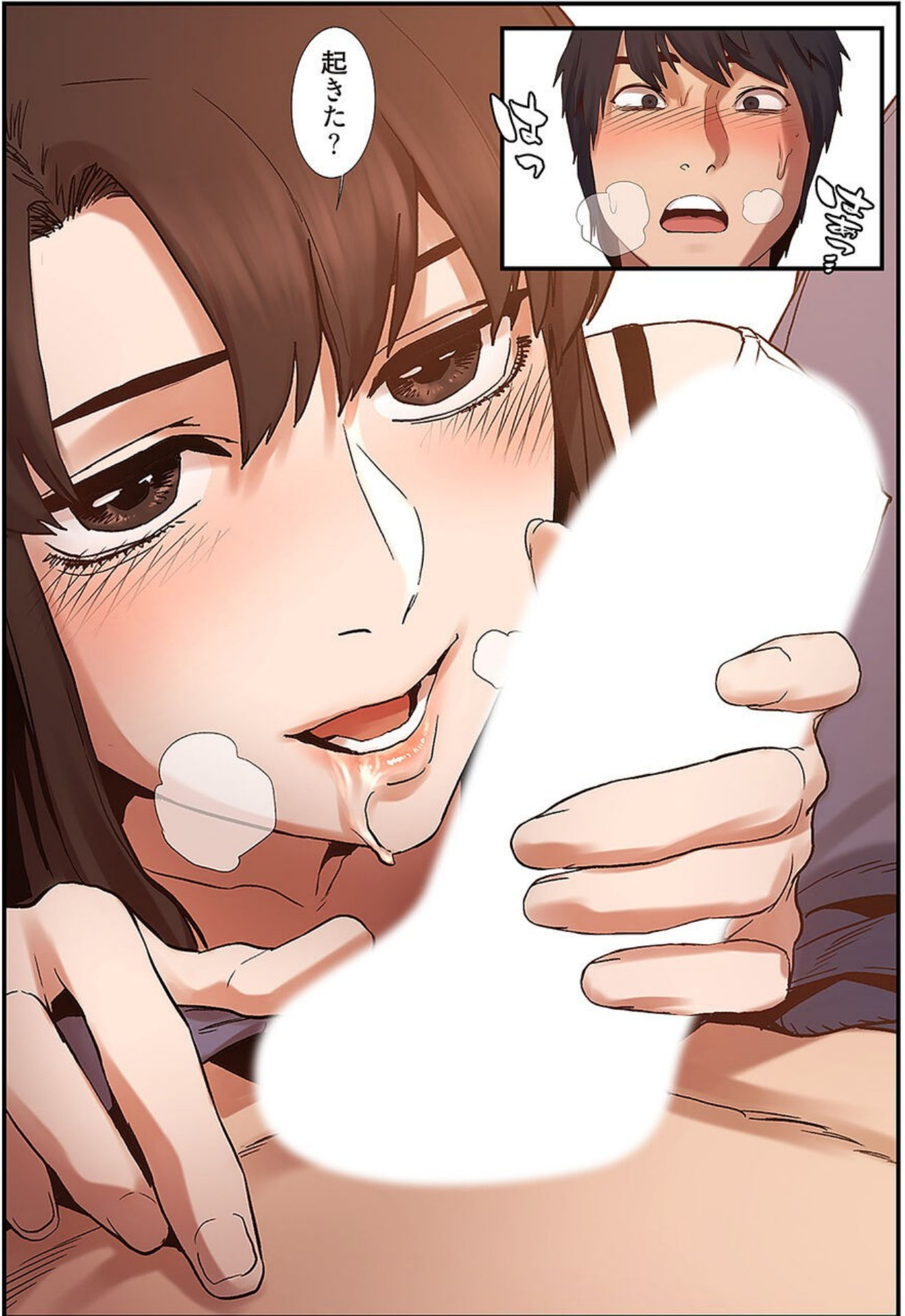










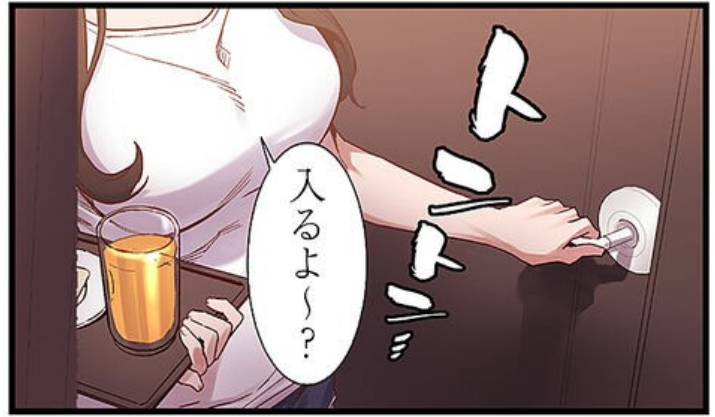
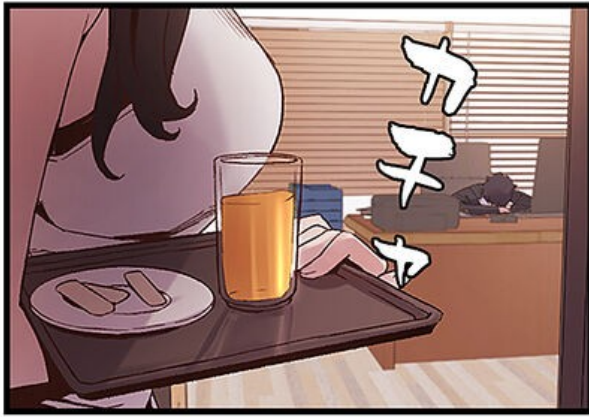


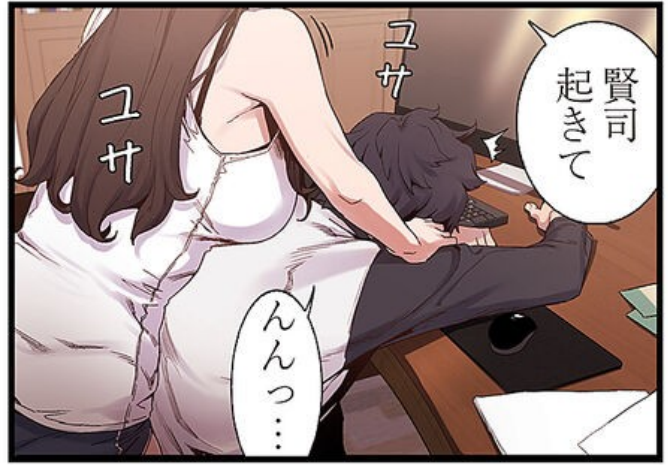
起きた？

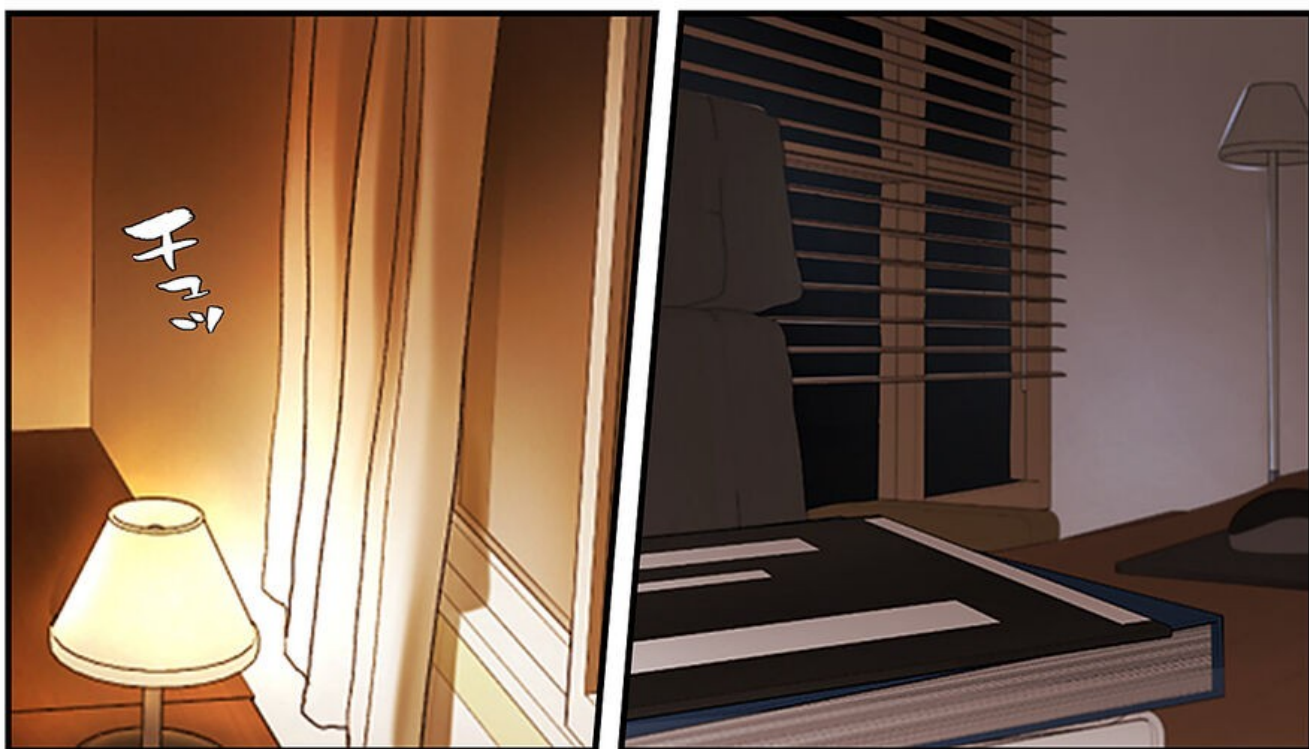
おは

おは

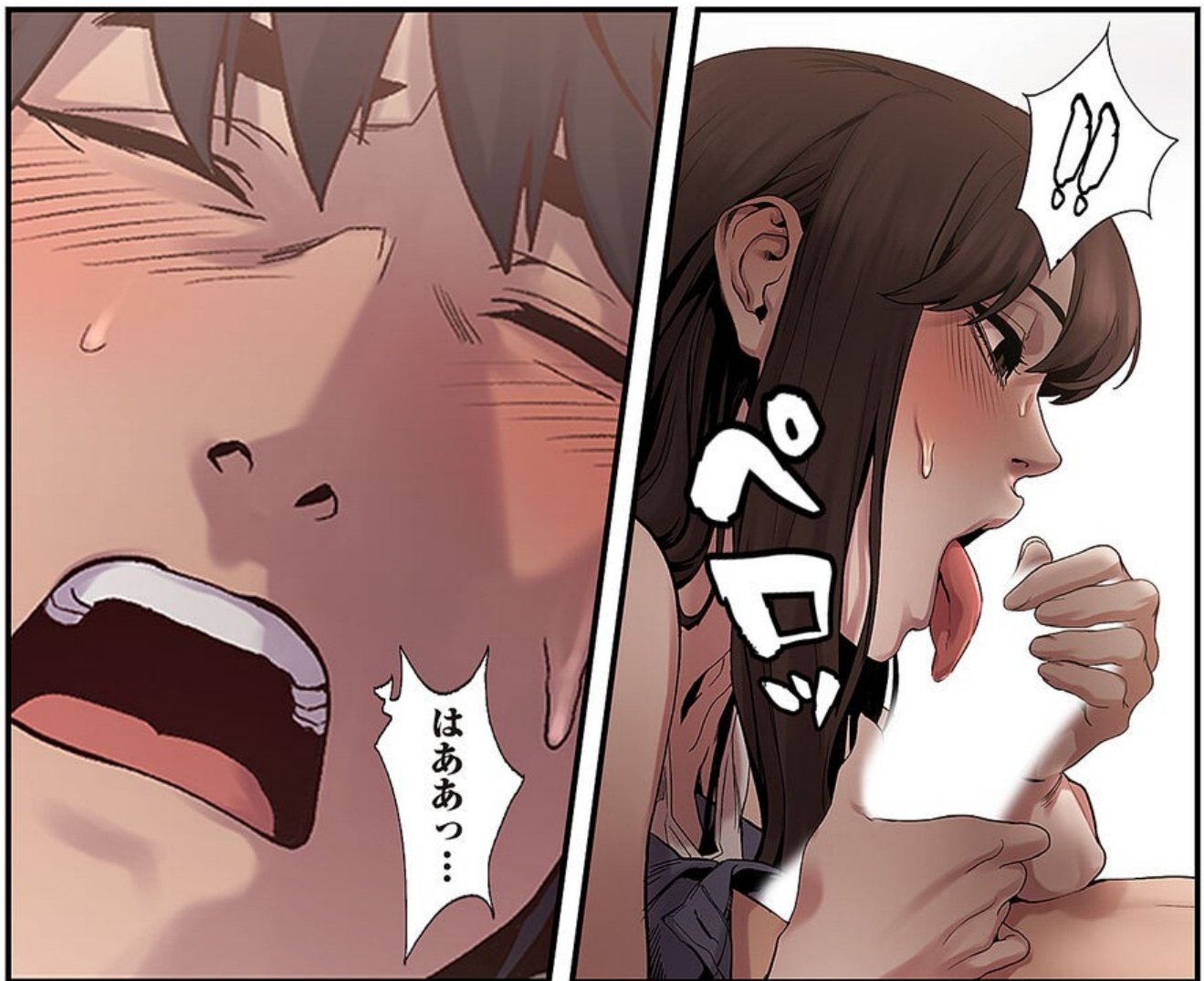
生
殘
賭
博

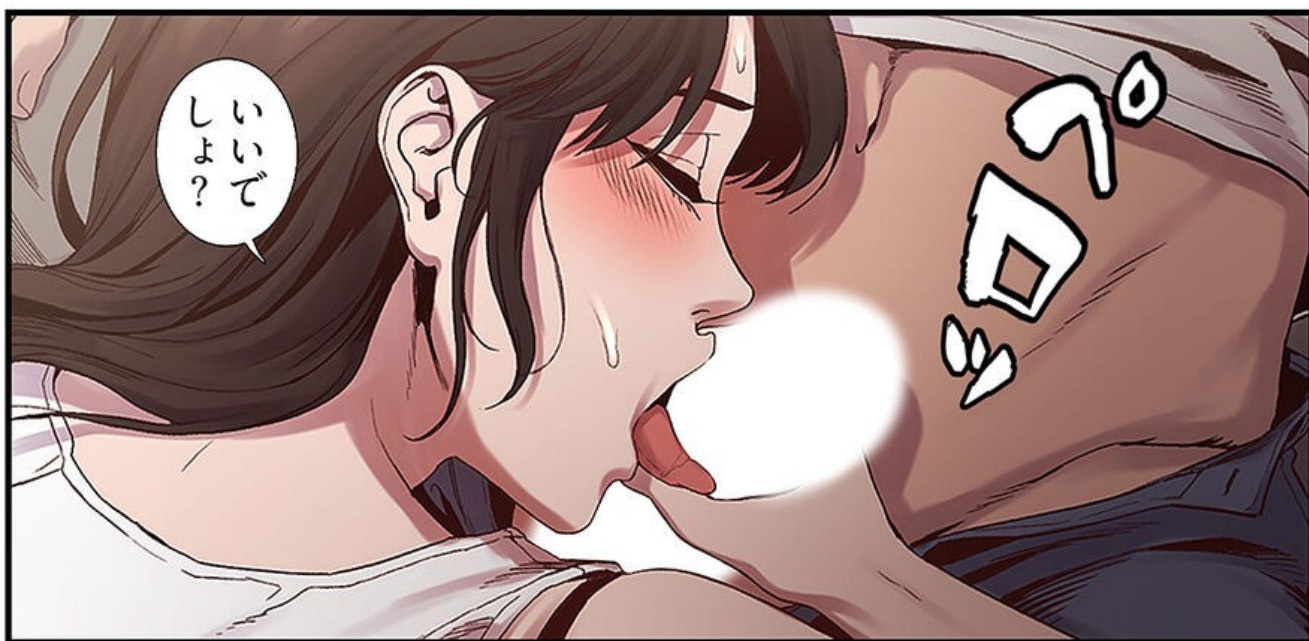


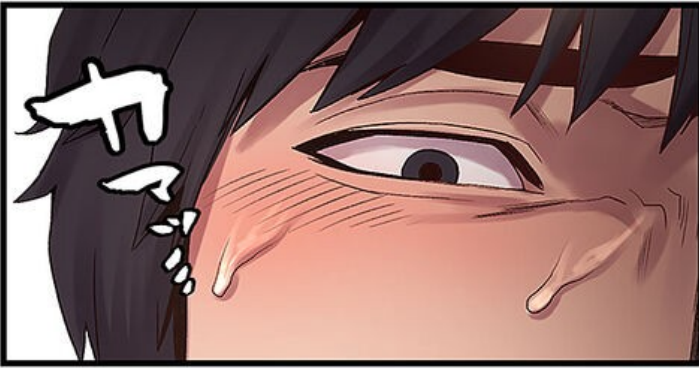












賢司はただ
じっとしてれば
いいから

クワン

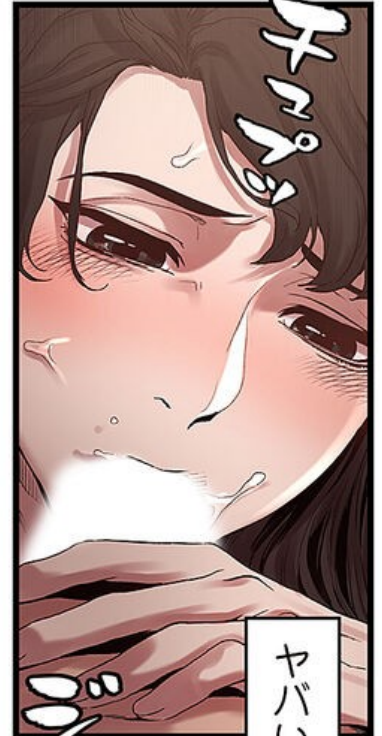


これは
ヤバすぎる
だろお…

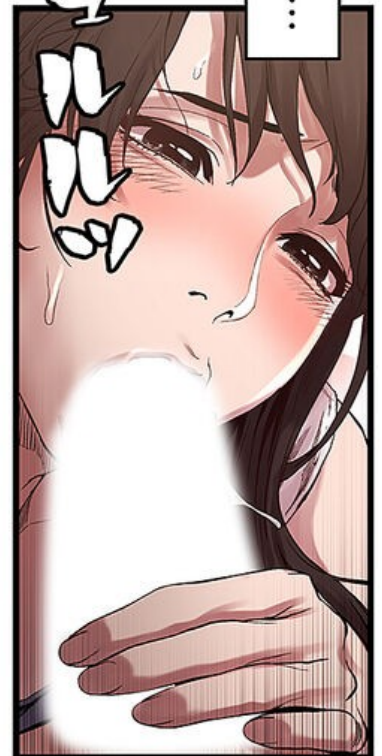
クワン

クワン

一体なんで
こんなこと…



ヤバい…



クワン

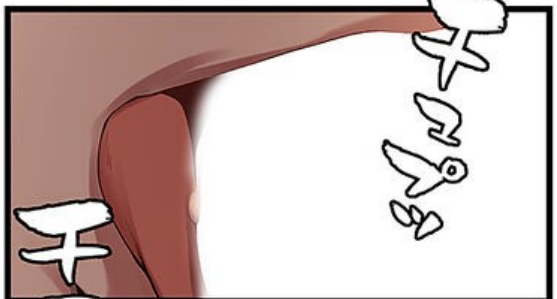


でも…
理由なんて
どうでもいい

この世に
こんなにも
強い快感が
あったなんて…



キモチ
いい？



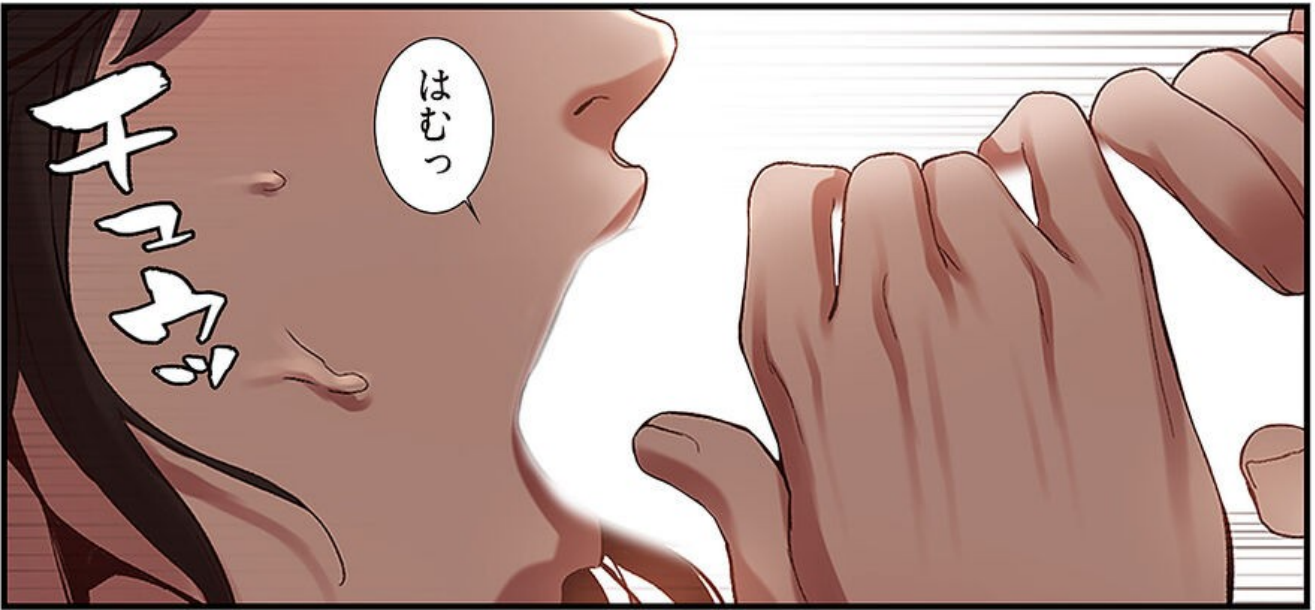
フワッ
フワッ

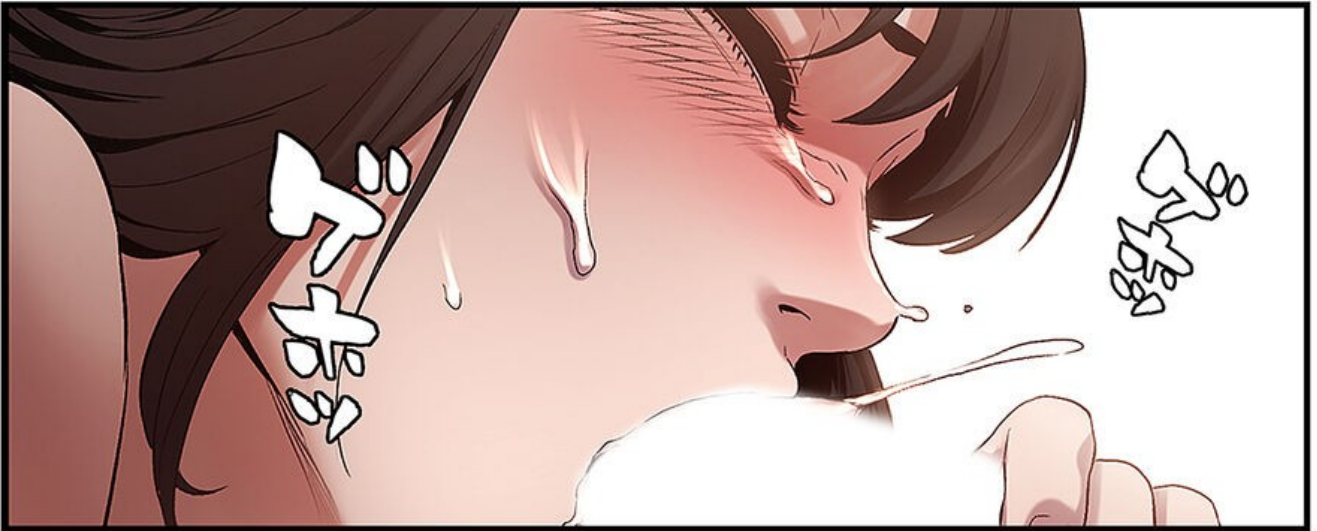
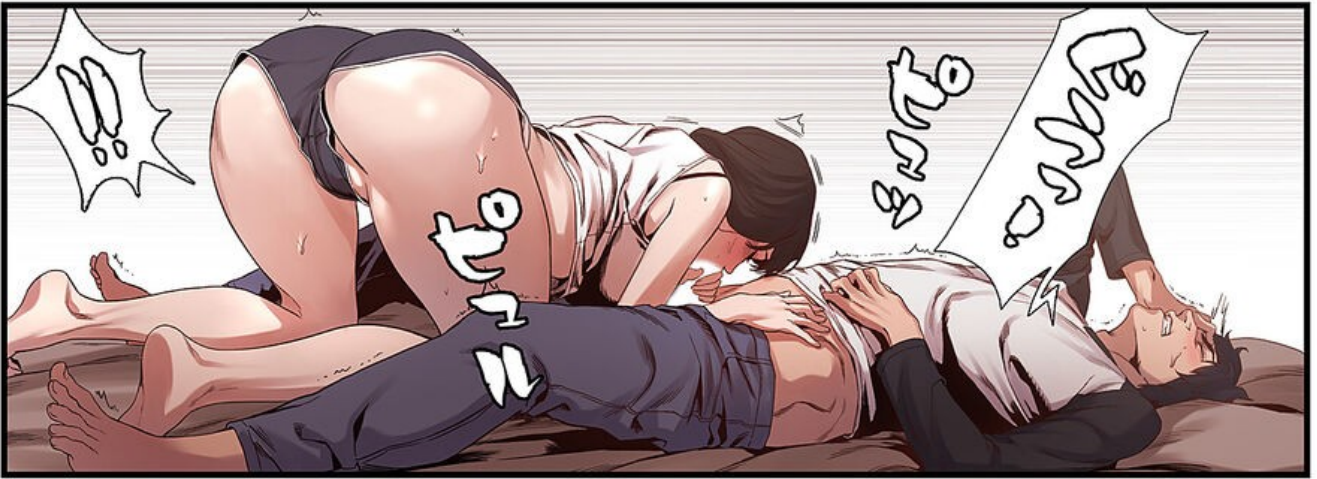


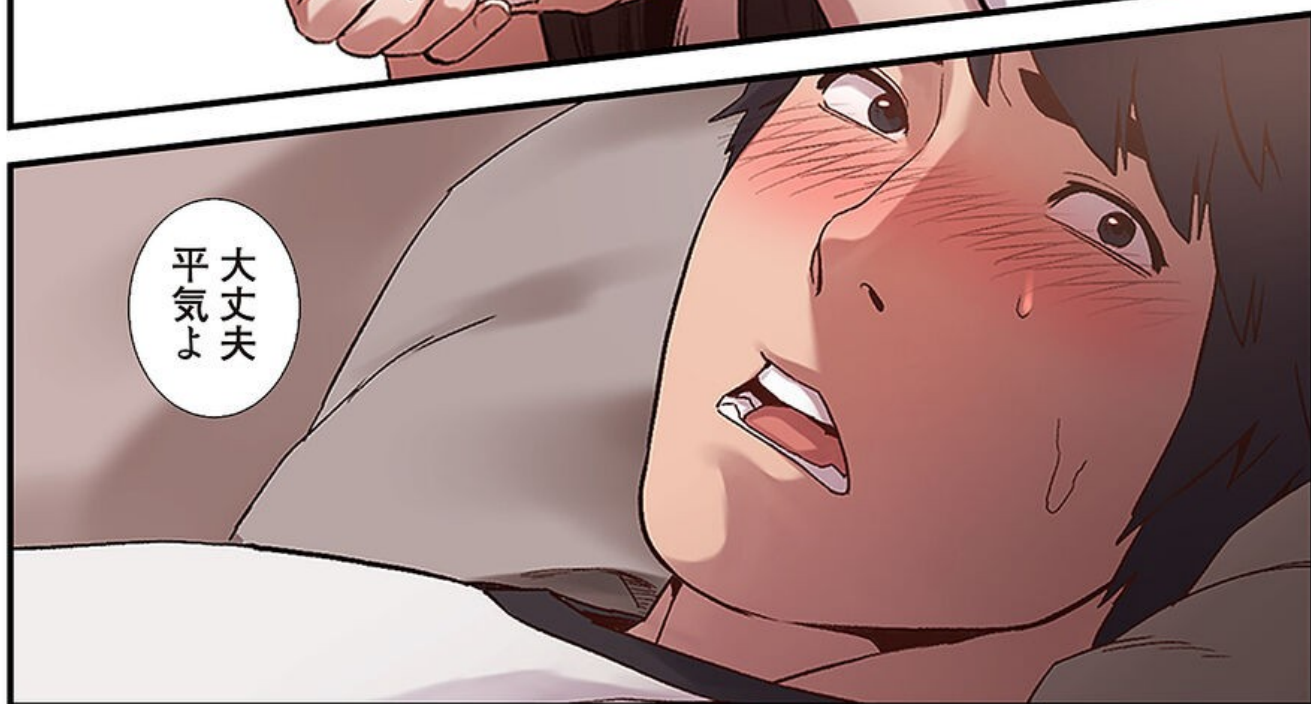
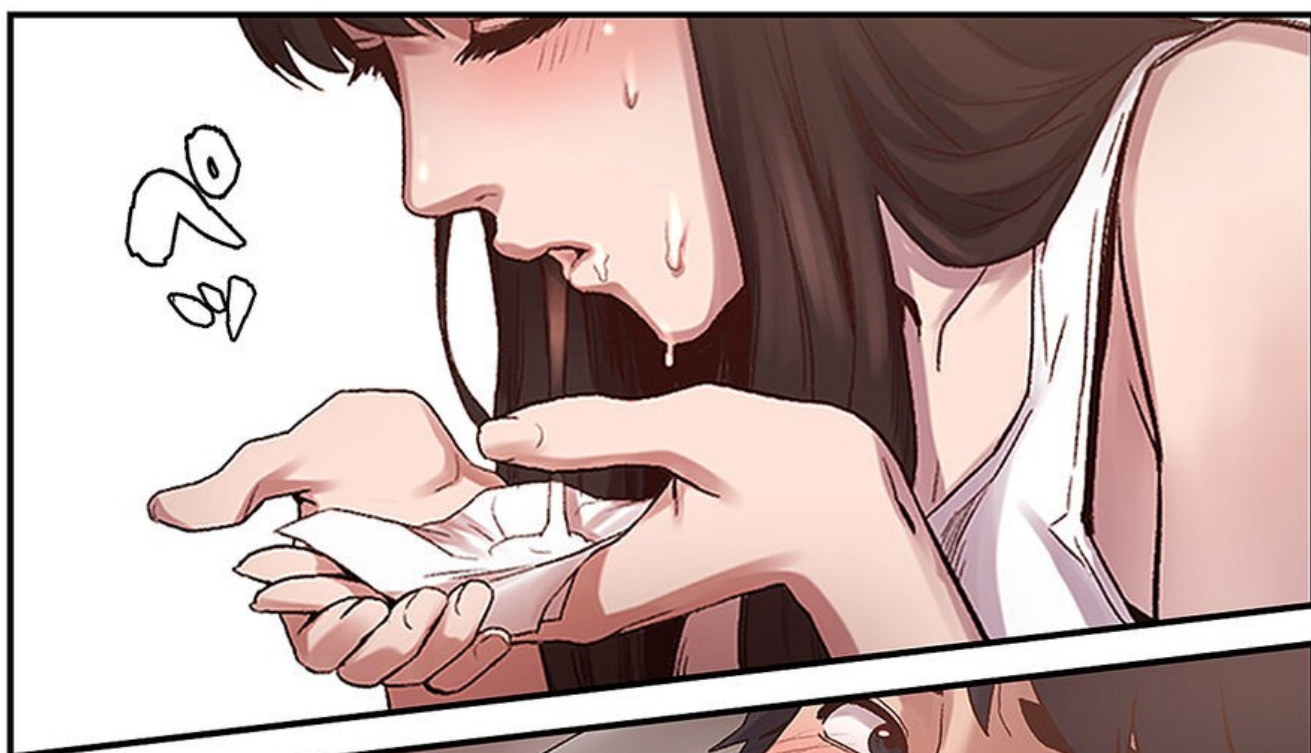
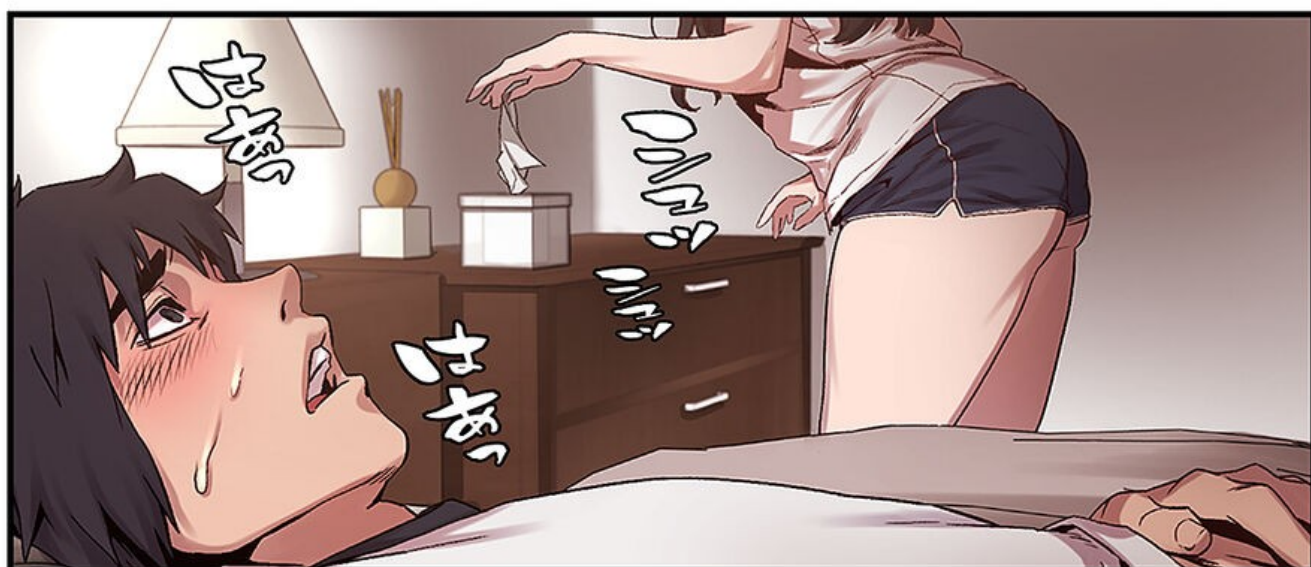
フワッ
フワッ



うっ
うっ…







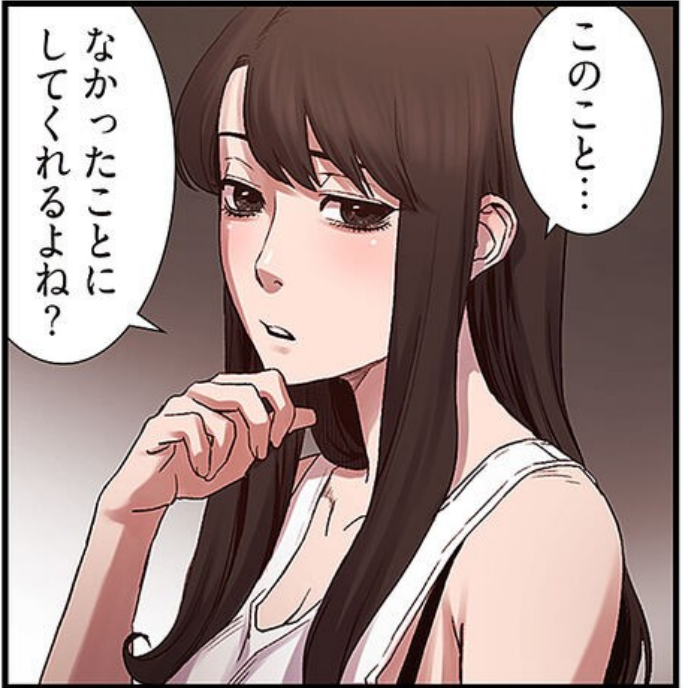


な…なんで
こんな
ことを…



だから
言えって!

なんで
こんなこと
したんだ!

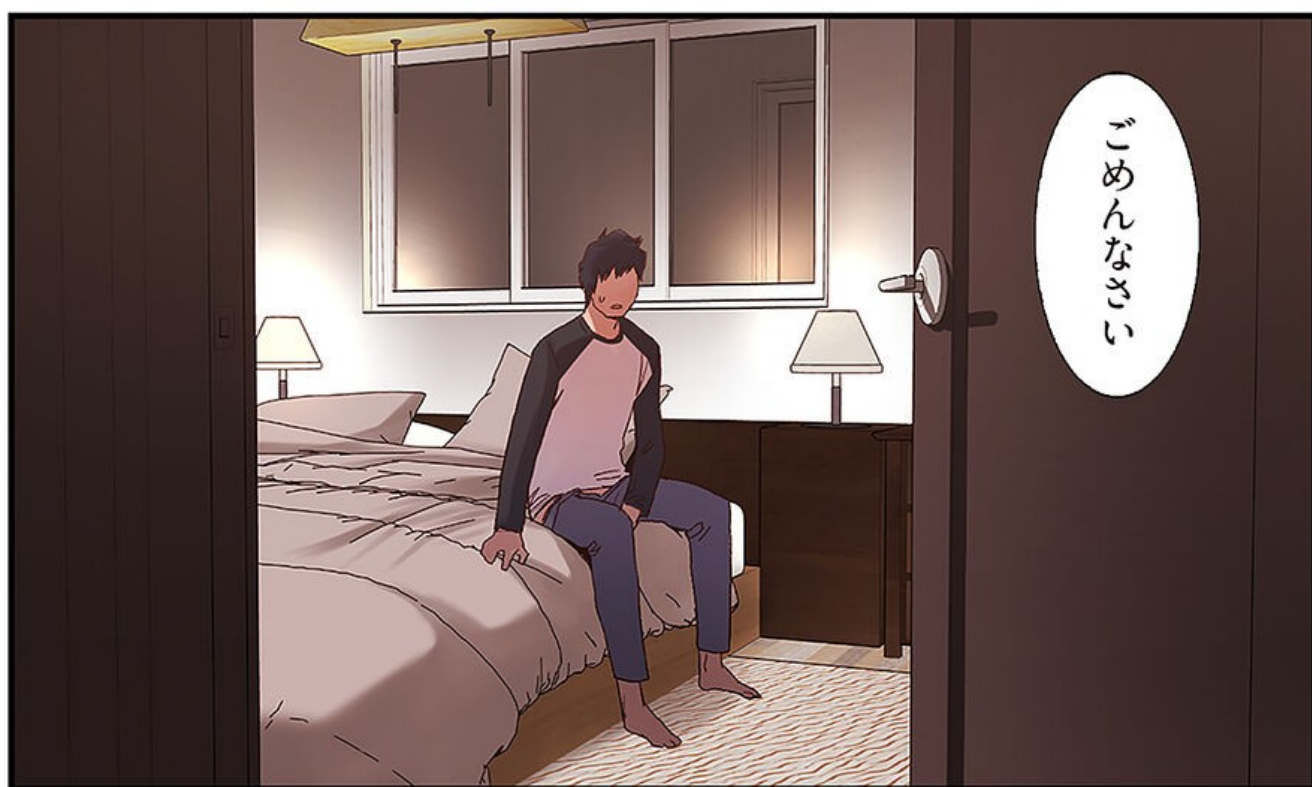
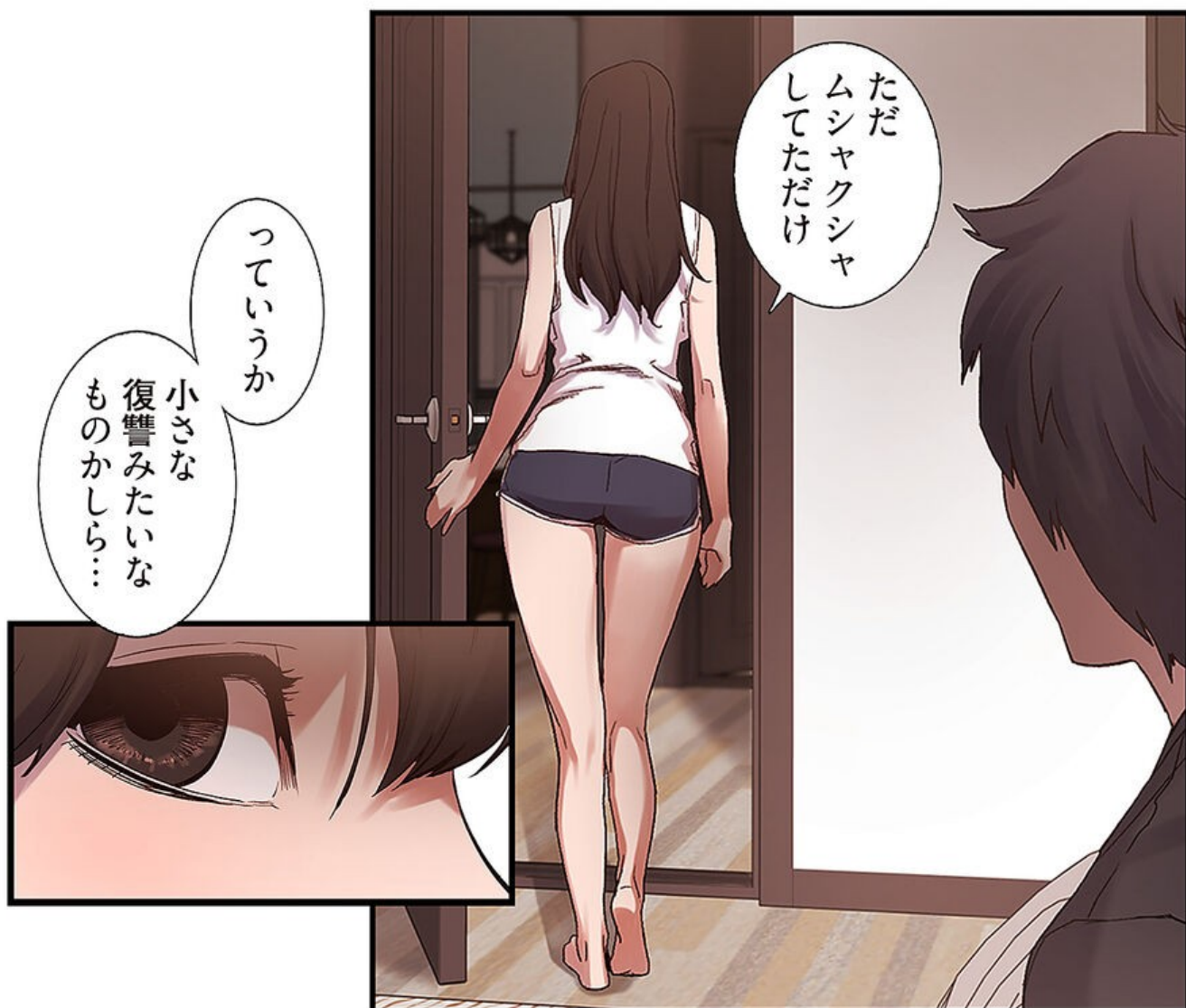


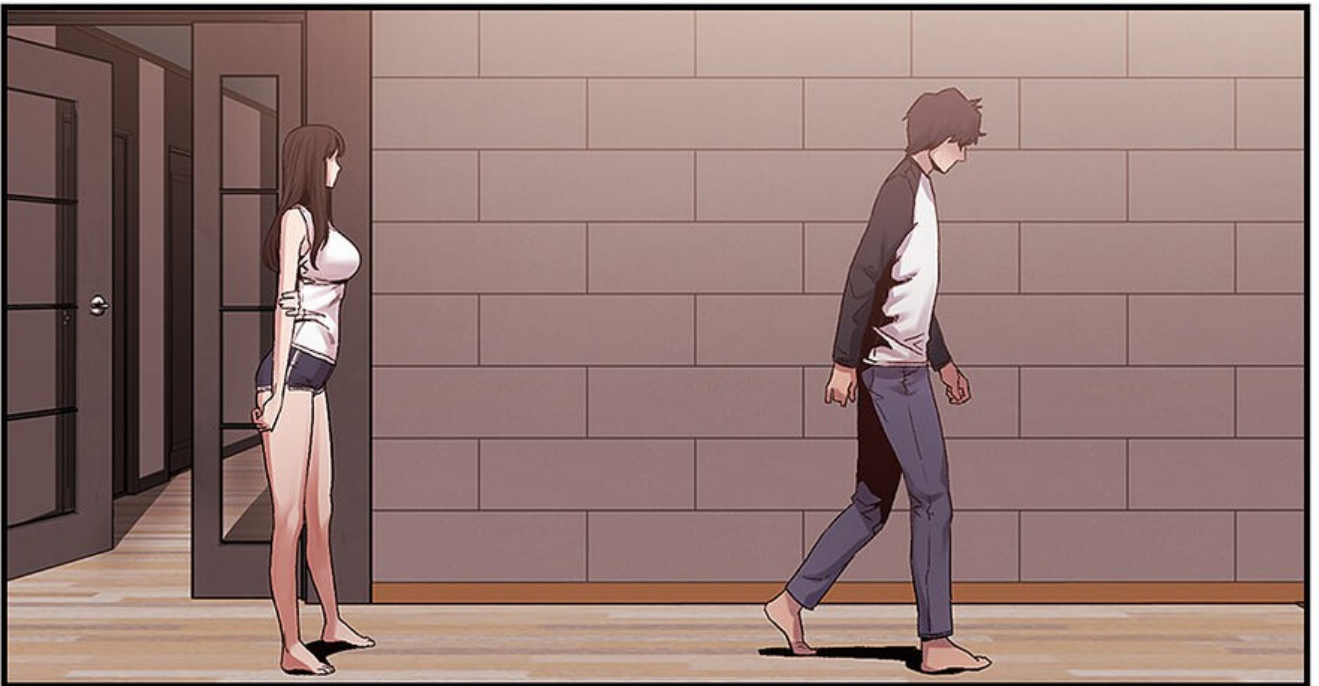
この…

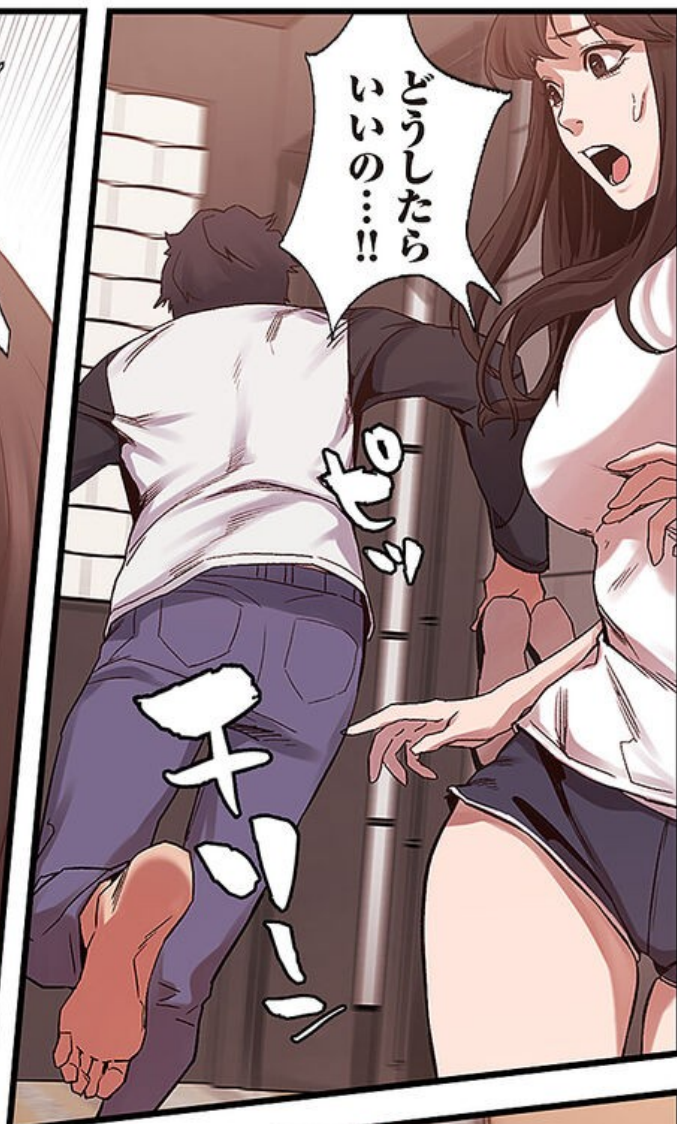
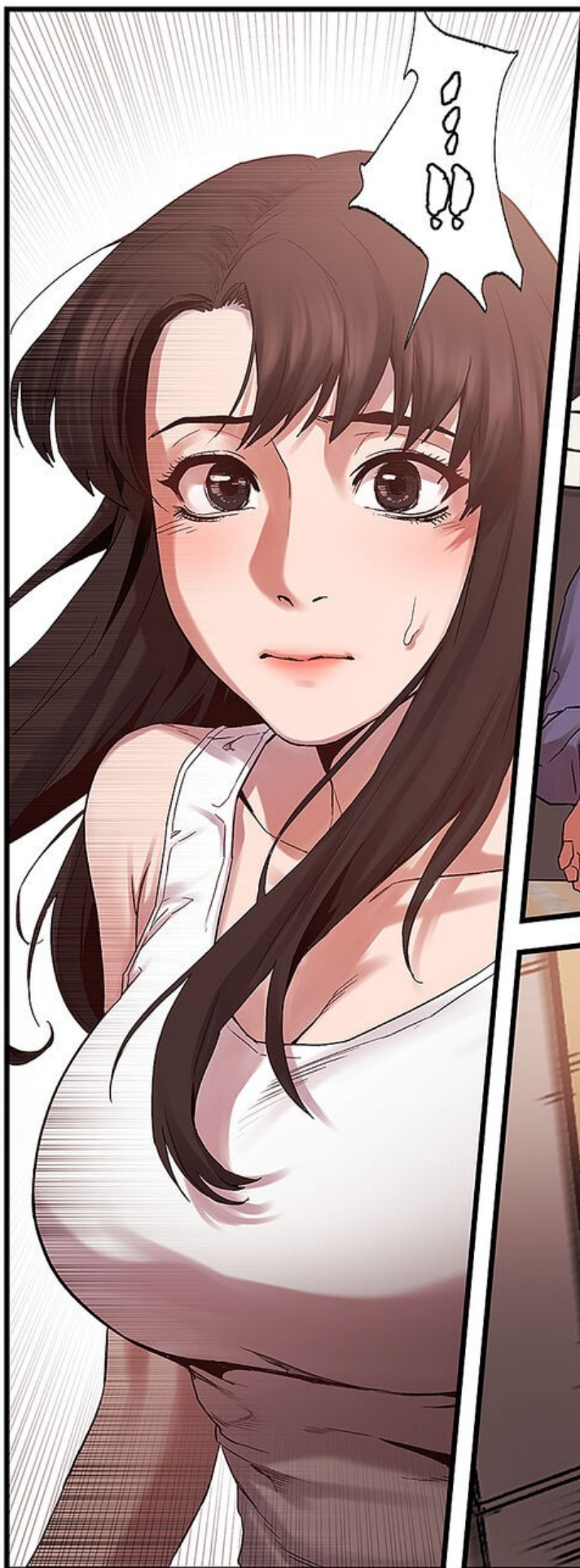
なかったことに
してくれるよね?



…

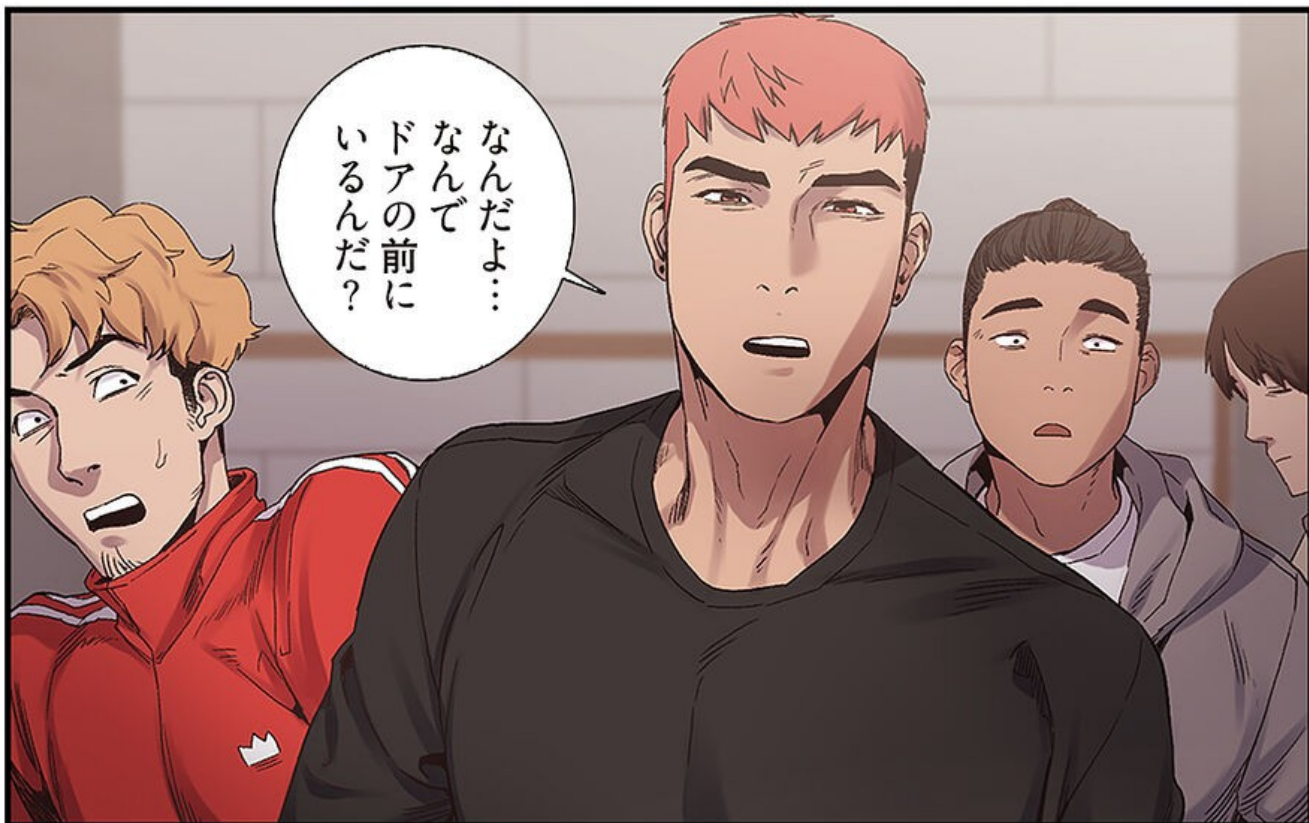
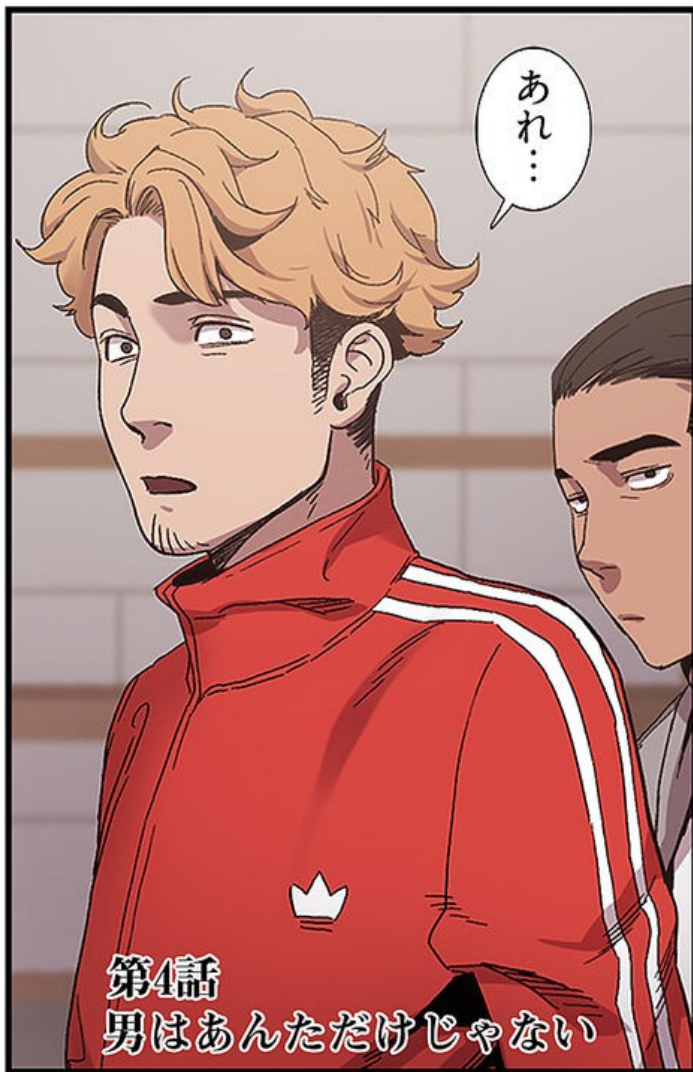
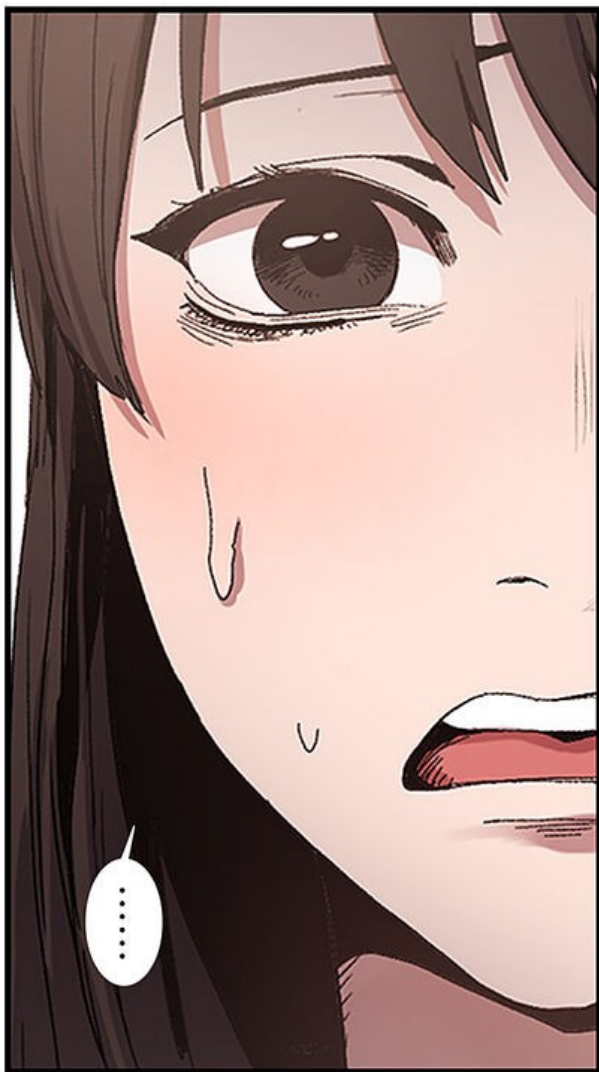


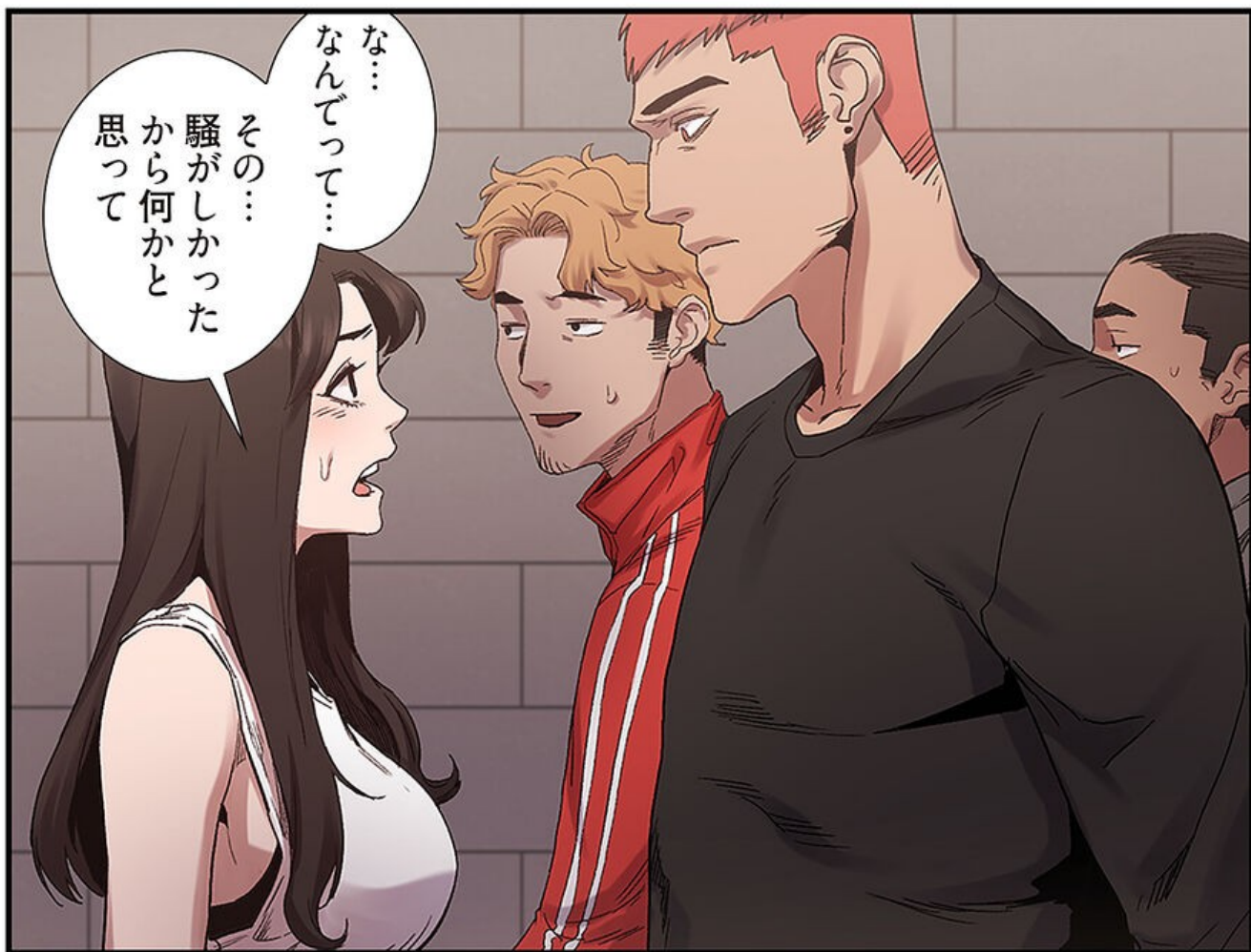




生
殘
賭
博

生
殘
賭
博





その…
騒がしかった
から何かと
思ってた

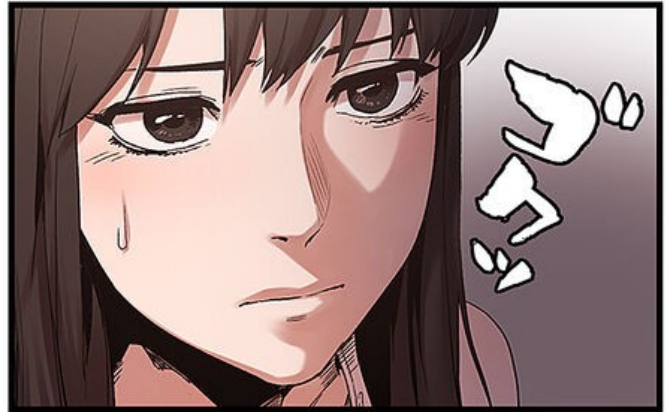
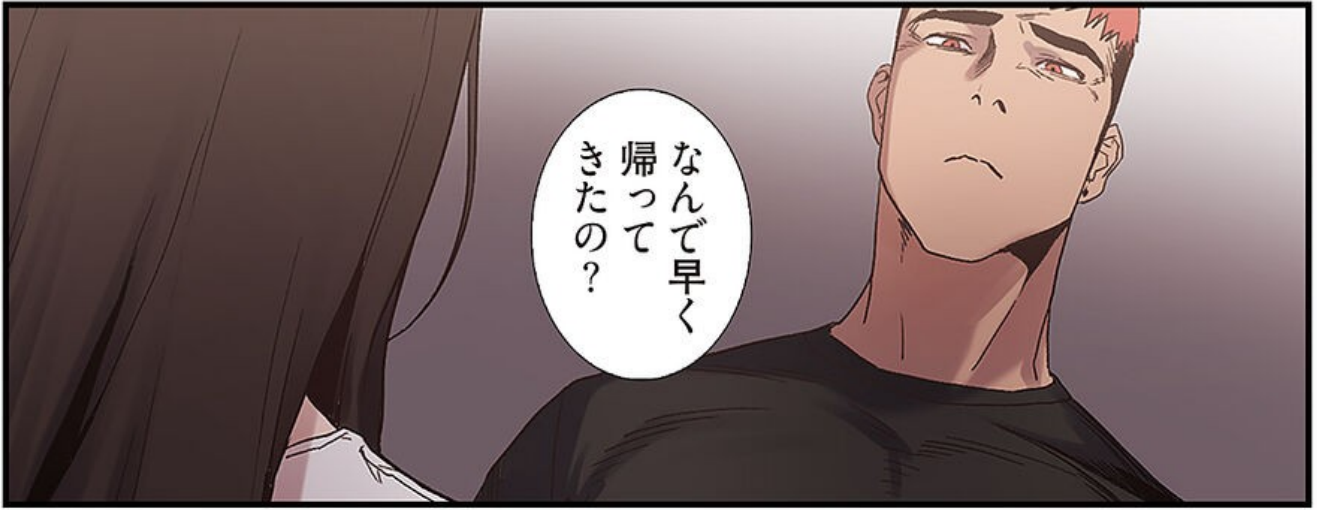
な…
なんでって…

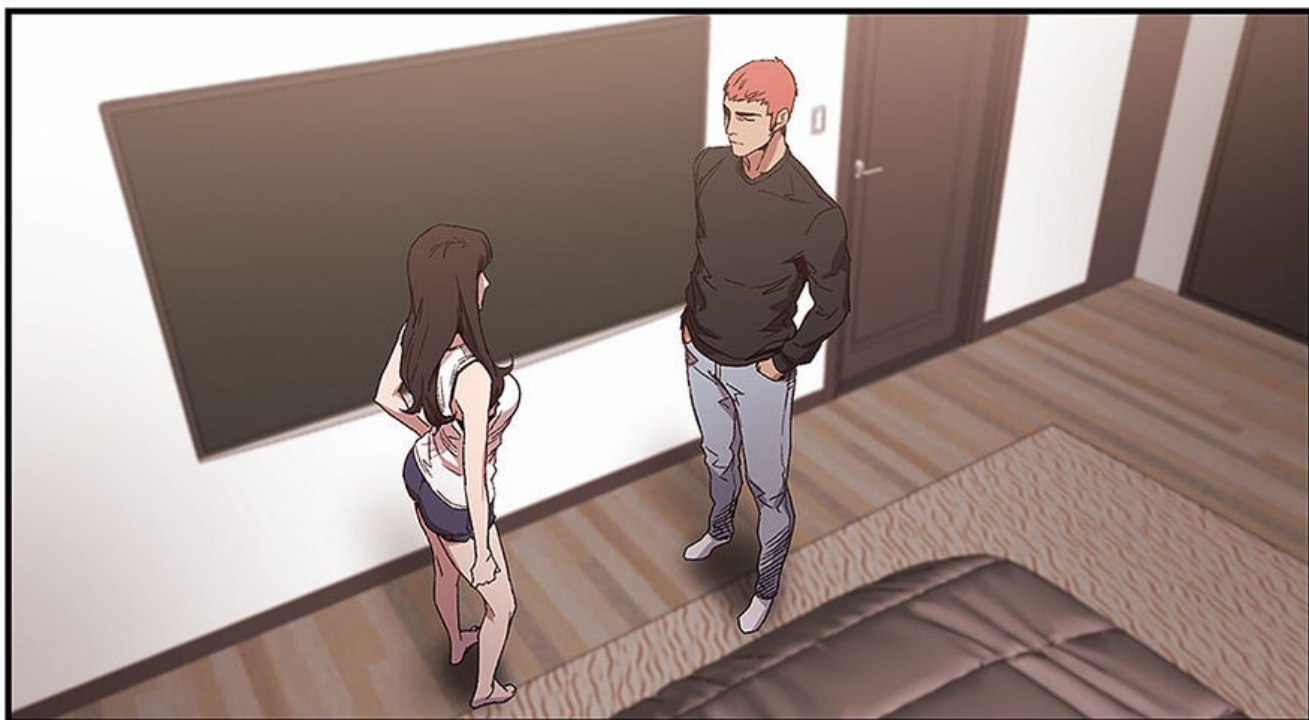
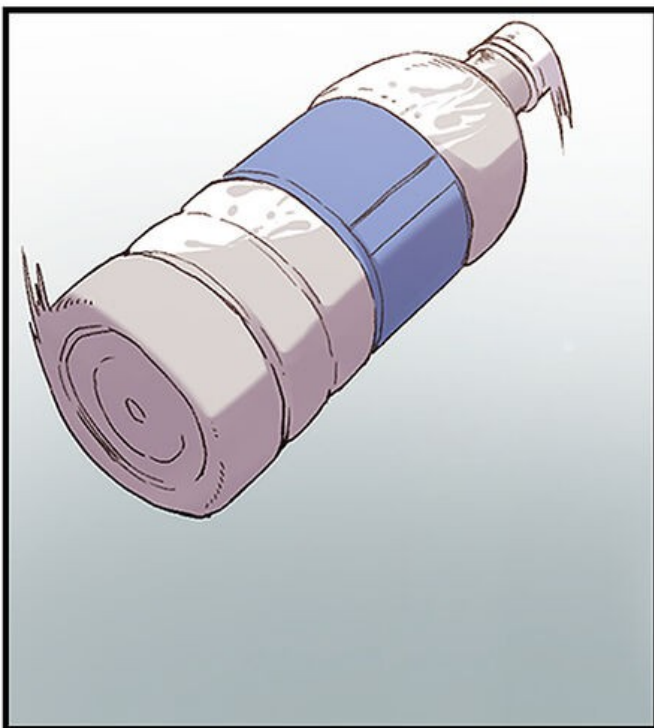
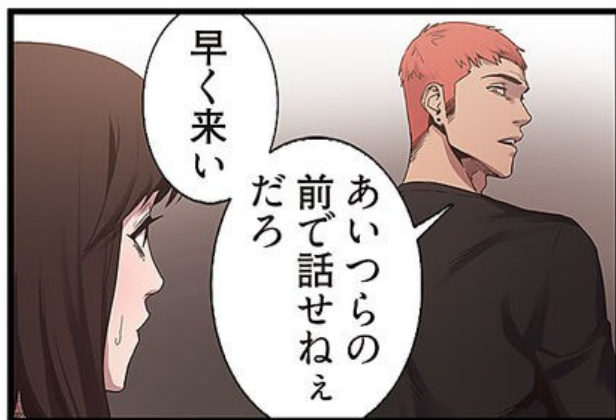
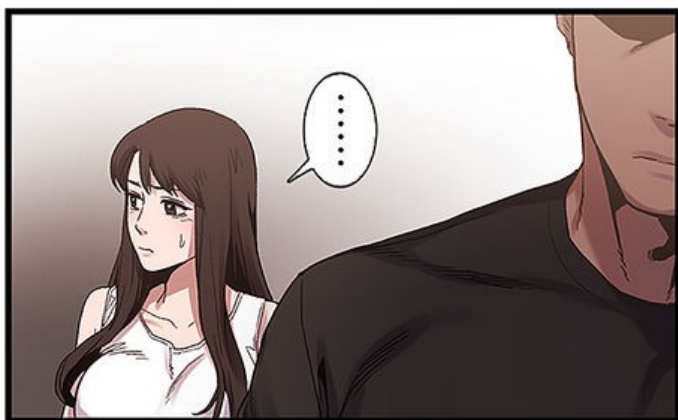


とにかく
雅人に5桁は
無理なんだよ

自分の
誕生日で
精一杯だな

……





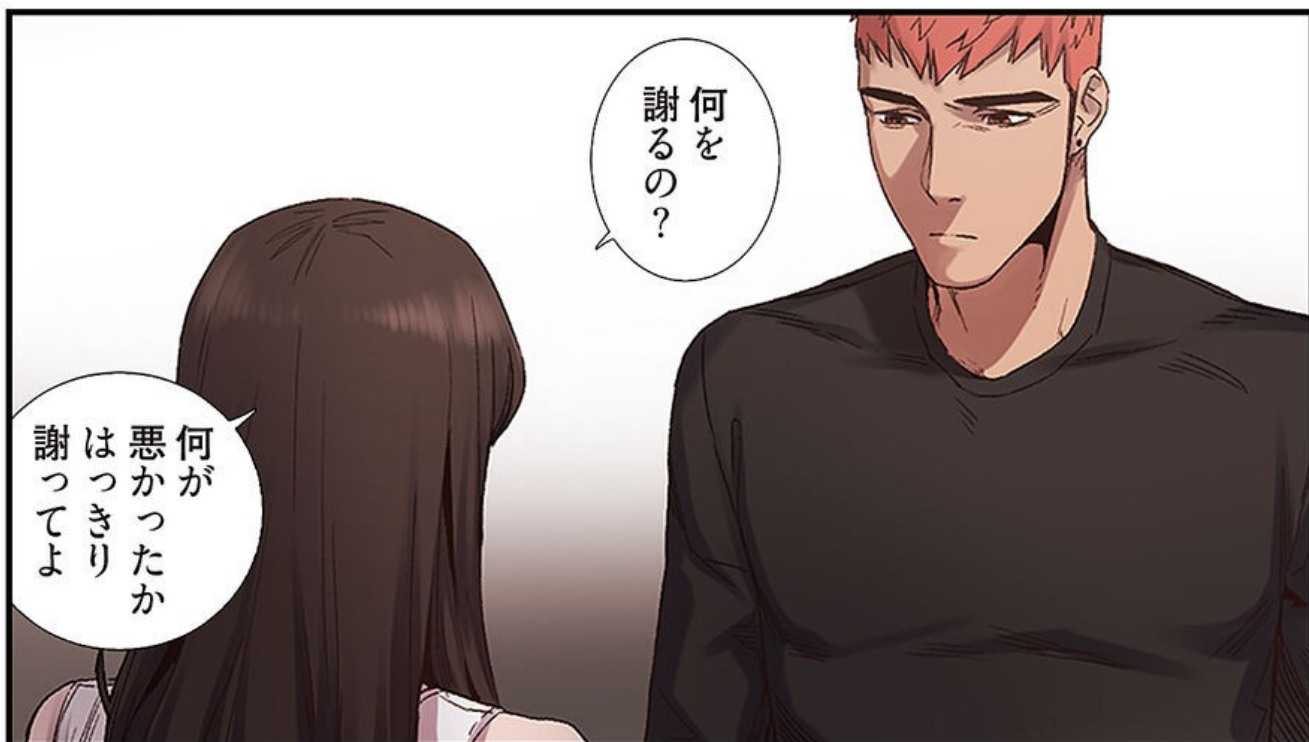


悪かった
謝る

さっきは
あいつらの
手前
言えなかった

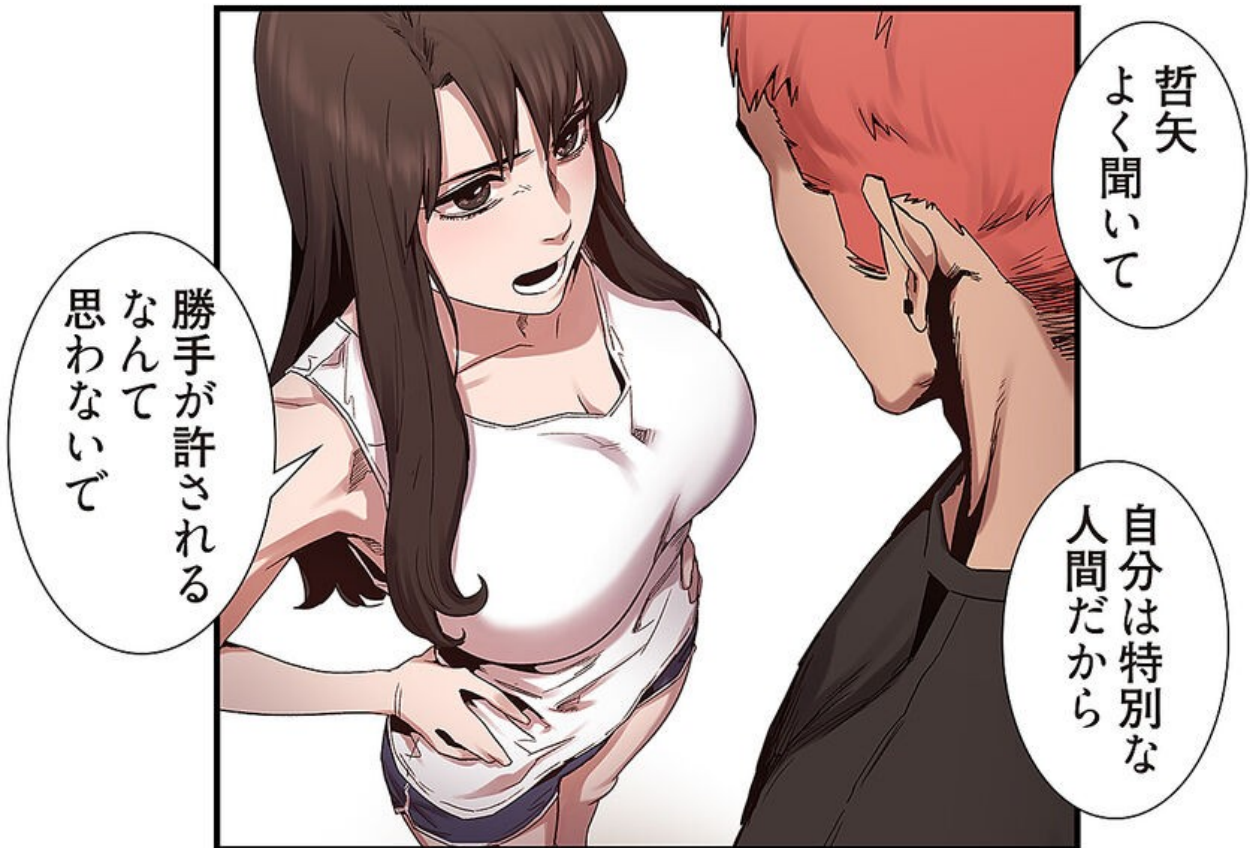
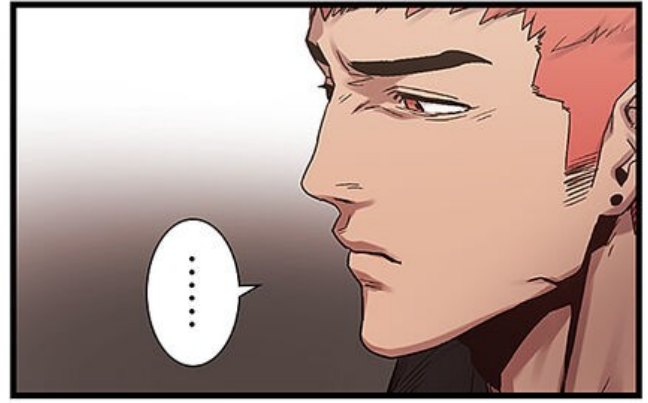
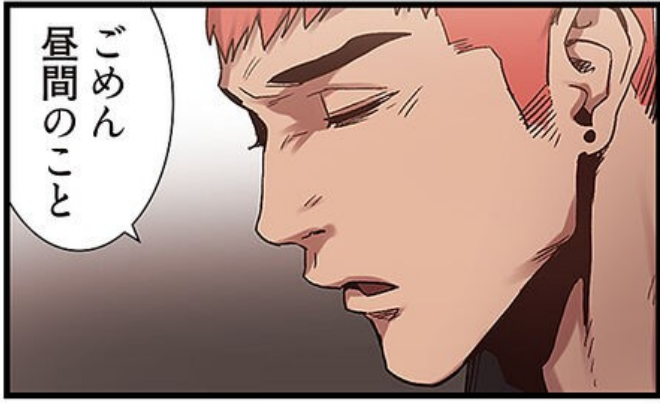


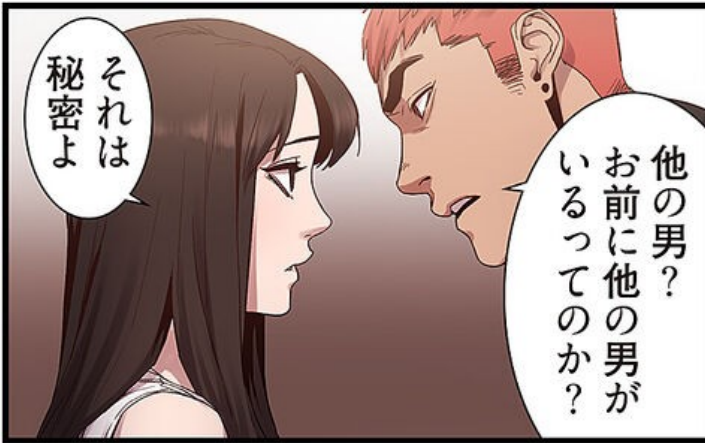
わかるだろ？
二人だったら
あの場ですぐ
謝ってた

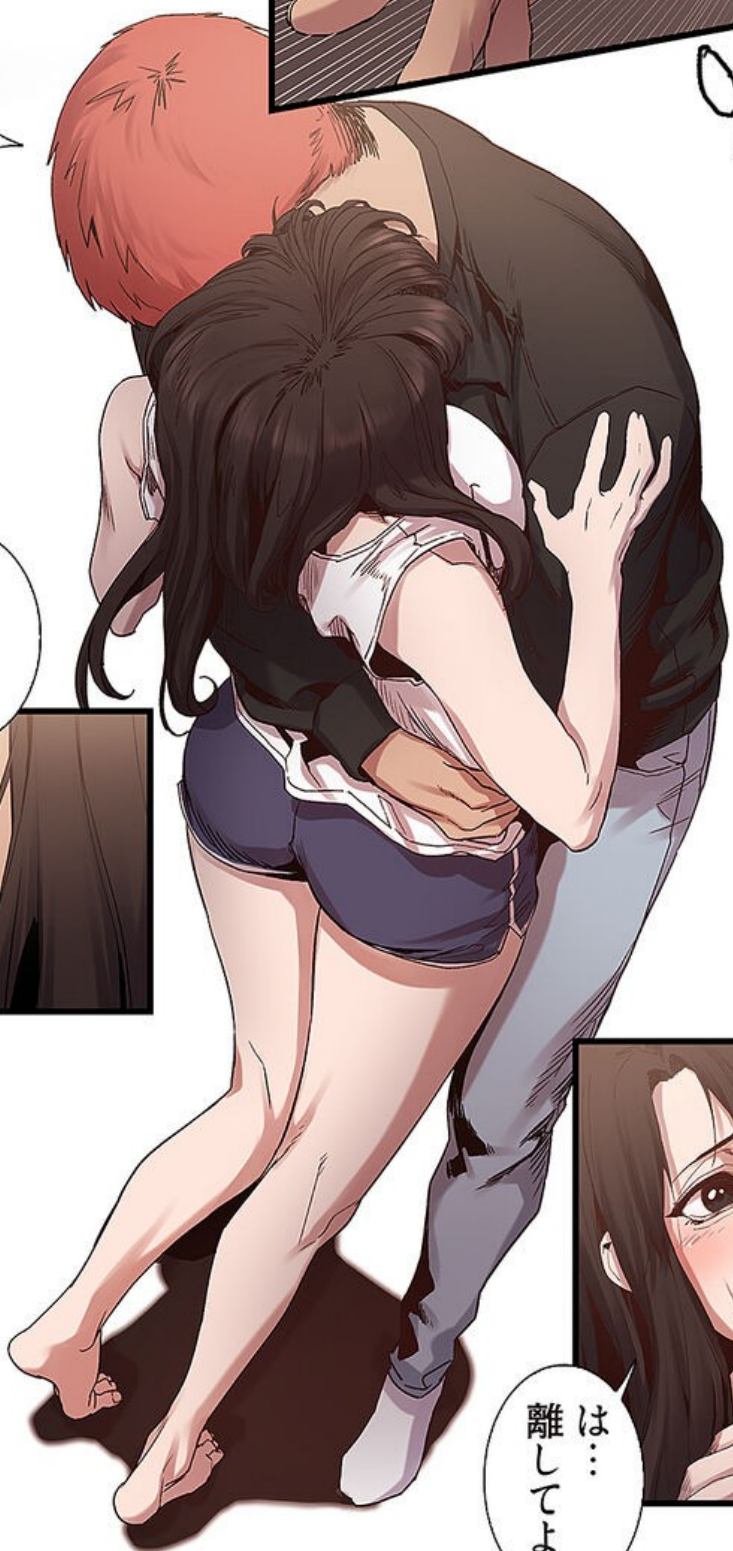
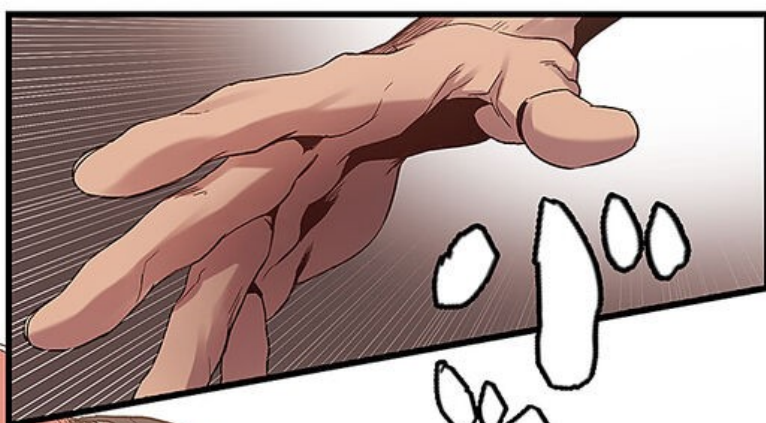


何を
謝るの？

何が
悪かったか
はつきり
謝ってよ







悪かった
本当に

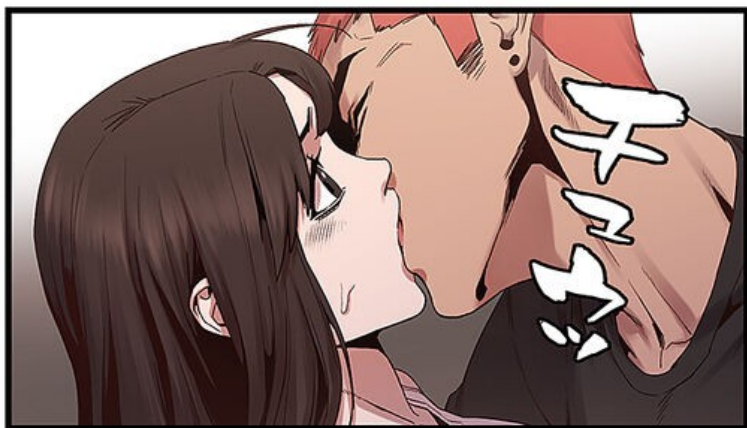
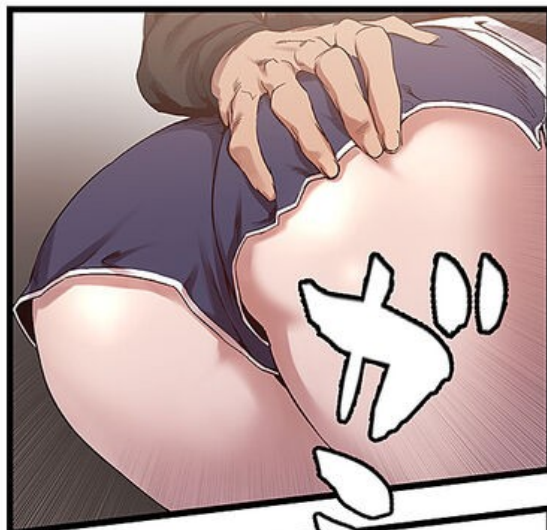
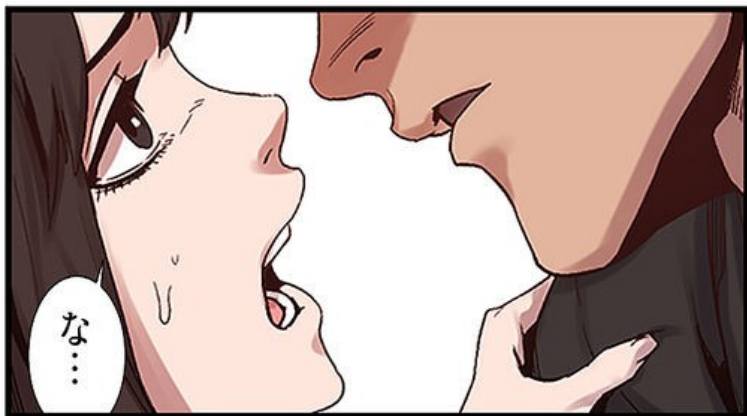
わ…
わかれば
いいから

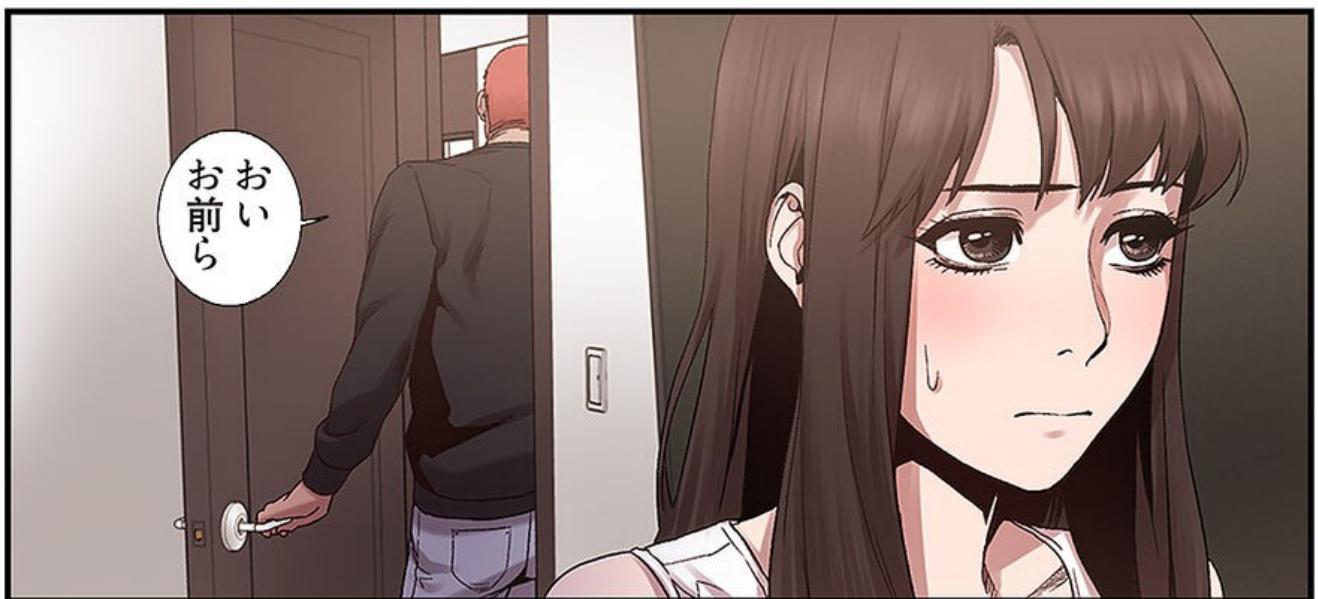
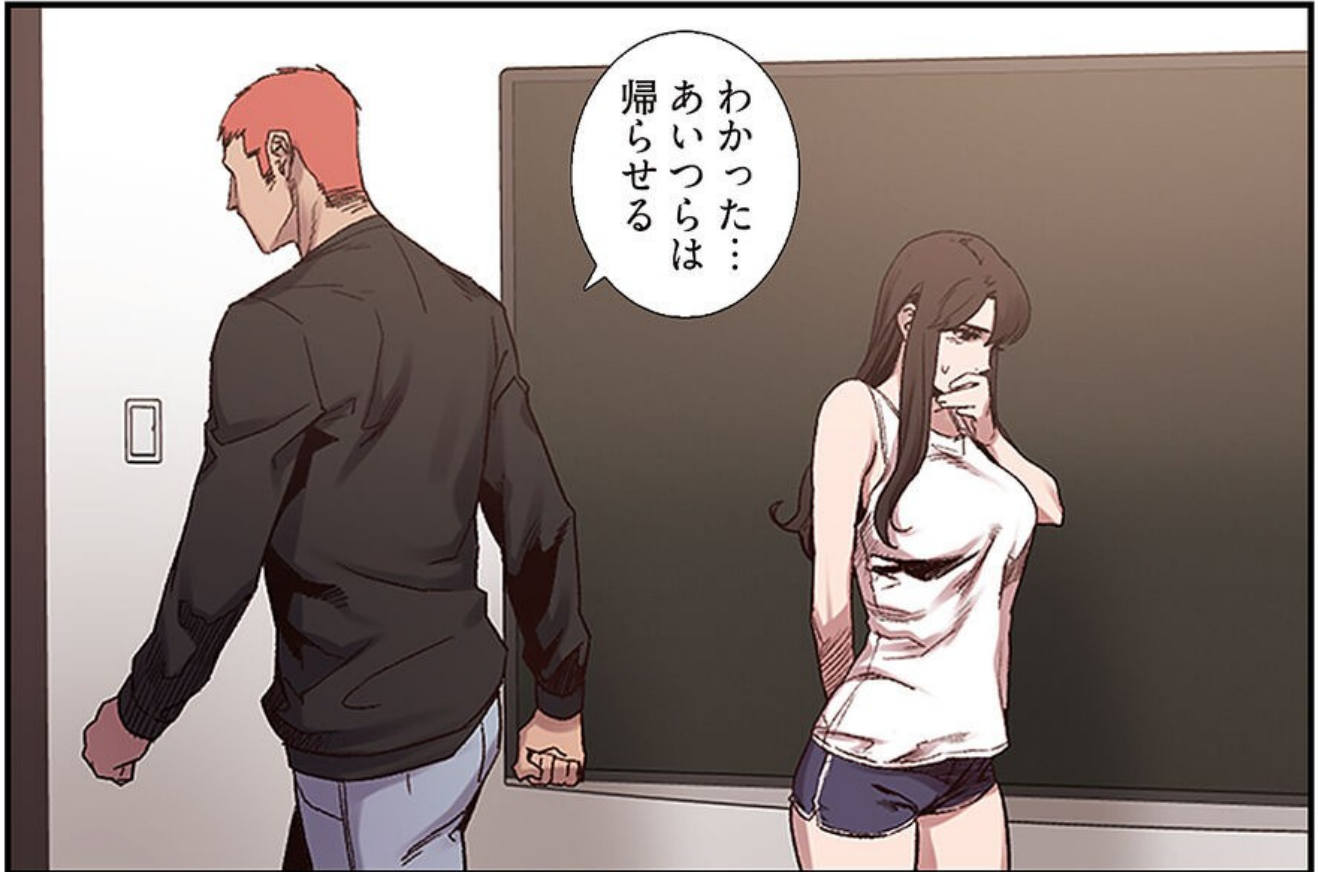
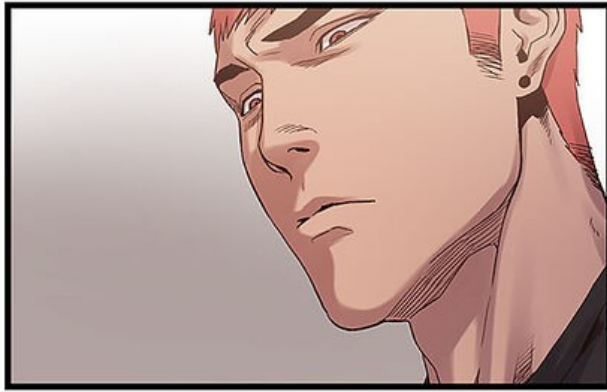


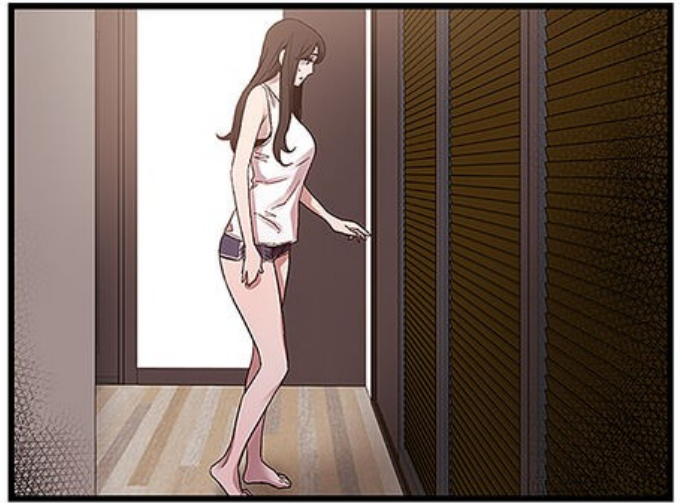
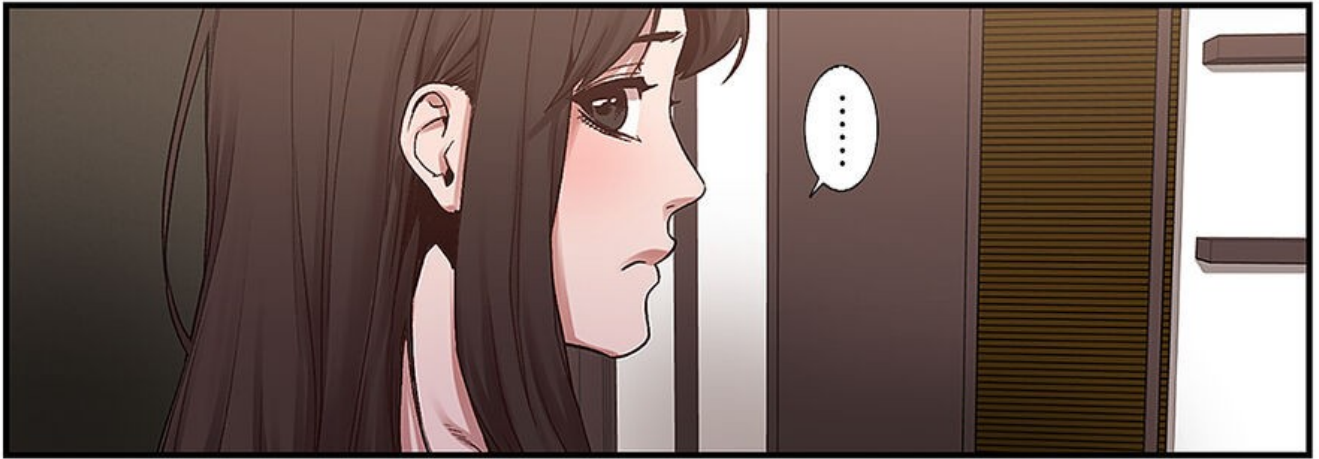
だから
許してくれ

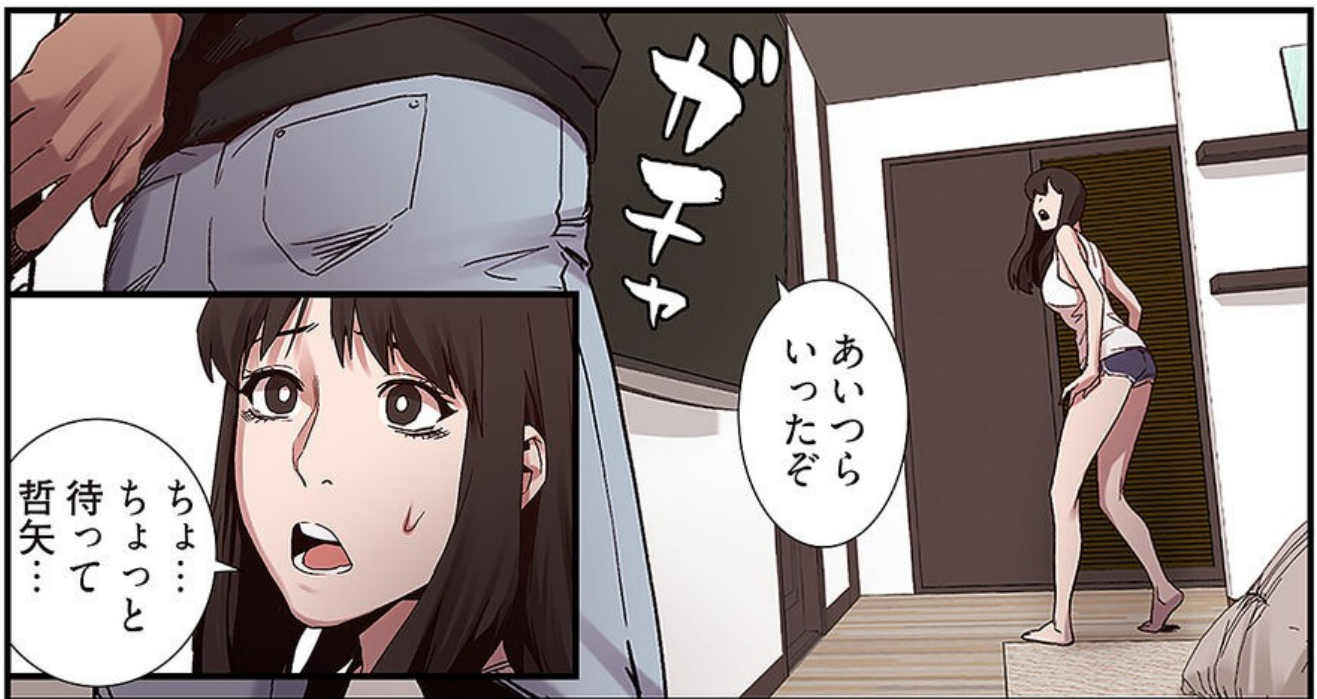
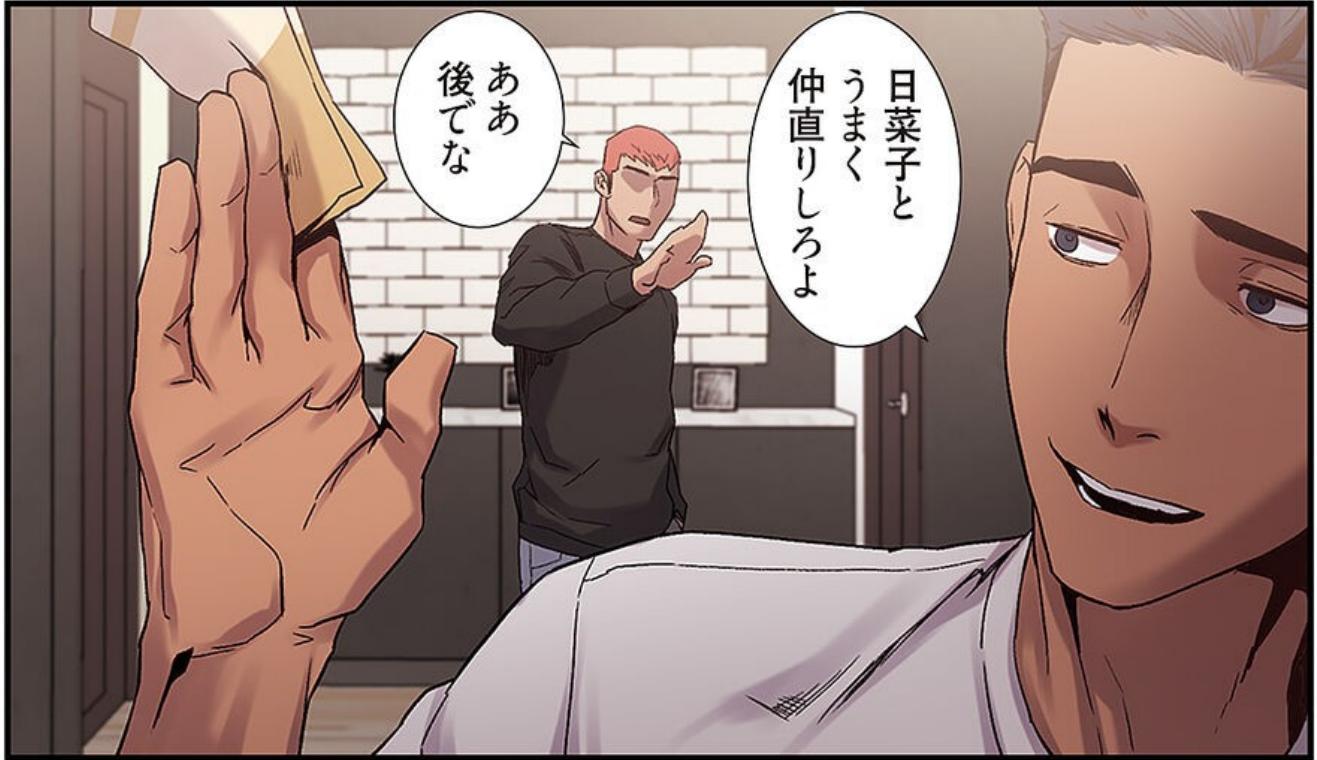


は…
離してよ

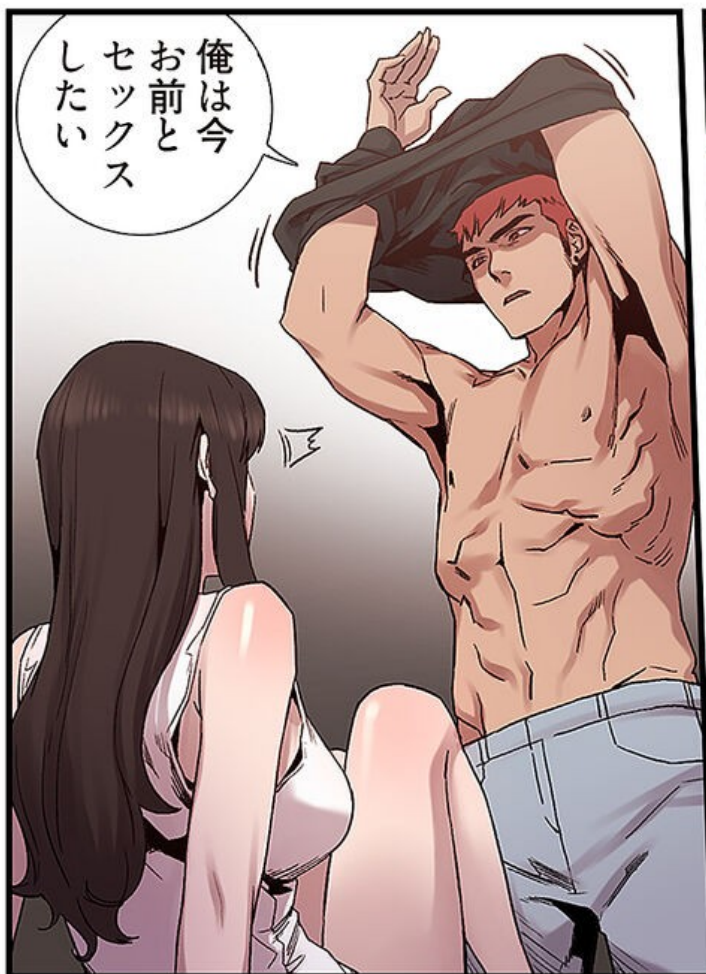














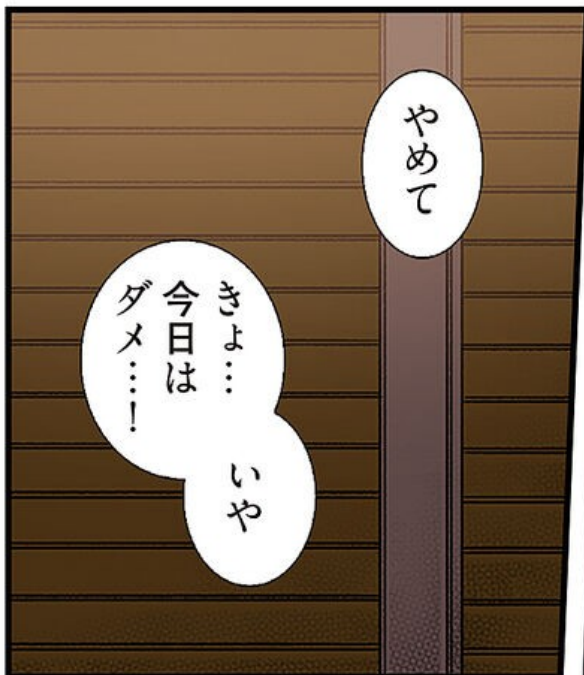
ダメ!

私たちがさっきケンカしたばっかじゃない

ケンカしたらすぐ仲直りする



って 決めたのはお前だろ

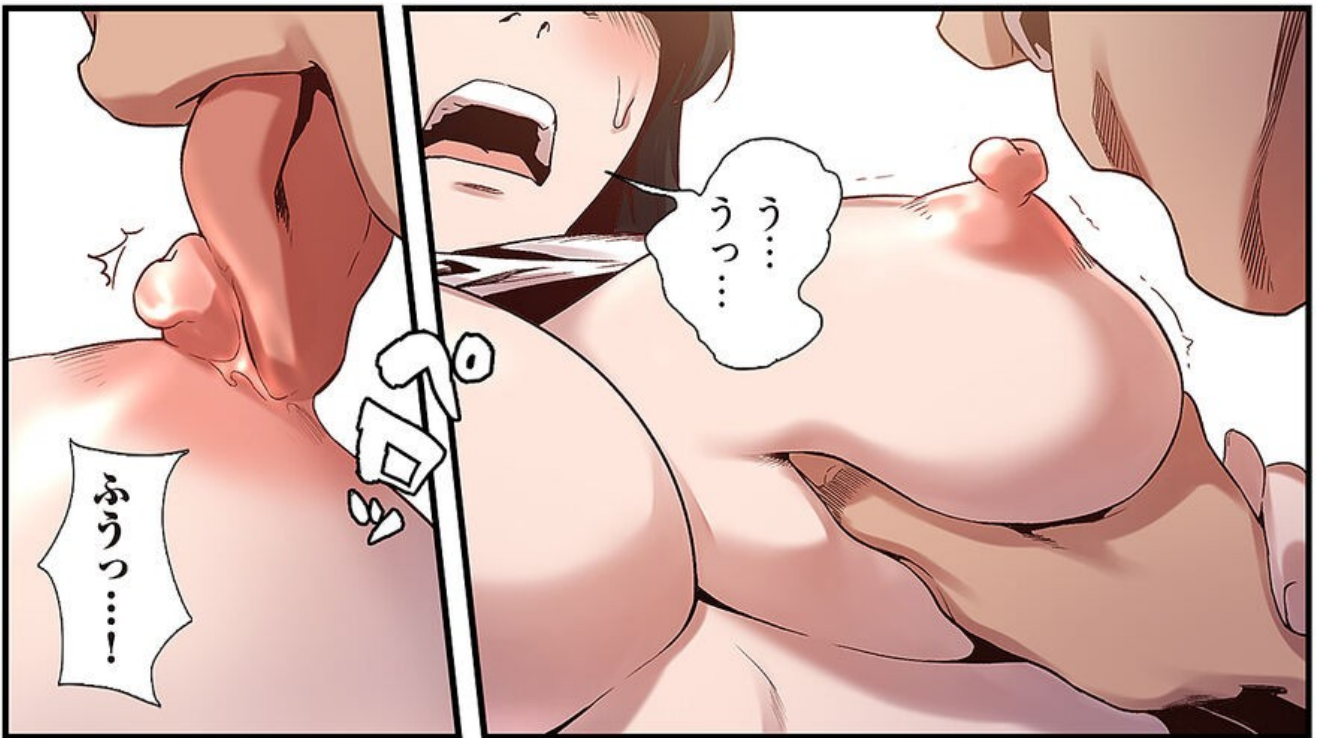
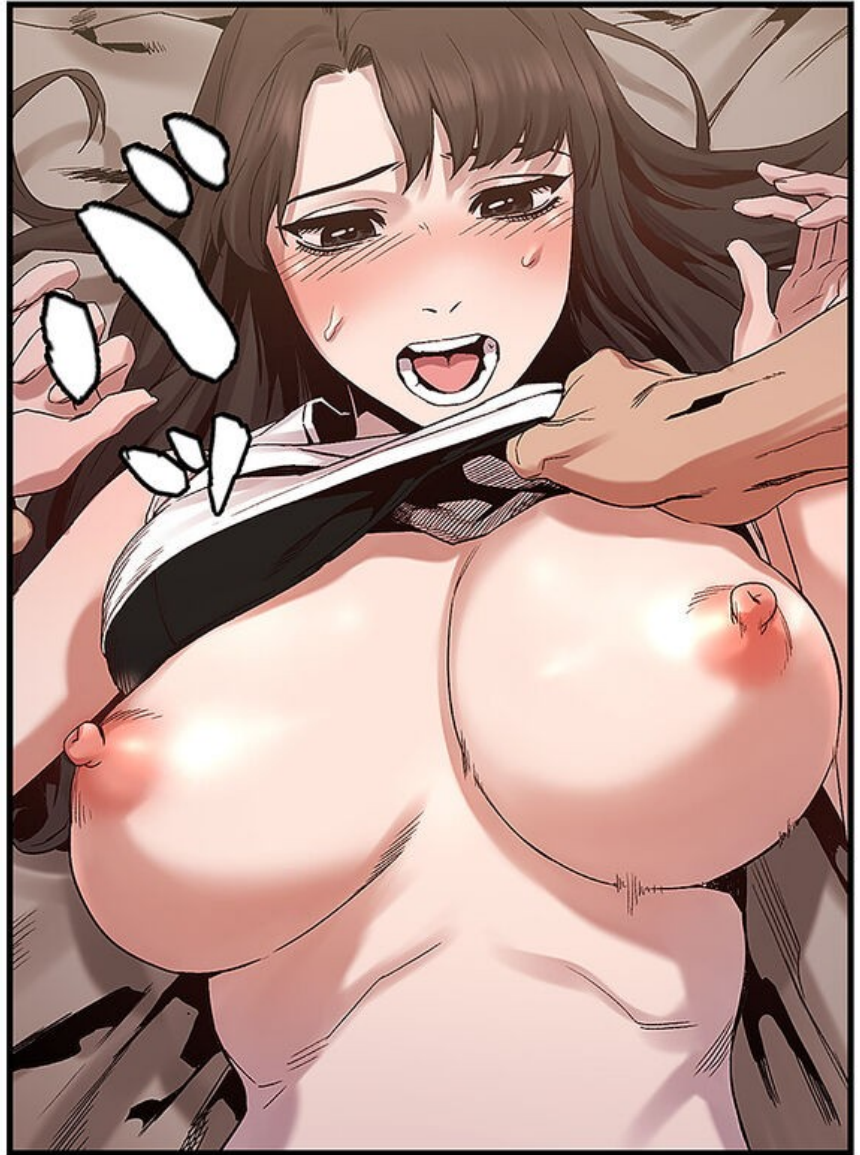


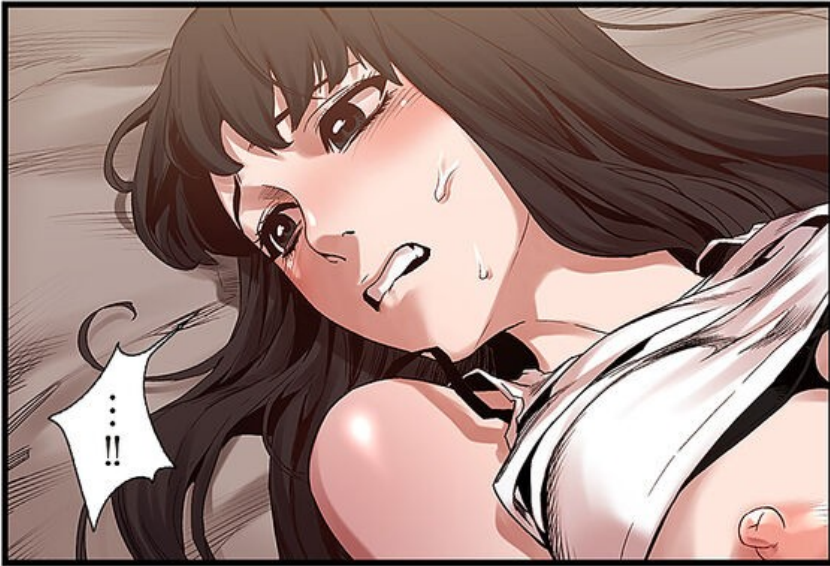
やめて

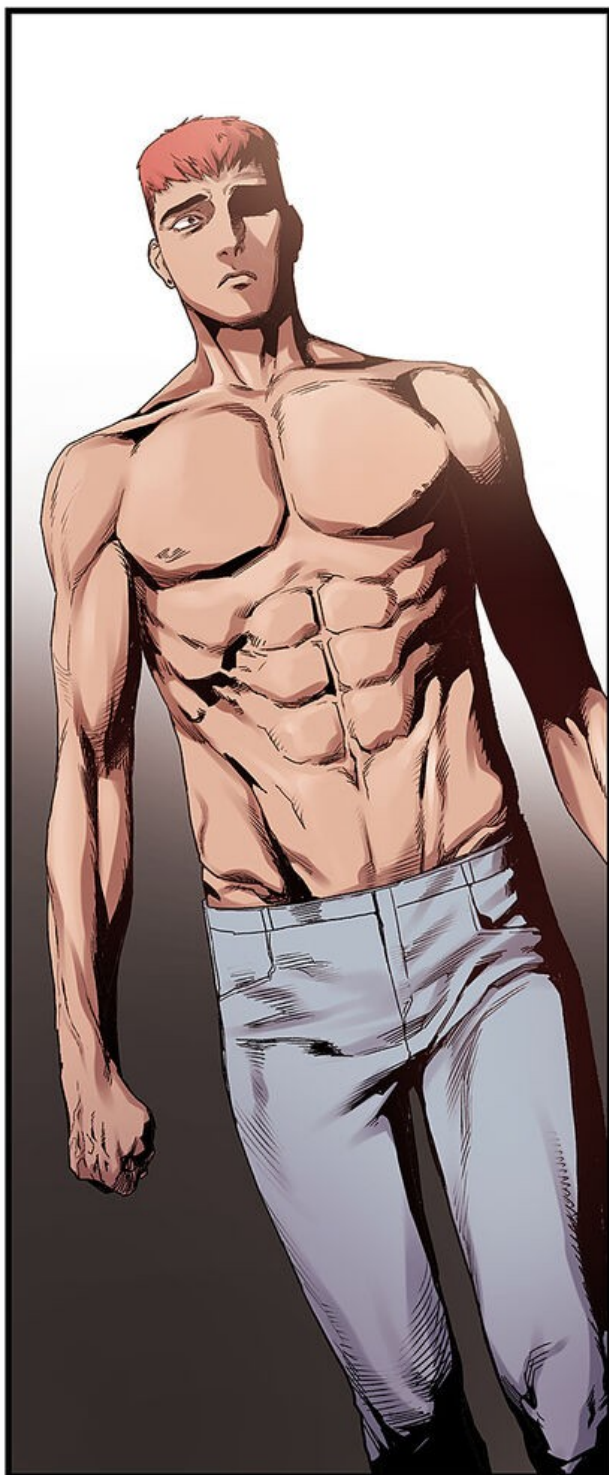
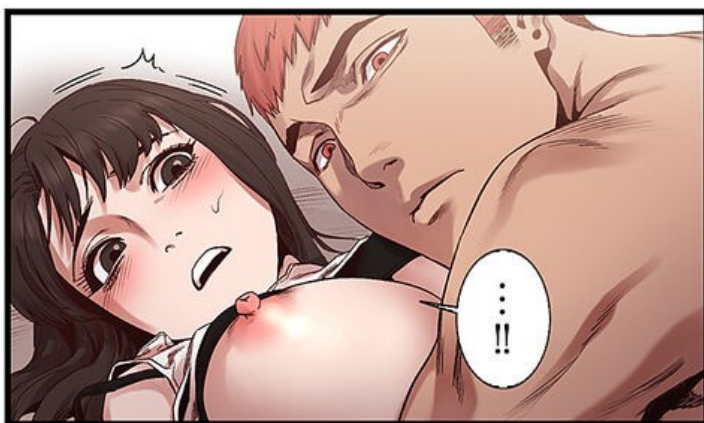
きよ... いや 今日はお前... ダメ...!



うっ...!

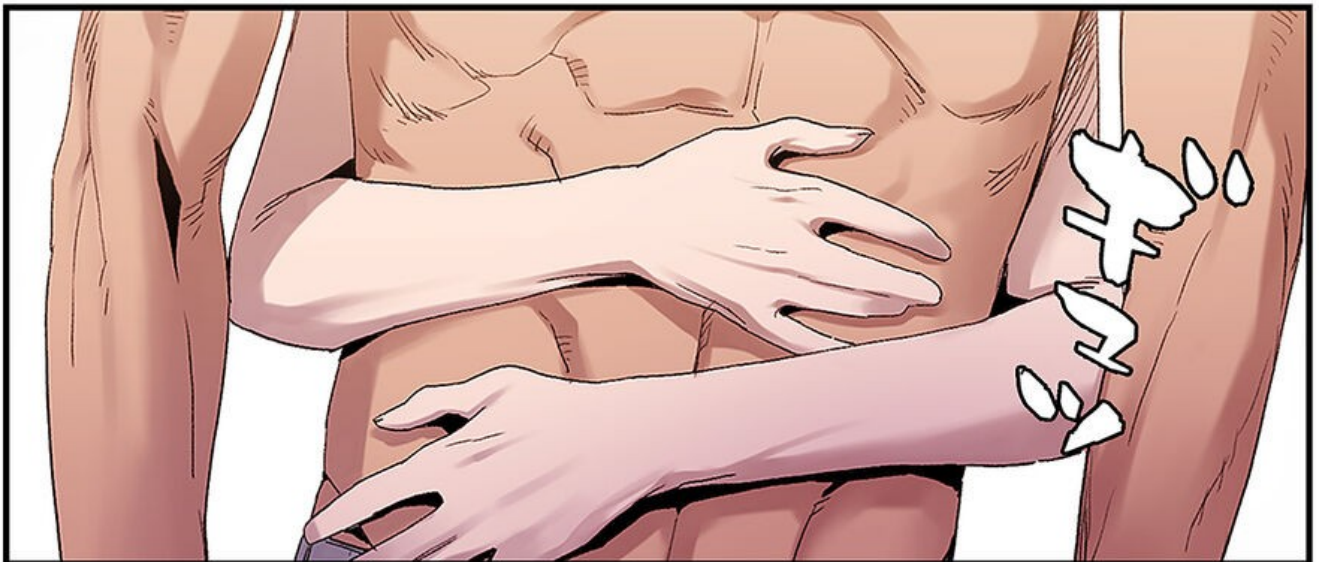
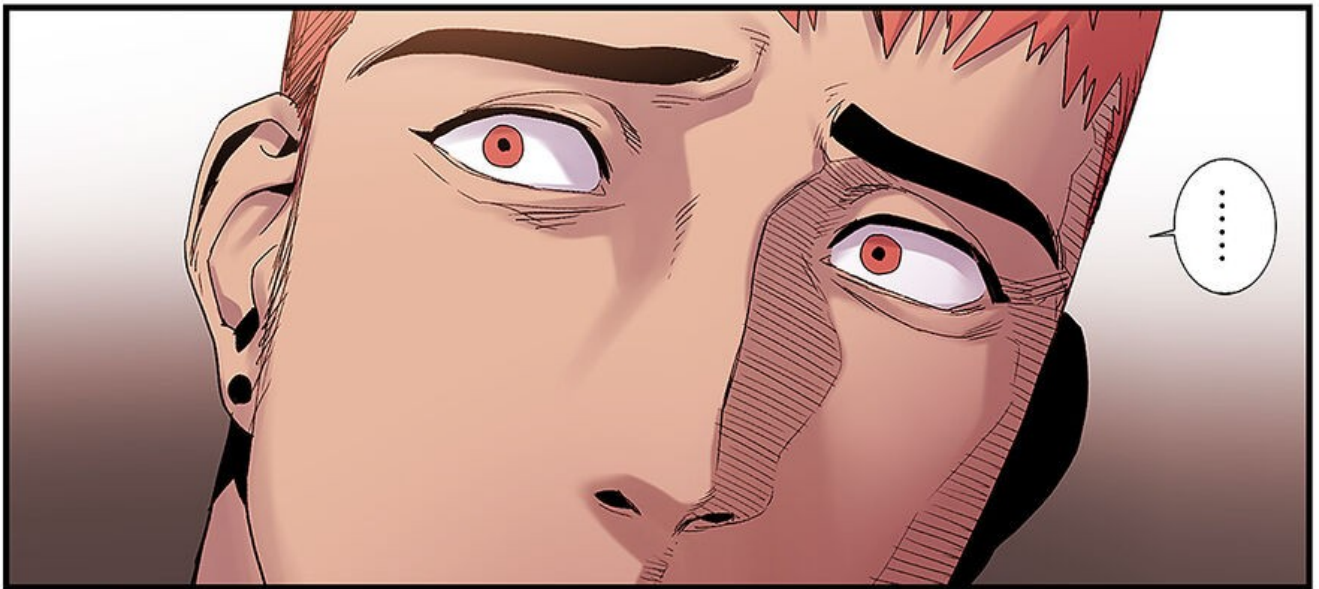
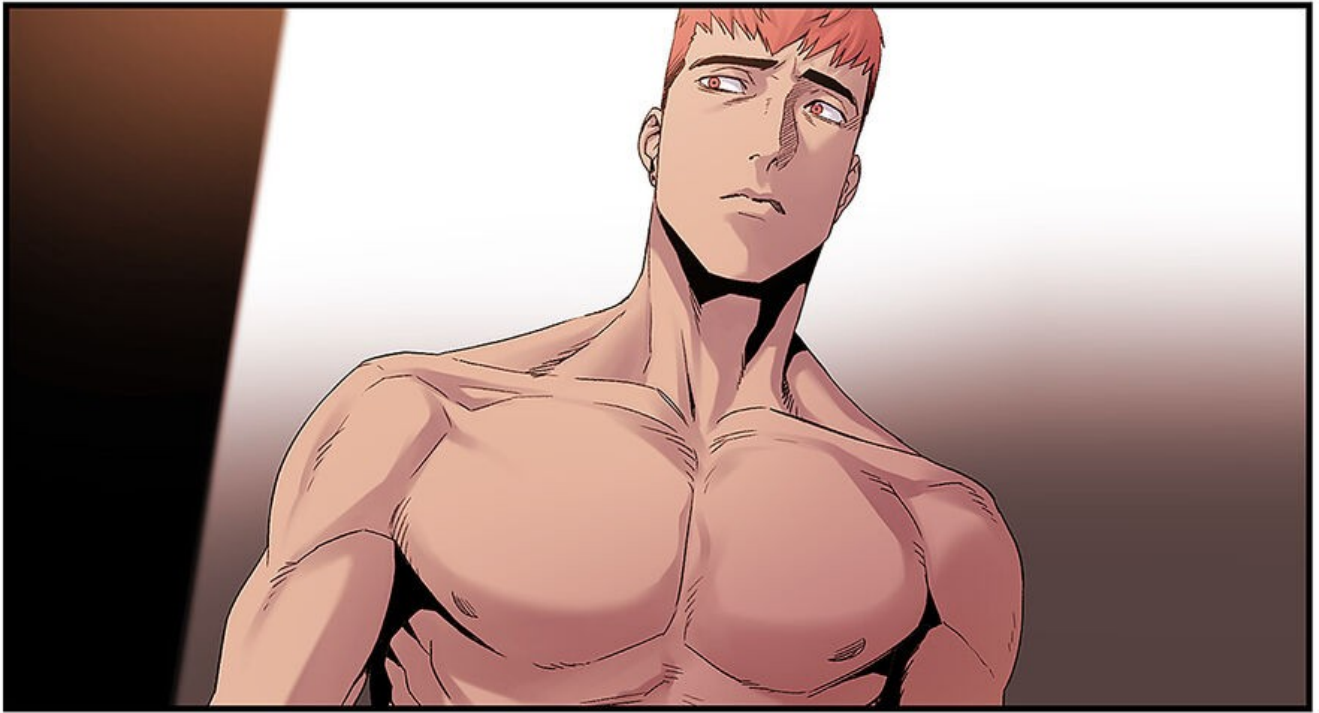


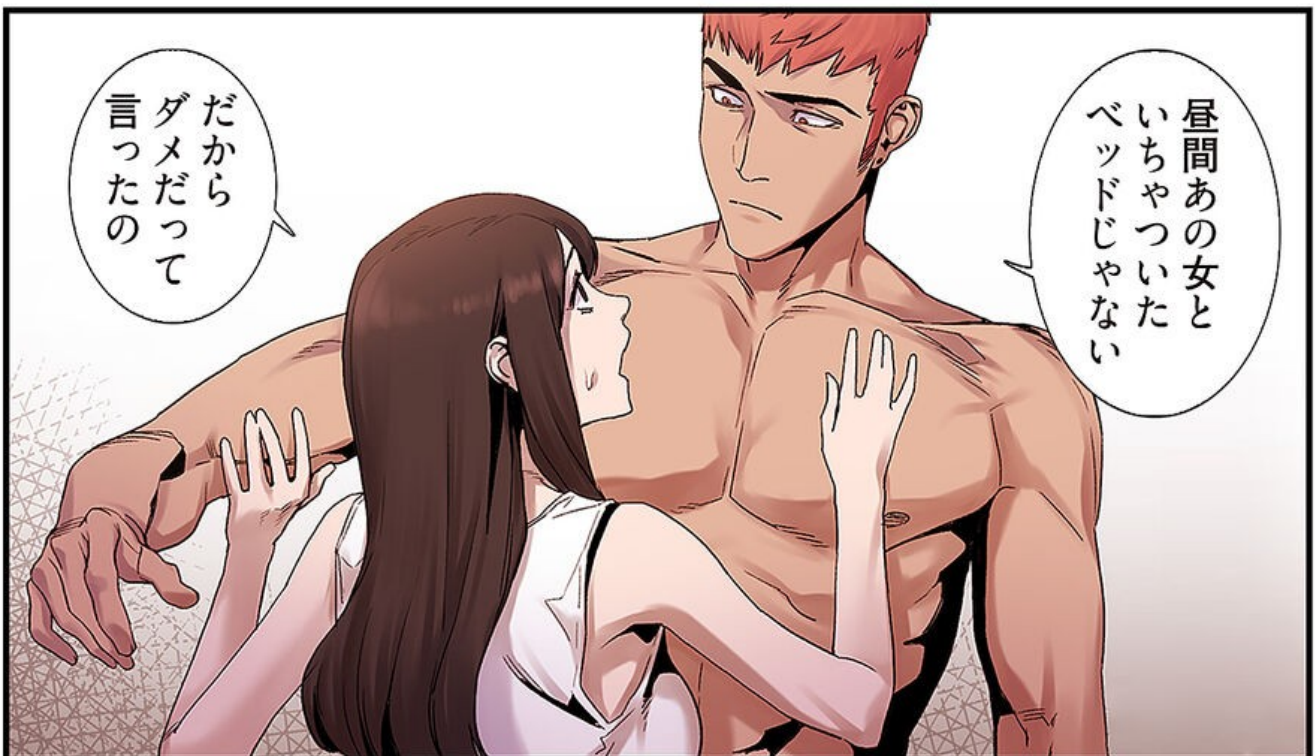
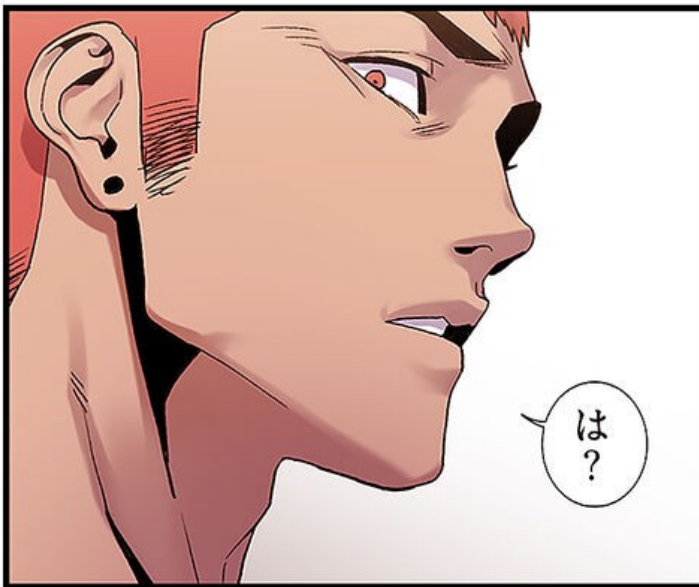
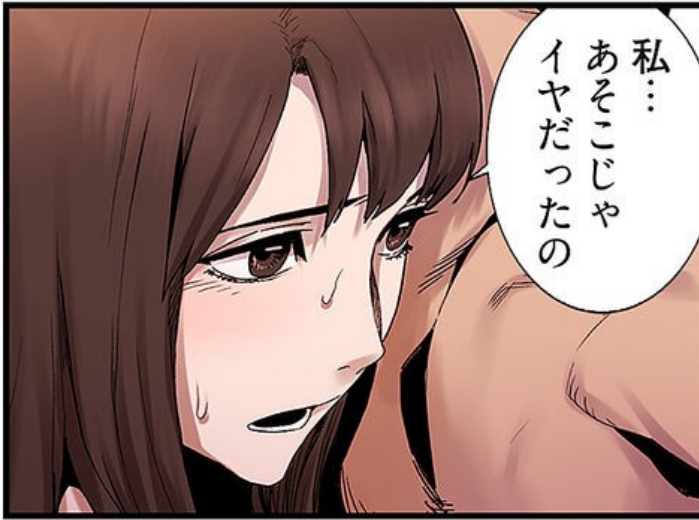




生
殘
賭
博

生
殘
賭
博







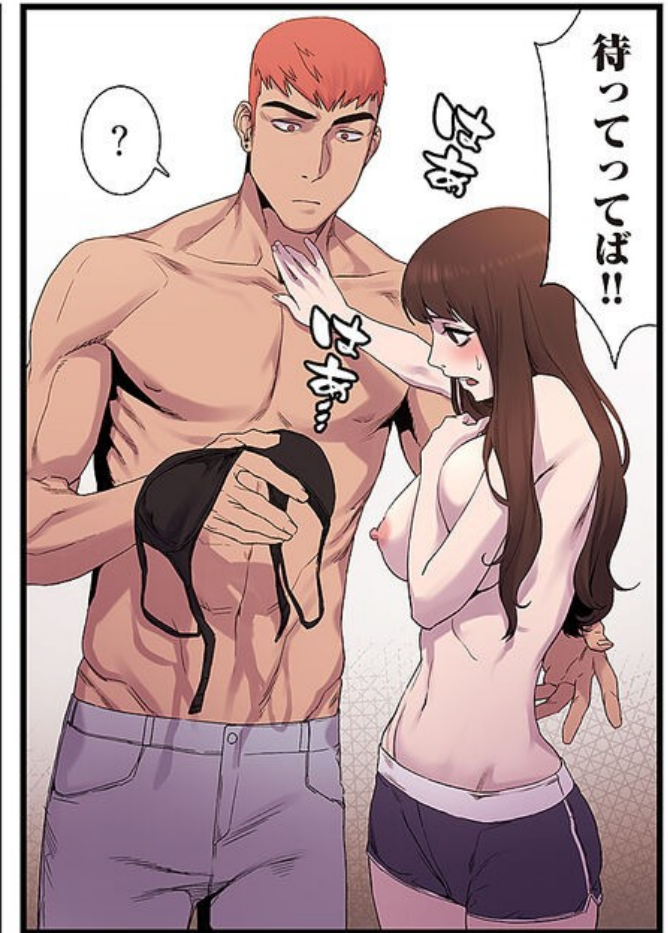


オツケー
ここで
しよう

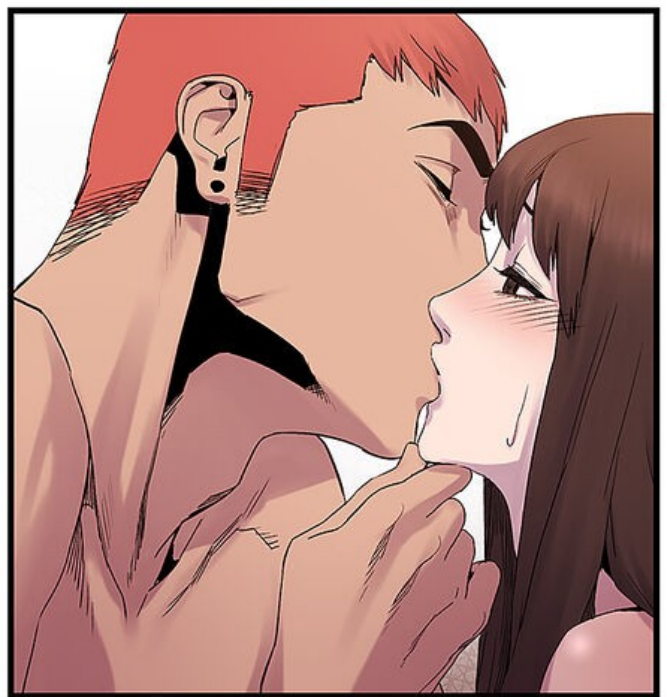
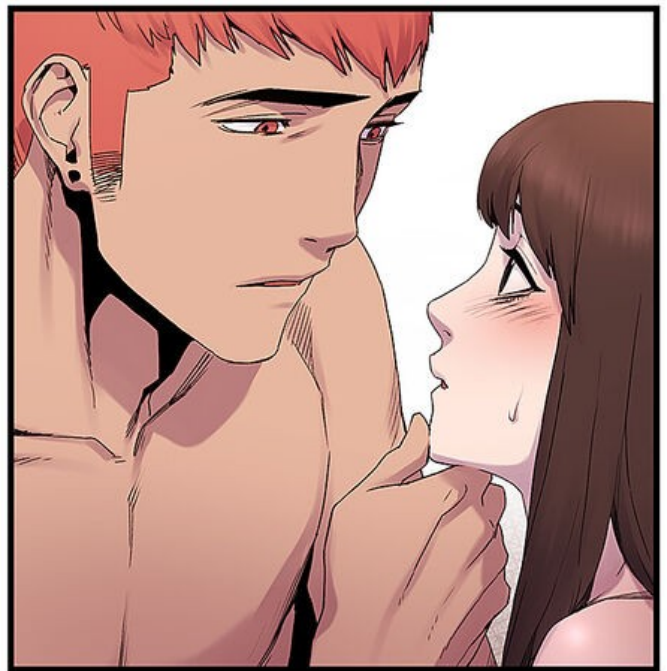
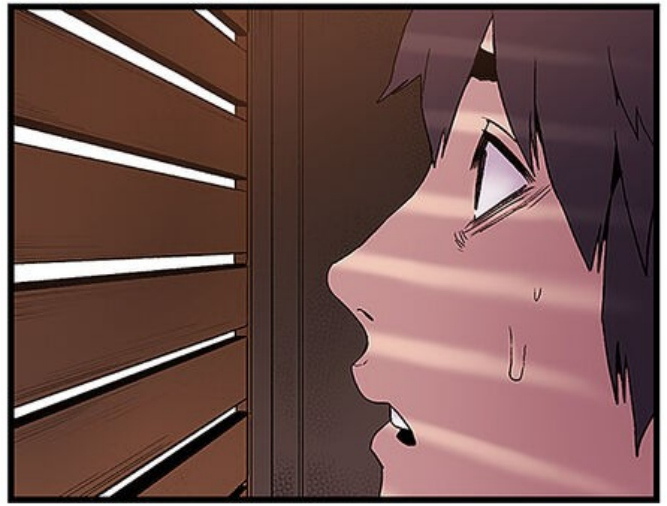
はあんっ
!!!

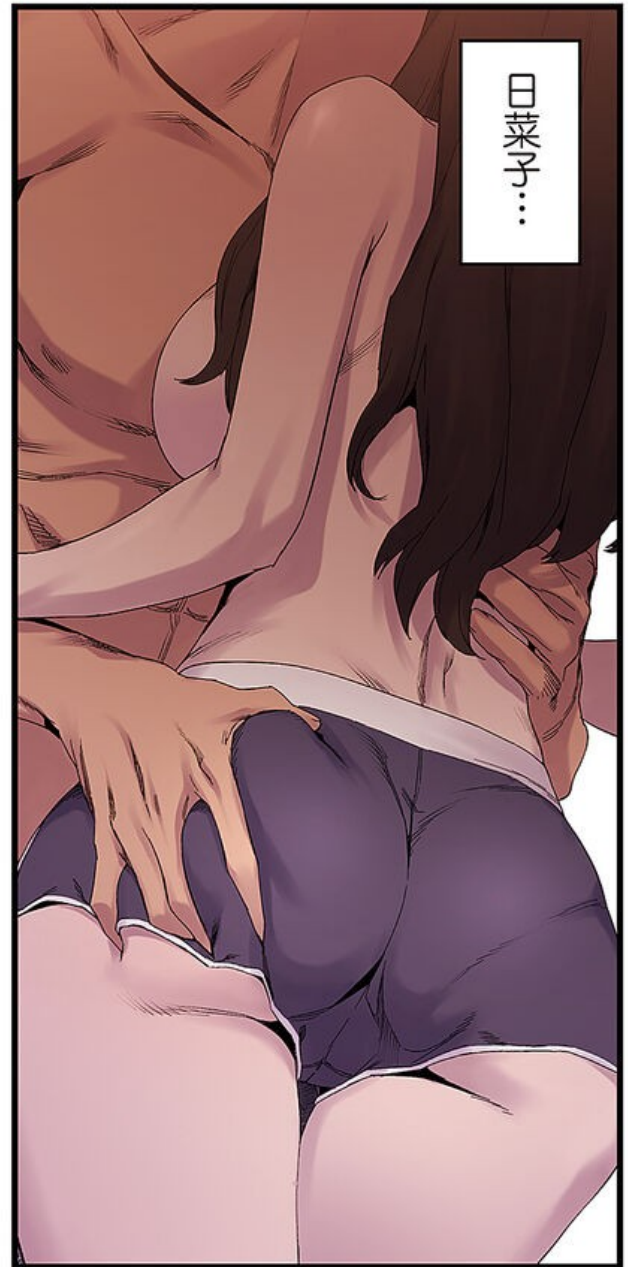
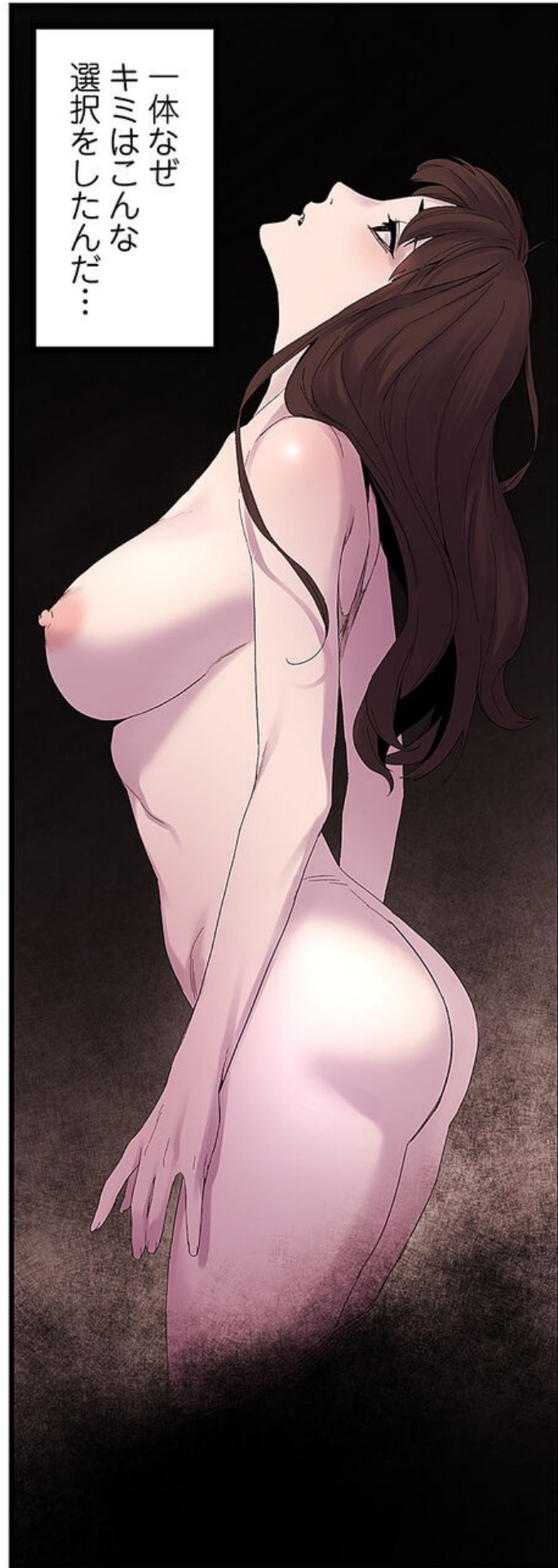
ア
ア
ア

ア
ア
ア











日菜子が
哲矢に
話しかけた
その瞬間



私

今日から
あなたと
付き合うこと
にしたから



一番
驚いたのは
日菜子ー

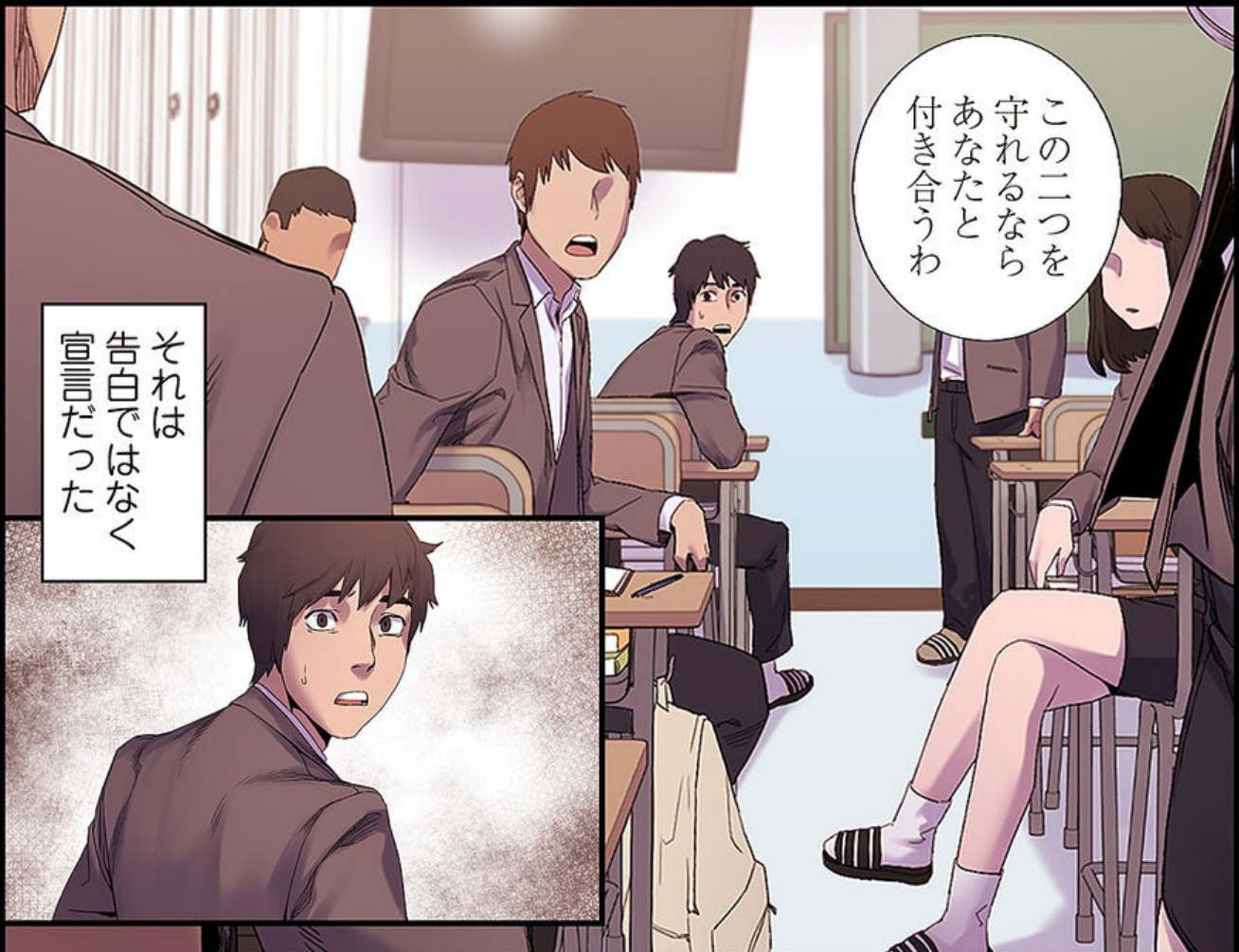
彼女自身
だったのかも
しれない





あなたが遊びで
付き合ってる
子たちとは
もう会わないで
ほしい

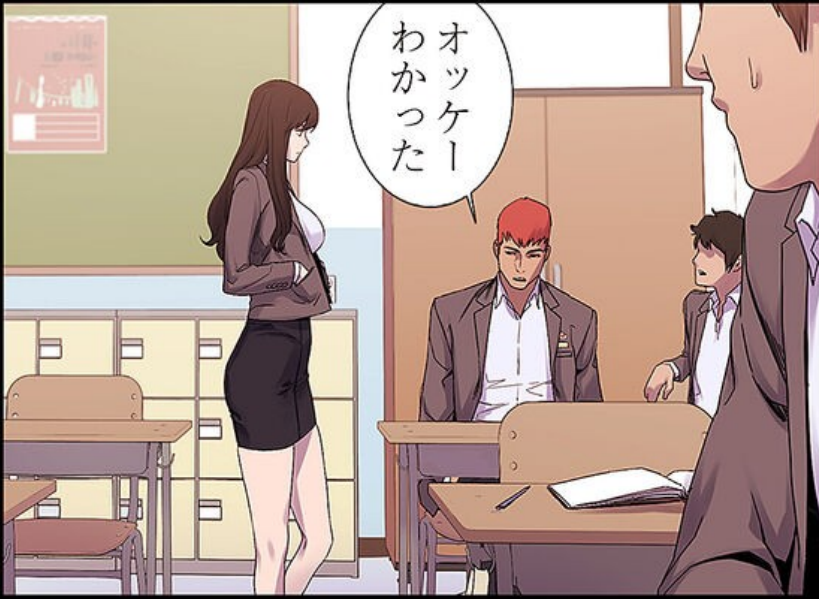
それから私に
敬意をもって
接してほしい



この二つを
守れるなら
あなたと
付き合うわ

それは
告白ではなく
宣言だった





オツケー
わかった



誰にも
口出しできない
高飛車な宣言

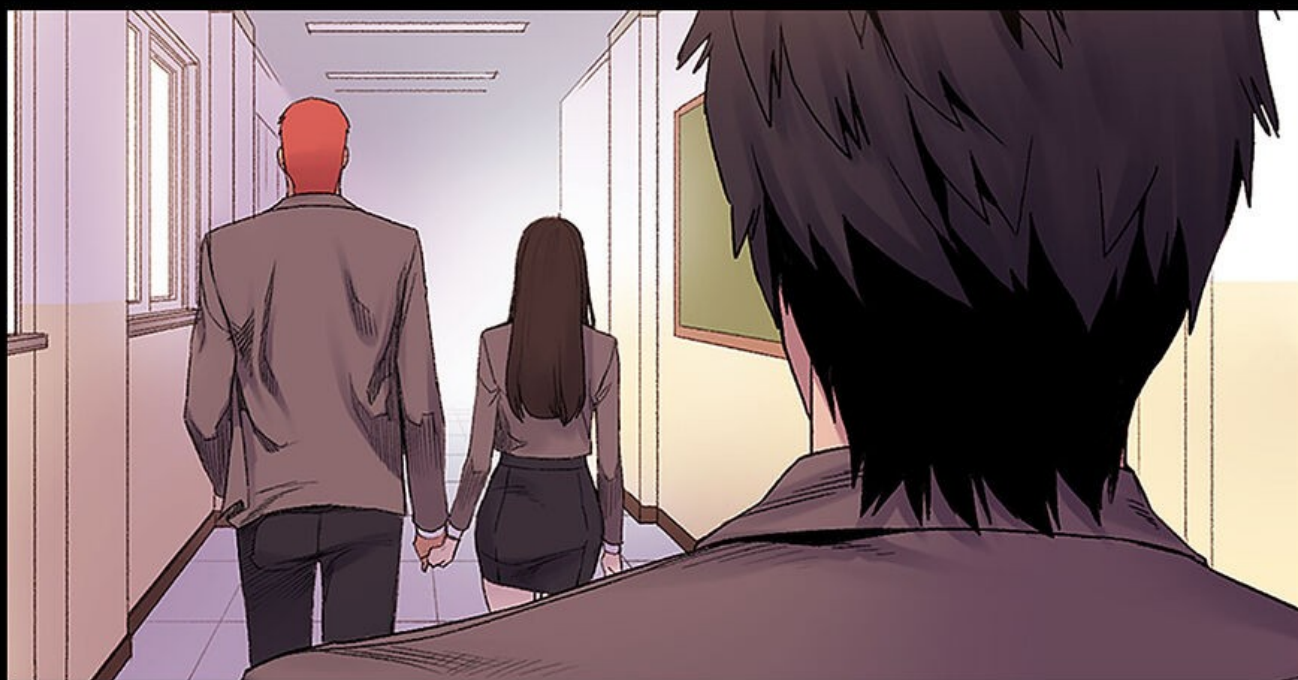


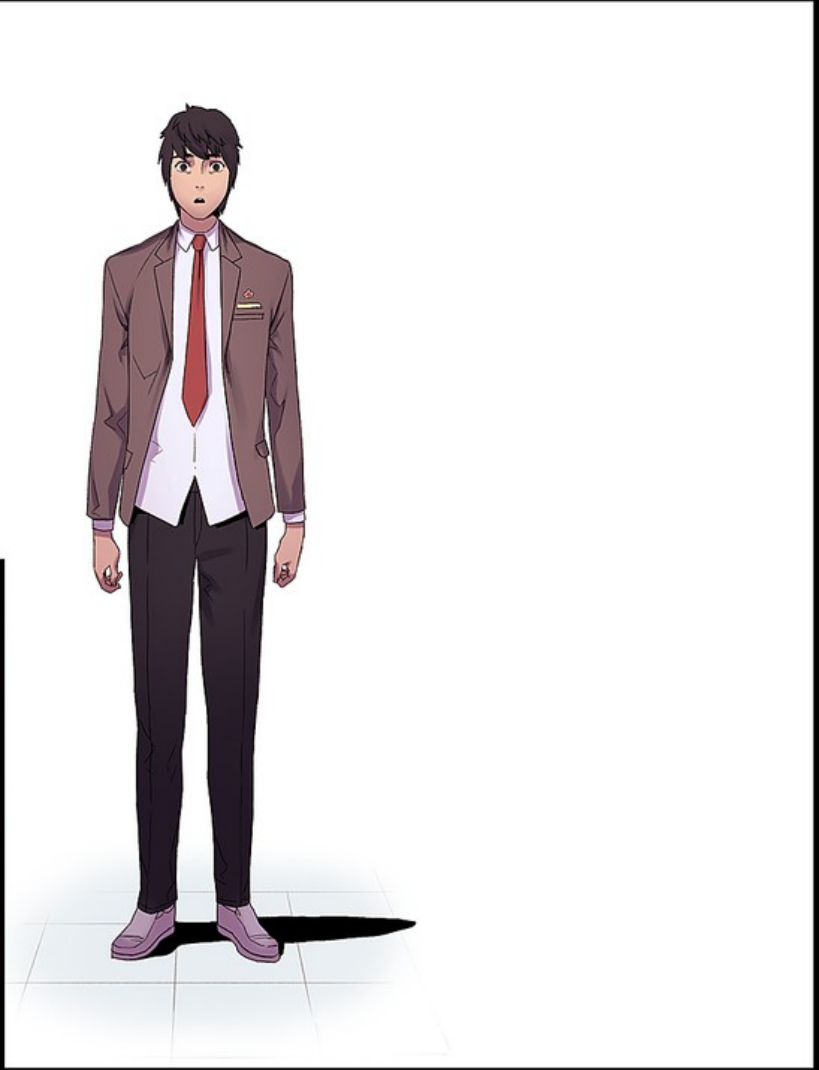
僕の知る限り
あの二人が言葉を
交わしたのは

その時が
初めてだった

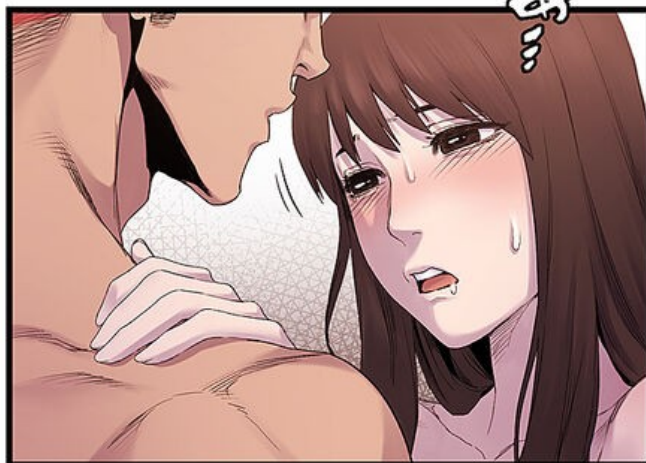
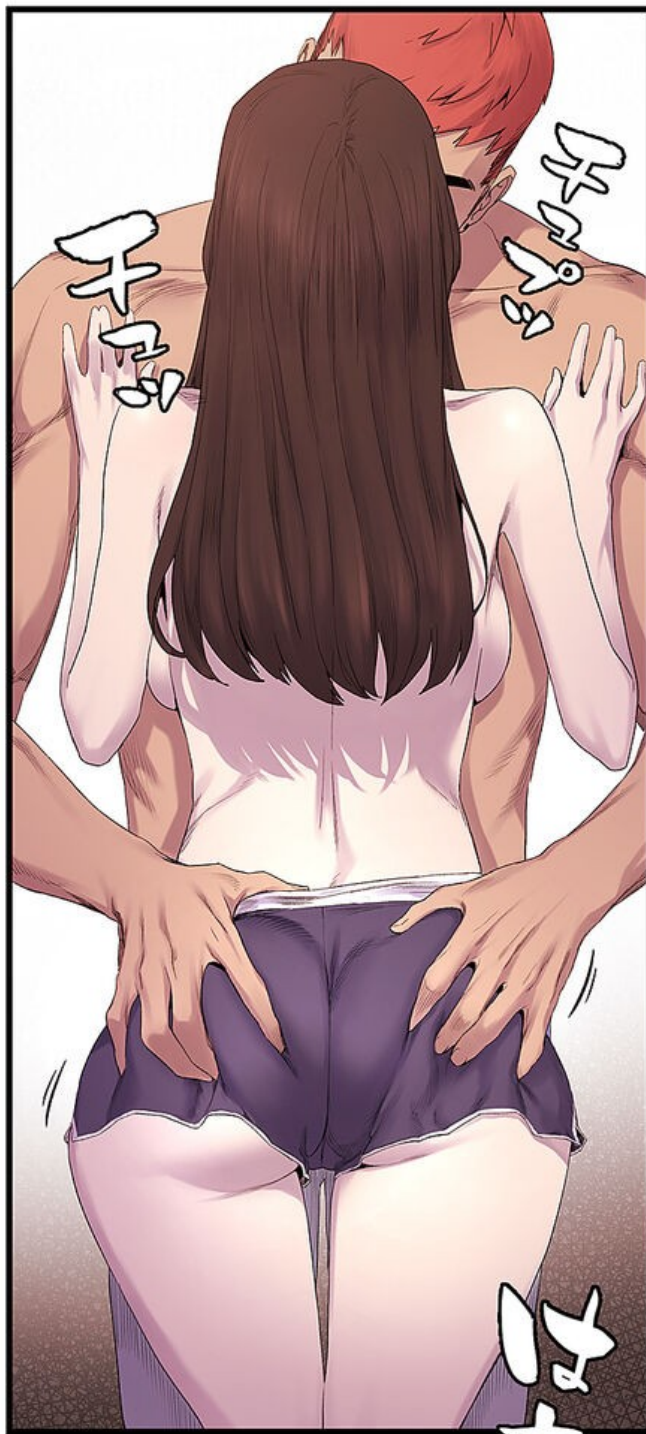
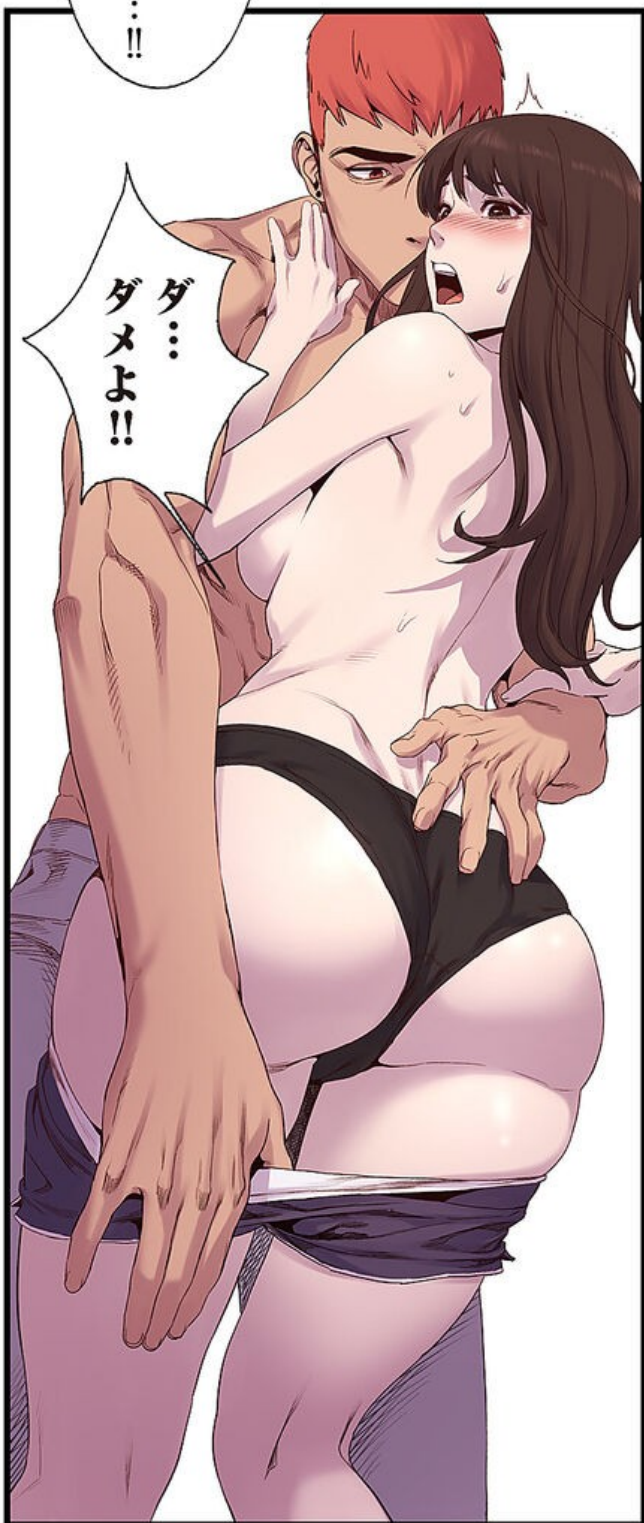
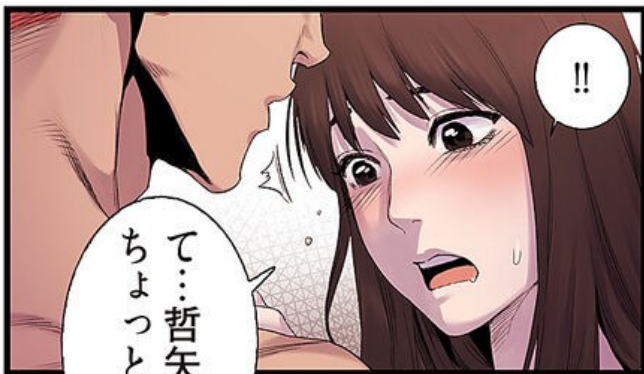
それまで
二人は

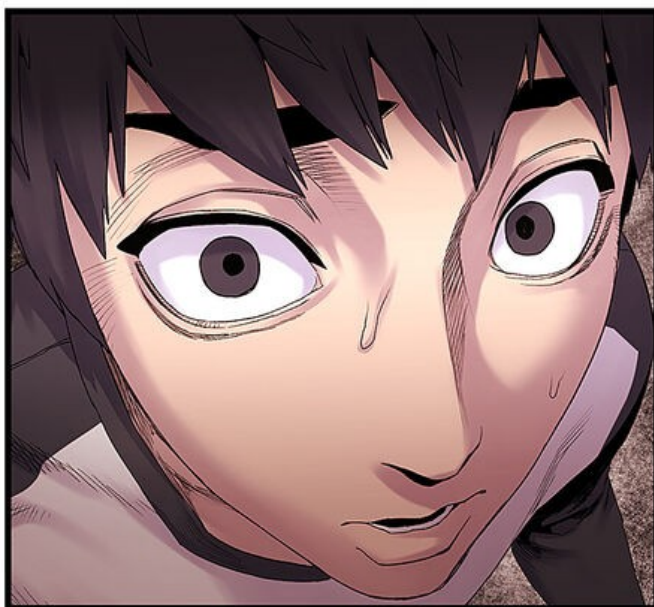
互いの存在を
無視し
完全に別の世界で
暮らしていた

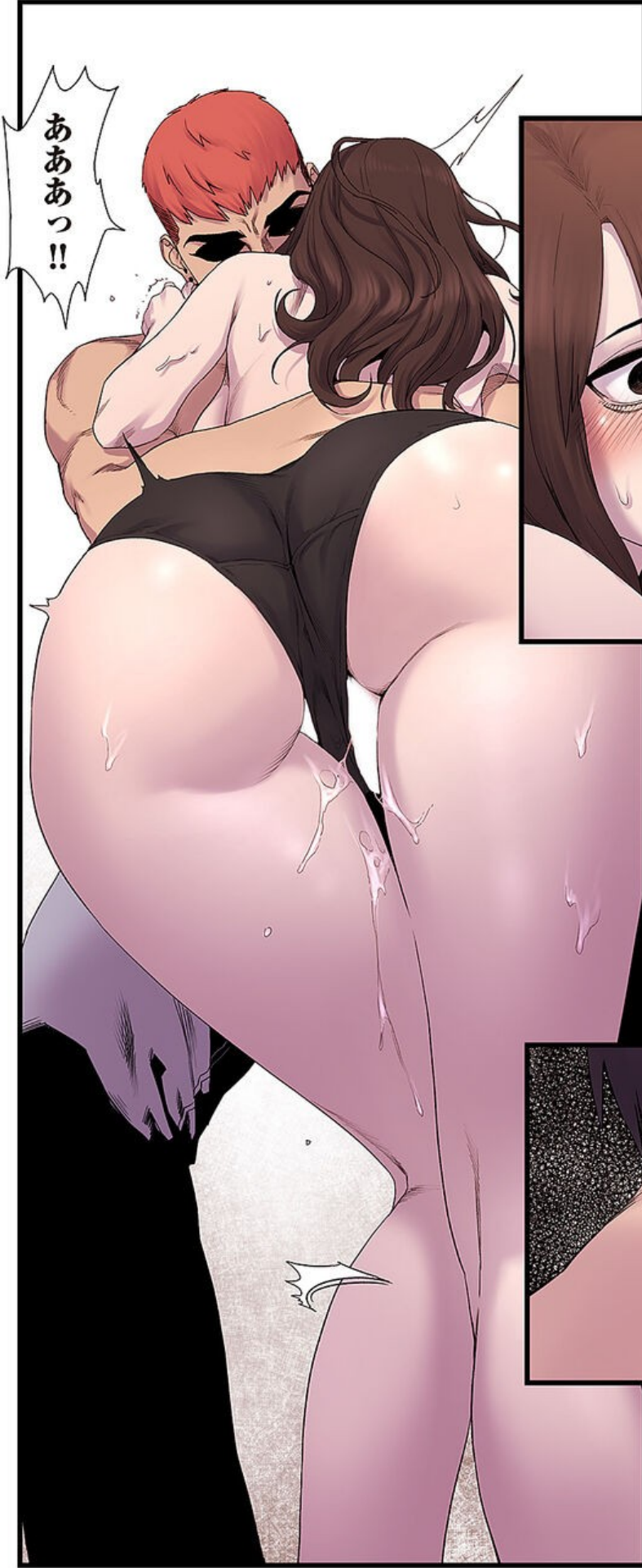




一体
どうして
日菜子…







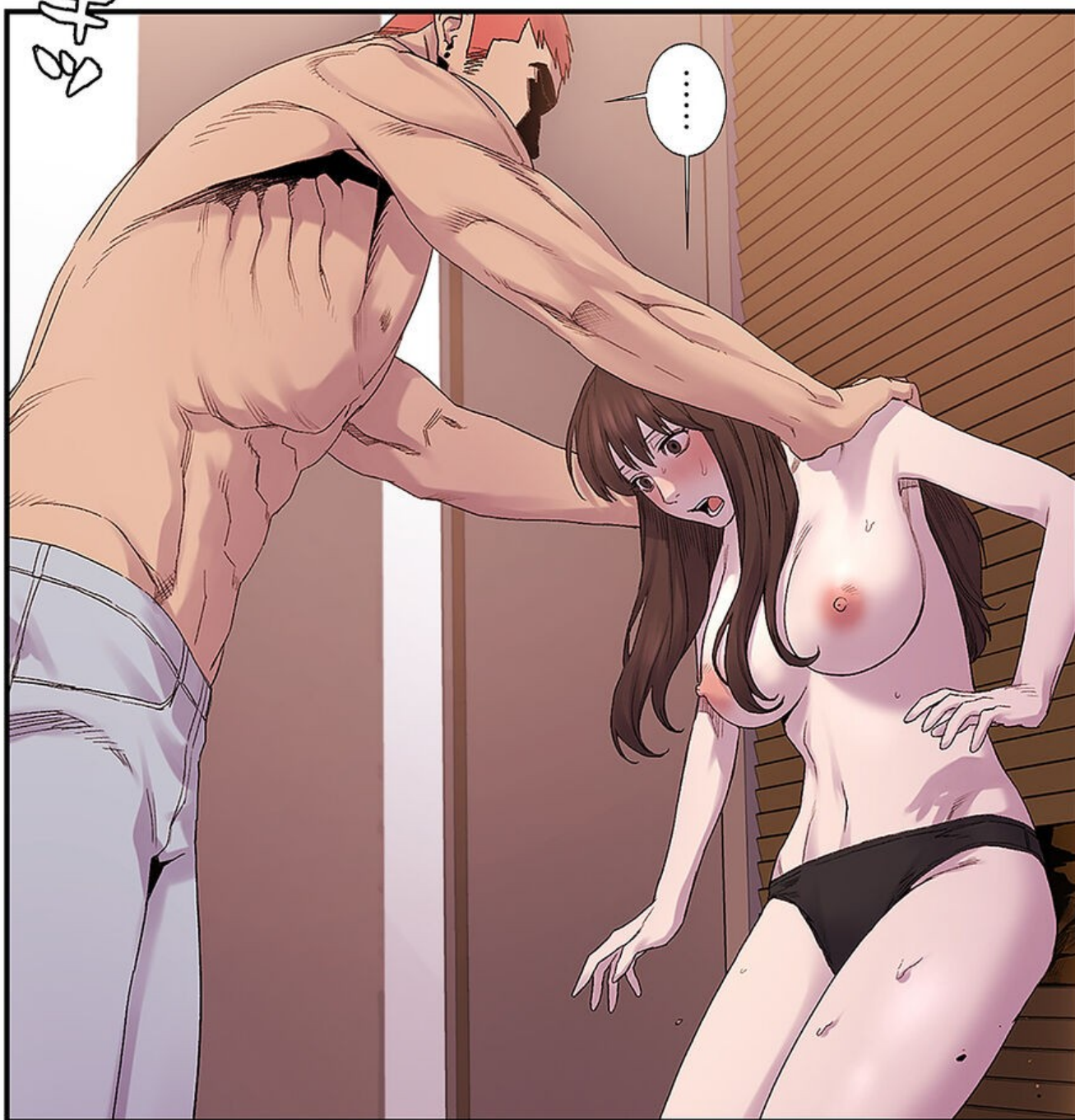
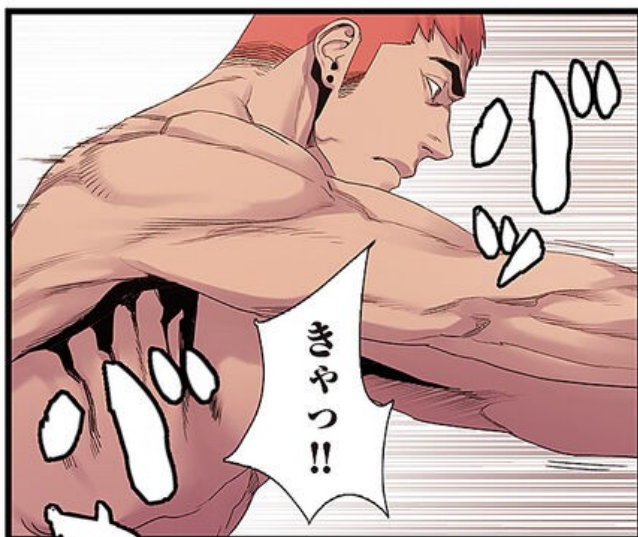
あああっ!!

!

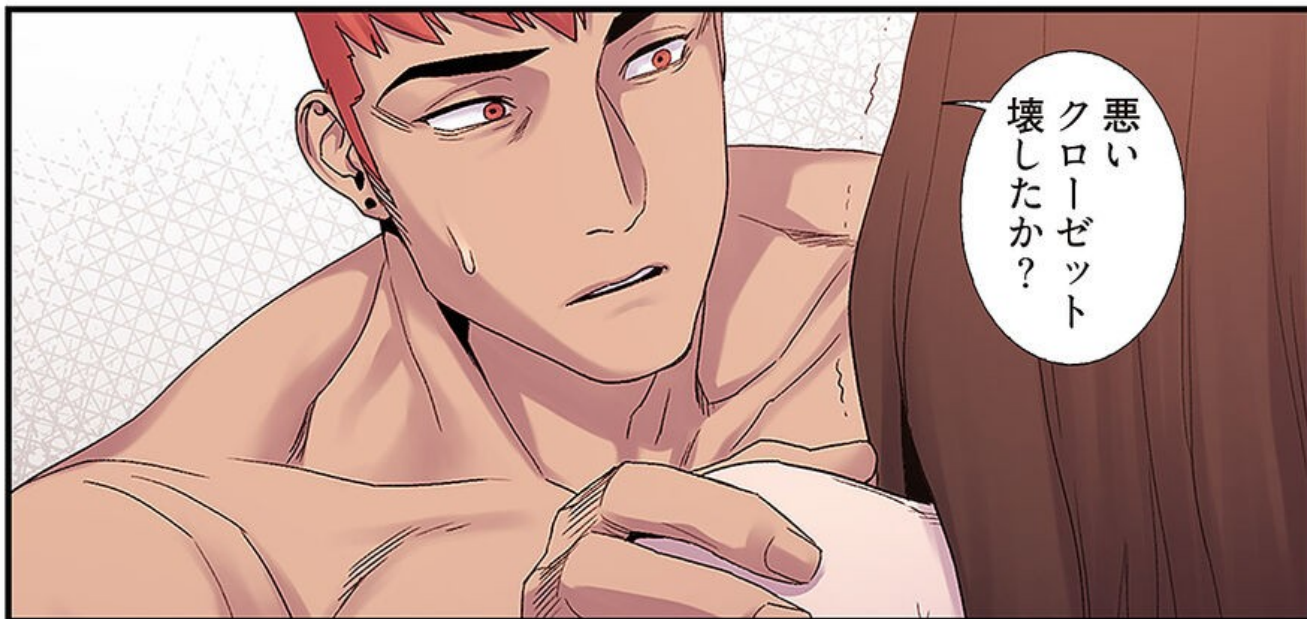


イヤだね
お前が
グシヨグシヨに
なるまで
やめない









悪い
クローゼット
壊したか？



…どけよ
見るから